

**(仮称)第3次城陽市総合計画策定に係る
まちづくり市民アンケート**

報 告 書

平成18年3月

城 陽 市

はじめに

本市では、平成6年に第2次城陽市総合計画を策定し、「緑と太陽、やすらぎのまち・城陽」をめざすべき都市像に、計画を推進してまいりました。

この間、本市を取り巻く環境は少子高齢化の進行や情報化社会の到来、地方分権の進展など、社会経済情勢が大きく変化し、さらに人口減少や長引く景気低迷の影響などにより都市構造や行財政構造などに変化が生じております。

このため、将来的な視点と展望に立った新たな総合計画（仮称）第3次城陽市総合計画の策定に着手いたしました。

このアンケートは、市民の皆さんの意識やまちづくりに対する意向などを調査させていただき、新たな総合計画策定の基礎資料として活用することを目的に実施いたしました。

調査にご協力いただきました皆様方にお礼申し上げますとともに、今後一層の市政に対するご理解とご協力をお願い申し上げます。

平成18年（2006年）3月

城陽市長 橋本昭男

目 次

1 . アンケート調査の概要	1
2 . アンケート調査結果	5
. 回答者自身について	
(1) 性別	5
(2) 年齢	5
(3) 職業	6
(4) 居住期間	6
(5) 住居形態	7
(6) 校区	7
. 城陽市のことについて	
(1) 住みよさ	8
(2) 魅力	9
(3) ふるさと感	13
(4) 永住意向	14
(5) 移りたい理由	15
. 公共サービスについて	
(1) 公共サービス提供のあり方	19
. 城陽市における施策について	
(1) 認知度、満足度、重要度	21
1) 認知度	21
2) 満足度、重要度	24

・今後の市政運営への市民参画のあり方、地域活動について	
（１）市政への参加	26
（２）市政運営に係る情報提供	30
（３）行政の役割	34
１）投資・支援の公平性	34
２）民間委託	36
３）地域への関与	38
（４）地域活動	40
・若年層の定住化対策について	
（１）強化が必要な施策	49
（２）職場確保の手段	53
・50歳代の活動について	
（１）取り組みたい活動	57
（２）活動に取り組むための行政支援	59
・自由意見	61

資料 アンケート調査票

1 アンケート調査の概要

(1) 調査目的

市民の皆さんの意識やまちづくりに対する意向などをお伺いし、第2次総合計画の評価及び(仮称)第3次総合計画策定の基礎資料とすることを目的に実施する。

(2) 調査対象

- ・市内に居住の20歳以上の方から無作為で2,000人を抽出

(3) 調査方法

- ・郵送により調査票を配布及び回収

(4) 調査時期

- ・配布開始：平成17年10月21日
- ・回収終了：平成17年11月30日

(5) 回収状況

- ・回収数：885件
- ・回収率：44.3%

(6) 調査内容

- ・回答者の属性
- ・城陽市のことについて
 - (1)住みよさ、(2)魅力、(3)ふるさと感、(4)永住意向
- ・公共サービス提供のあり方について
- ・城陽市における施策について
 - (1)認知度、満足度、重要度
- ・今後の市政運営への市民参画のあり方、地域活動について
 - (1)市政への参加、(2)市政運営にかかる情報提供、(3)行政の役割、(4)地域活動
- ・若年層の定住化対策について
 - (1)定住促進対策、(2)働く場確保の手段
- ・50歳代の活動について
 - (1)取り組みたい活動、(2)活動に取り組むための行政支援
- ・自由意見
 - (1)まちづくりについての意見及び提案

(7) 調査結果の概要

項目	概要
- (1) 住みよさ	<ul style="list-style-type: none"> ・全体では、8割以上の人住みよさを感じている。 ・年齢別では、若年層で住みにくいと感じている人の割合が高い。 ・地域別では、青谷で住みにくいと感じている人の割合が高い。
- (2) 魅力	<ul style="list-style-type: none"> ・「自然環境に恵まれている」が49.7%、「住宅地として住みやすい」が40.3%、「通勤・通学・買物などが便利である」が39.2%。 ・年齢別では、30歳代、50歳代で「通勤・通学・買物などが便利である」の割合が高い。 ・地域別では、地域により魅力の感じ方に違いが見られる。なお、青谷では、「梅・花しょうぶなどの誇れる特産品がある」が他の地域にはない魅力となっている。
- (3) ふるさと感	<ul style="list-style-type: none"> ・全体では、「ふるさと感を持っている」が38.8%、「ふるさと感を持っていない」が37.6%であり、ふるさと感を持っている人が若干多い。 ・年齢別では、30歳代以上で年齢層が上がるにつれて、「ふるさと感を持っている」人の割合が高くなっている。 ・地域別では、古川、寺田南、富野、青谷では「ふるさと感を持っている」人の方が多いが、久津川、久世、深谷、寺田、今池では「ふるさと感を持っていない」人の方が多い。
- (4) 永住意向	<ul style="list-style-type: none"> ・全体では、永住意向を持っている人が6割以上。 ・年齢別では、60歳以上では7割以上が永住意向を持っているが、40歳代以下では5割未満。 ・地域別では、すべての地域で、「現在のところずっと住み続けたい」が6～7割であり、地域ごとに大きな違いは見られない。
移りたい理由	<ul style="list-style-type: none"> ・移りたい理由は、「交通が不便」「家が古い」「周辺の都市施設の整備が悪い」「買い物不便」が多い。 ・年齢別では、20歳代で「通勤に時間がかかる」、30歳代で「交通が不便」、40歳代で「家が狭い」など、年齢別で理由に大きな違いが見られる。 ・地域別では、久津川の「近所付き合いがうまくいかない」、深谷の「交通が不便」「通勤に時間がかかる」、今池の「家が狭い」が多い。
公共サービス提供のあり方	<ul style="list-style-type: none"> ・全体では、市民負担を増やしてまでも行政サービスを維持、拡大する意向は少ない。 ・年齢別では、大きな違いは見られないが、40歳代で「市民負担を軽減し、市民の助け合いや民間によるサービスを利用」が他の年齢層と比較して割合が低い。 ・地域別では、古川、今池で「市民負担を少し増やし、行政によるサービスを維持」が他と比較して割合が高い。また、久世では「市民負担を軽減し、市民の助け合いや民間によるサービスを利用」が5割以上を占めている。
城陽市における施策	<p>認知度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道路、上下水道、福祉、医療といった生活に密着した施策の認知度は高いが、産業振興に関する施策の認知度が低い。

項目	概要
城陽市における施策	<p>満足度、重要度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「(1) 土地区画整理事業や駅前整備、山砂利採取地域の跡地整備などの市街地整備に関する取り組み」「(11) 交通安全対策や犯罪抑止、防犯対策の強化に関する取り組み」「(13) 自然災害への備えなどの防災や消防に関する取り組み」は認知度が高いうえに、満足度が低く、取り組みの必要性がかなり高い。 ・年齢別では、30歳代で「(29) 市内の小中学校、高等学校の教育環境の充実に係る取り組み」、70歳以上で「(3) 鉄道やバスなどの公共交通体系に関する取り組み」の重要度が他の年齢層と比較して高い。また、60歳以上では、福祉施策についての重要度が高い。 ・地域別では、久津川、寺田西、富野において、満足度の低い施策が他の地域と比較して多くなっている。
- (1) 市政への参加	<ul style="list-style-type: none"> ・全体では、「自主的に個々のレベルで協力したい」が28.0%、「インターネットやアンケート等によって意見を述べたい」が24.2%、「まちづくりは行政や議会にまかせる」が15.5%。 ・年齢別では、低年齢層ではパソコン等を利用した参画の意向が強い。 ・地域別では、久津川、久世、深谷、寺田南、寺田西、富野、青谷で「自主的に個々のレベルで協力したい」が最も多く、古川、寺田、今池で「インターネットやアンケート等によって意見を述べたい」が最も多い。
- (2) 市政運営に係る情報提供	<ul style="list-style-type: none"> ・全体では、「市の広報誌、回覧板等による情報提供の充実に係る」が52.0%、「市長によるタウンミーティングや住民との懇談会など、気軽に対話ができる機会を充実に係る」が28.7%、「住民説明会など、重要事項に関する直接的な対話機会を充実に係る」が28.5%。 ・年齢別では、40歳代以下では「市のホームページによる情報提供の充実に係る」の割合が50歳代以上と比較して高い。また、50歳代、60歳代では「シンポジウムなど、興味を持てるような交流イベントの開催機会を充実に係る」の割合が他の年齢層と比較して高い。 ・地域別では、大きな違いは見られない。
- (3) 行政の役割	<p>投資・支援の公平性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体、年齢別、地域別とも、投資・支援についての公平性を重視することが望まれている。 <p>民間委託</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体では、できるだけ民間にまかせて行政はスリム化を図ることが望まれている。 ・年齢別では、70歳以上で、できるだけ行政が行うべきとの考えが多い。 ・地域別では、久津川、寺田南で「できるだけ民間にまかせるに近い」が2割以下であり、他の地域と比較して割合が低い。 <p>地域への関与</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体、年齢別、地域別とも、公共空間の美化など地域への関与については、行政が責任を持って実施することが望まれている。

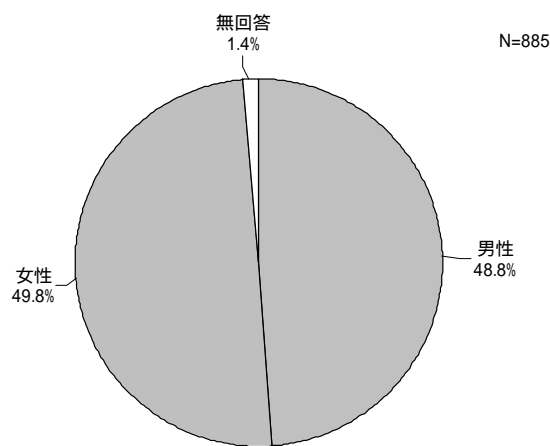
項目	概要
<p>- (4) 地域活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全体では、「(2) 地球温暖化防止や省エネ・リサイクル活動」「(6) 身近な地域の公園や道、河川などの維持管理・美化活動」「(14) 地域のイベント・祭りなどの開催・参加」「(20) 子ども会、高齢者クラブ、自治会活動等への積極的な参加」に取り組んでいる人の割合が高い。また、取り組みたい活動として、「(1) 森林や河川の美化、動植物の保護などの自然環境保全活動」「(4) 地域の見まわりなどの防犯活動」「(5) 自主的な避難訓練などの災害に備えた活動」の3活動の割合が高い。 ・年齢別では、50歳代、60歳代で他の年齢層と比較して、取り組みたい活動が多くあげられている。 ・地域別では、深谷、寺田南、青谷で、「(2) 地球温暖化防止や省エネ・リサイクル活動」に取り組んでいる人が約3割となっており、他の地域と比較して割合が高い。
<p>- (1) 若年層の定住化対策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全体では、「女性が働ける環境づくりや子育て支援環境の充実」が35.1%、「地場産業や新たな産業振興による雇用の受け皿づくりや、ベンチャー企業などの起業支援」が29.7%、「通勤や通学に便利な交通体系の充実」が27.1%。 ・年齢別では、40歳代以下で「女性が働ける環境づくりや子育て支援環境の充実」「通勤や通学に便利な交通体系の充実」を回答した人の割合が高い。 ・地域別では、各地域により異なった傾向を示している。
<p>- (2) 働く場確保の手段</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全体では、「城陽市に企業を誘致して、そこで働く場を増やす」が42.5%、「地域内のニーズに密着した仕事場で働く場を増やす」が33.8%、「新産業・ベンチャー企業等を起業し、そこで働く場を増やす」が23.8%。 ・年齢別では、30歳代、40歳代で「地域内のニーズに密着した仕事場で働く場を増やす」が最も多くなっている。また、20歳代では「京都市や周辺の都市に勤務する人を増やす」の割合が、他の年齢層と比較して高くなっており、他の年齢層と異なる傾向を示している。 ・地域別では、大きな違いは見られない。
<p>- (1) 50歳代の取り組みたい活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全体では、「自分の趣味・興味のために文化教室・サークル活動へ参加する」が47.9%、「公共性の高いボランティア活動や自治会活動に積極的に取り組む」が23.5%。 ・地域別では、寺田南、青谷以外は「自分の趣味・興味のために文化教室・サークル活動へ参加する」が最も多く、寺田南では「公共性の高いボランティア活動や自治会活動に積極的に取り組む」、青谷では「家庭菜園も含む農業へ従事する」が最も多い。
<p>- (2) 活動に取り組むための行政支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全体では、「文化教室やサークル活動の充実と情報提供」が40.2%、「ボランティア活動や地域内のニーズに密着したビジネスを始める際にかかる費用の補助」が24.8%、「活動するための施設整備や施設を借りるときの優遇制度の充実」が24.4%。 ・地域別では、寺田、寺田南、今池以外は「文化教室やサークル活動の充実と情報提供」が最も多く、寺田では「ボランティア活動や地域内のニーズに密着したビジネスを始める際にかかる費用の補助」、寺田南では「活動するための施設整備や施設を借りるときの優遇制度の充実」、今池では「職業訓練や資格取得の講座、ビジネススクールの開催」が最も多い。

2 アンケート調査結果

.回答者自身について

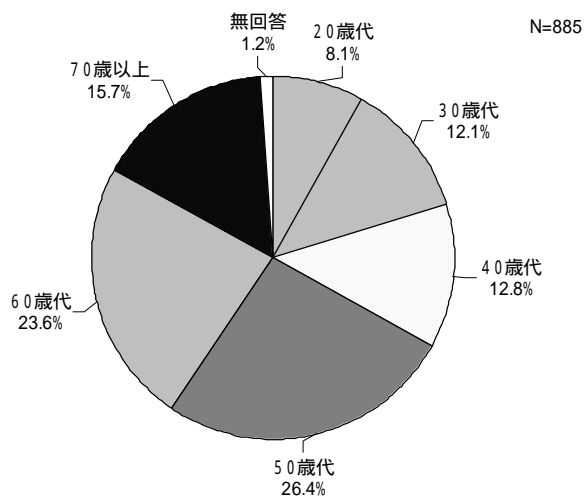
(1) あなたの性別は。

回答者の性別は、「男性」が48.8%、「女性」が49.8%でほぼ半数となっている。



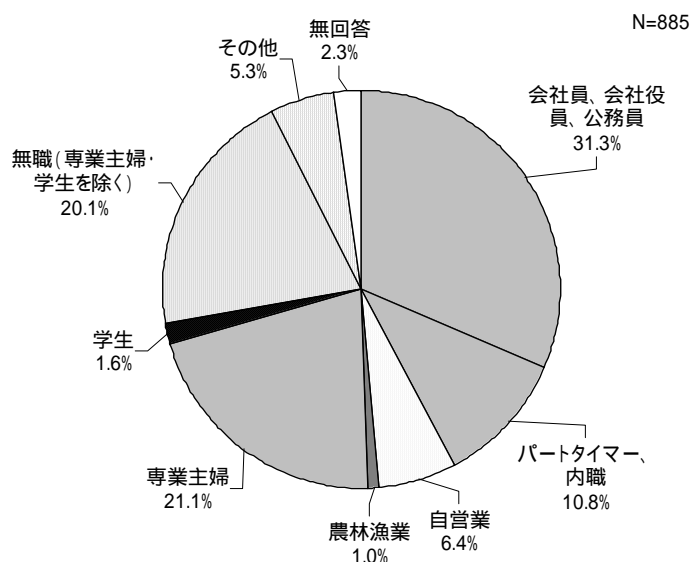
(2) あなたの年齢は。

回答者の年齢は、「50歳代」が26.4%、「60歳代」が23.6%、「70歳代」が15.7%となっており、回答者の約4割が60歳以上となっている。



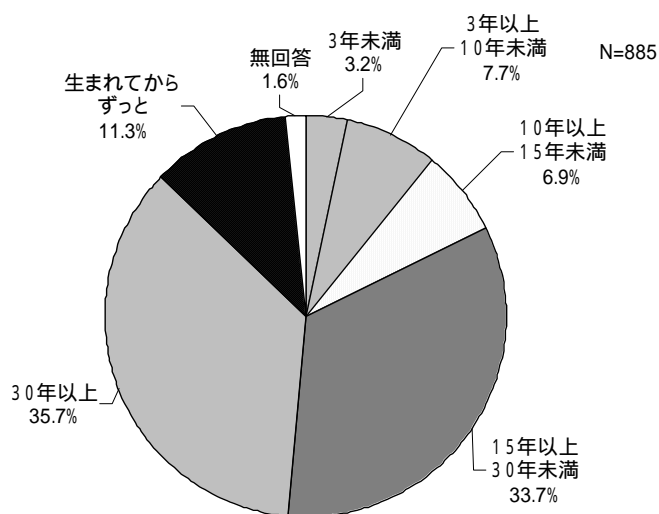
(3) あなたの職業は。

回答者の職業は、「会社員、会社役員、公務員」が31.3%、「専業主婦」が21.1%、「無職」が20.1%となっている。



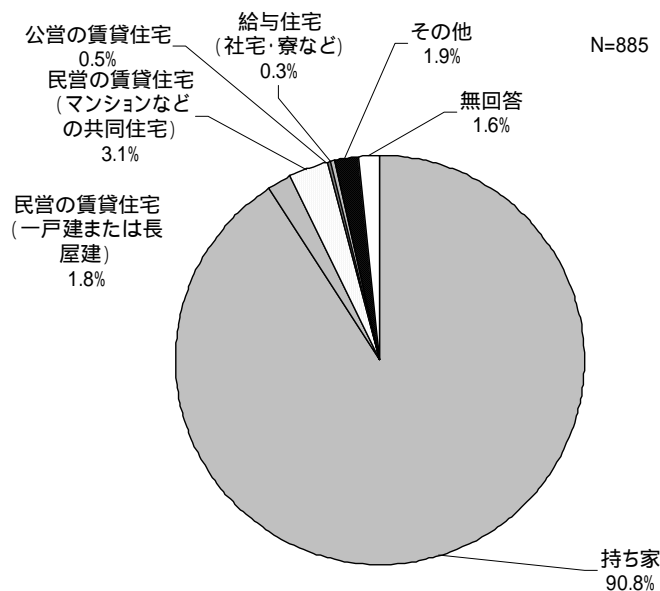
(4) あなたは城陽市にお住みになって何年になりますか。

回答者の居住年数は、「30年以上」が35.7%、「15年以上30年未満」が33.7%であり、回答者の約7割が、15年以上城陽市に住んでいる人となっている。



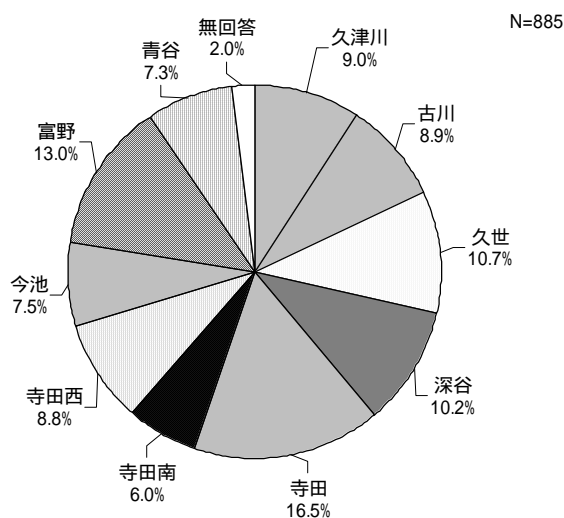
(5) あなたのお住まいは。

回答者の住居の形態は、「持ち家」が90.8%と、9割以上を占めている。



(6) あなたのお住まいの小学校区は。

回答者の住んでいる地域は、「寺田」が16.5%、「富野」が13.0%、「久世」が10.7%の順となっており、「寺田」「富野」の割合がやや高くなっている。



城陽市のことについて

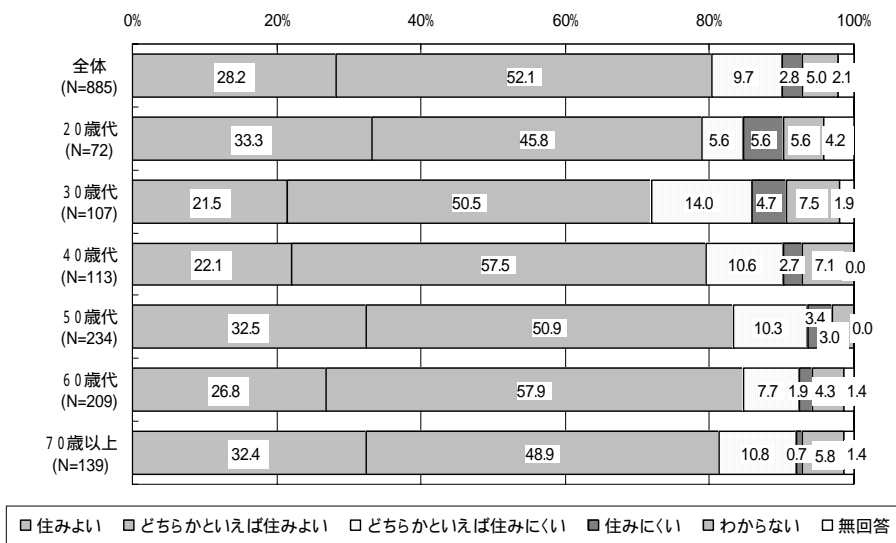
(1) あなたは城陽市を住みよいと感じておられますか。

全体では、「住みよい」と感じている人が28.2%、「どちらかといえば住みよい」と感じている人が52.1%で、これらを合わせると、8割以上の人々が住みよいと感じている。

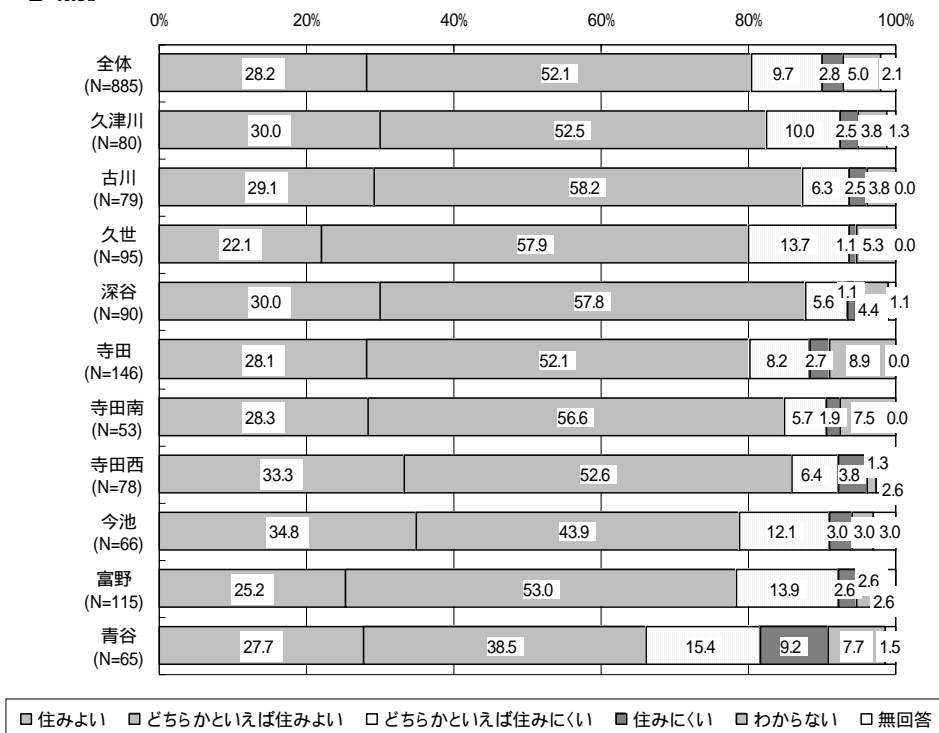
年齢別では、すべての年齢で「どちらかといえば住みよい」が約5～6割を占めており、20歳代、50歳代、70歳以上では「住みよい」が3割以上を占めている。一方で、「住みにくい」が20歳代で5.6%、30歳代で4.7%となっており、若年層で住みにくいと感じている人の割合が他の年齢層と比較して高くなっている。特に、30歳代では、「どちらかといえば住みにくい」が14.0%で他の年齢層と比較して最も高くなっている。

地域別では、青谷で「どちらかといえば住みにくい」が15.4%、「住みにくい」が9.2%となっており、他の地域と比較して住みにくいと感じている人の割合が高い。

<年齢別>



<地域別>



(2) 城陽市のどのような所に魅力を感じておられますか。あてはまるものに2つ以内で をつけてください。

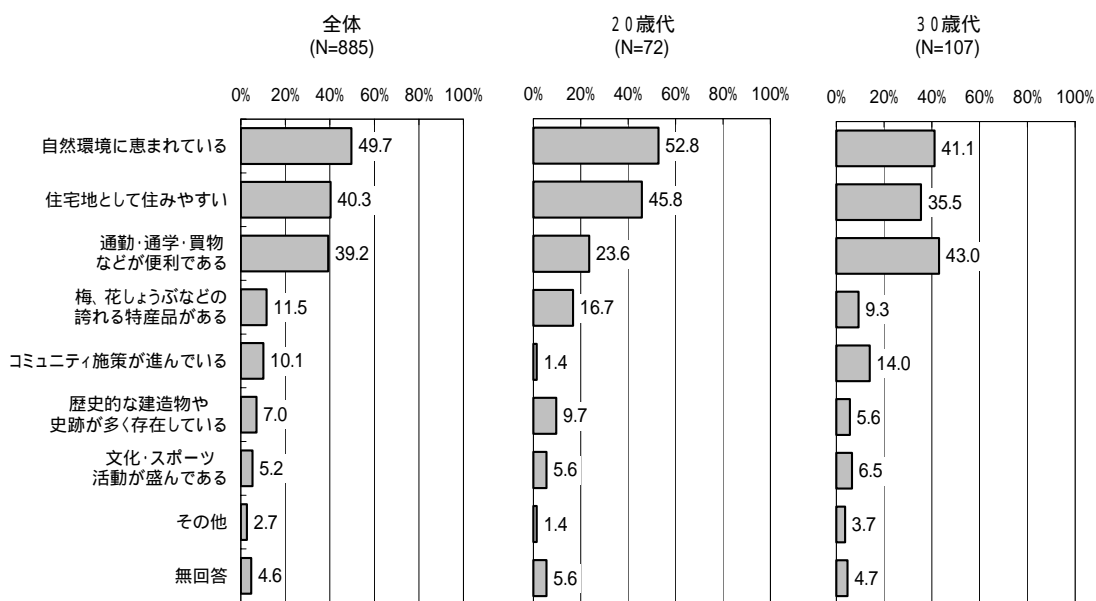
全体では、「自然環境に恵まれている」が49.7%、「住宅地として住みやすい」が40.3%、「通勤・通学・買物などが便利である」が39.2%であり、京都、大阪、奈良などへの交通の利便性が高く、自然に恵まれた良好な住宅地、というのが城陽市の魅力だと感じられている。

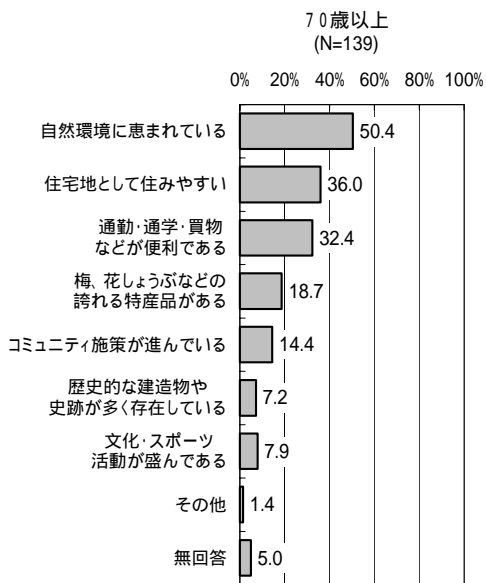
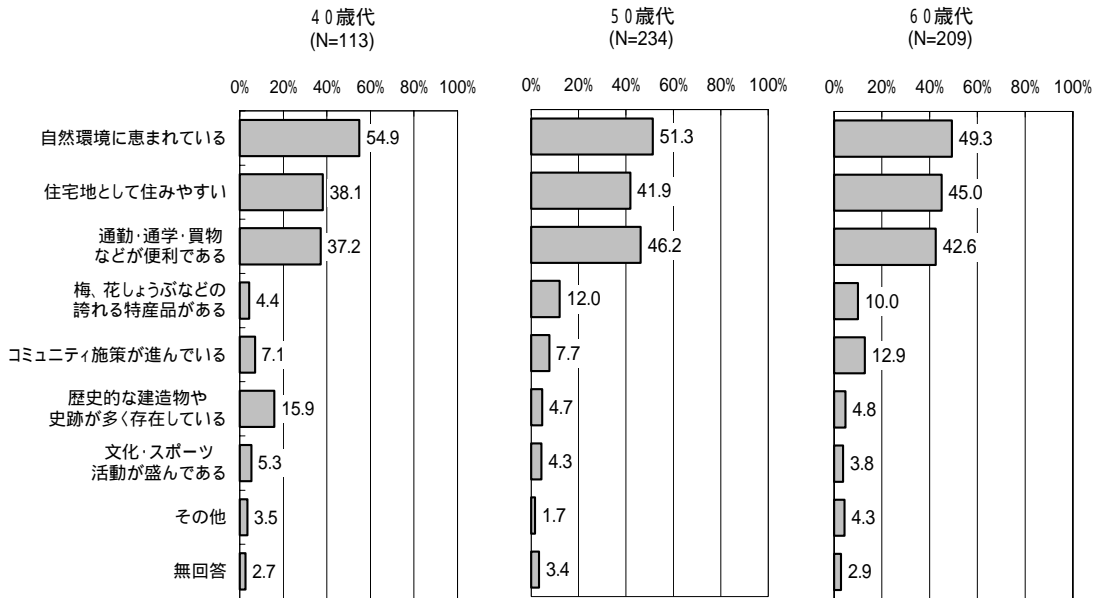
年齢別では、30歳代、50歳代で「住宅地として住みやすい」よりも「通勤・通学・買物などが便利である」の割合が高くなっている。

地域別では、久世、深谷、寺田、富野、青谷で「自然環境に恵まれている」の割合が最も高いが、久津川、古川、今池では「通勤・通学・買物などが便利である」の割合が最も高い。また、寺田西では「住宅地として住みやすい」が44.9%であり、地域により、魅力の感じ方に違いが見られる。

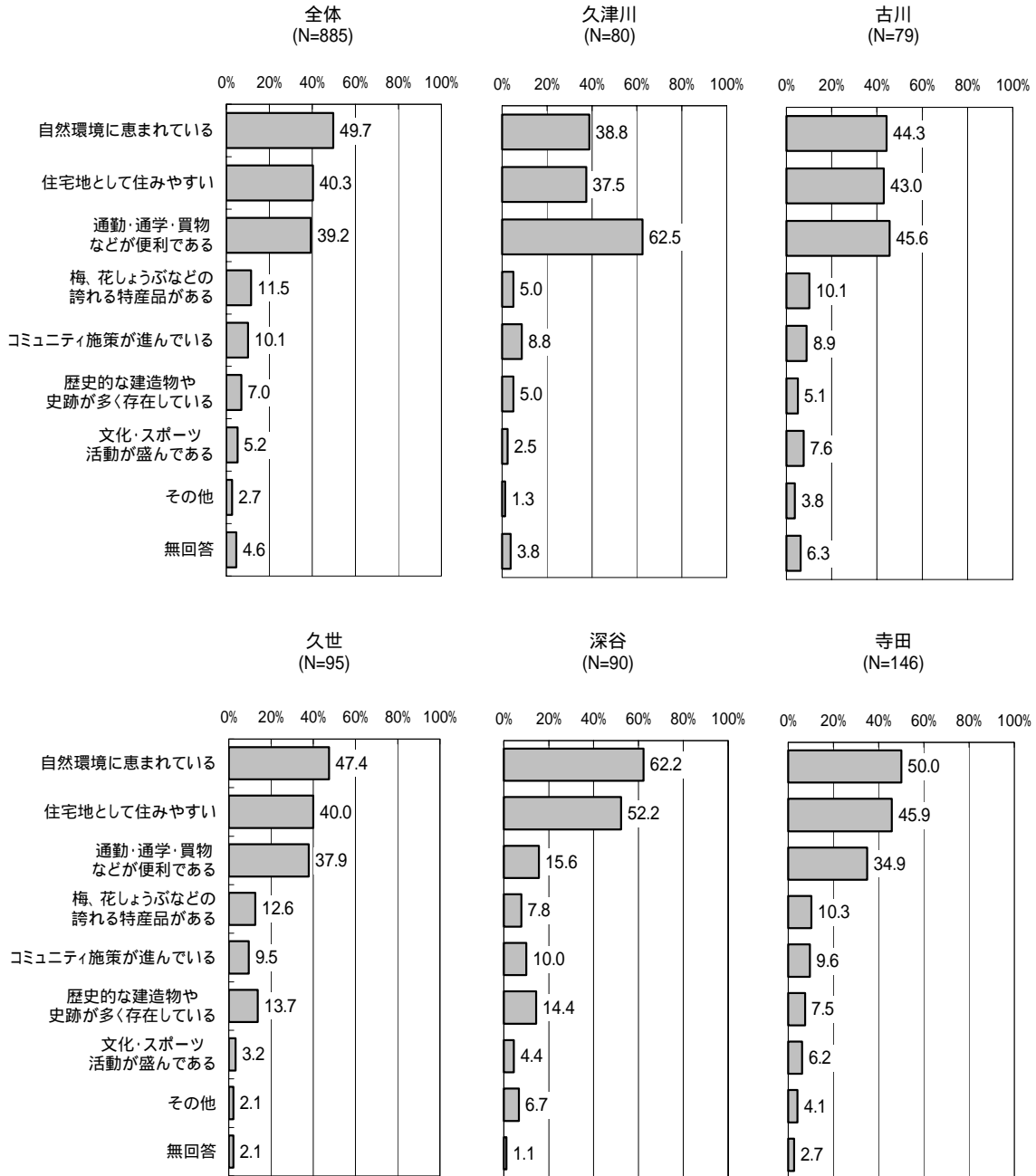
なお、青谷では、「梅・花しょうぶなどの誇れる特産品がある」が27.7%となっており、他の地域にはない魅力があることが分かる。

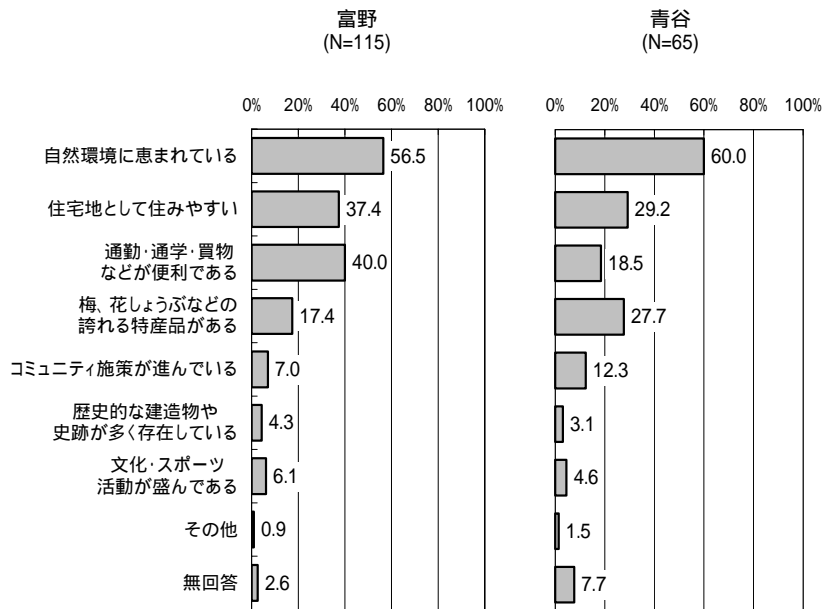
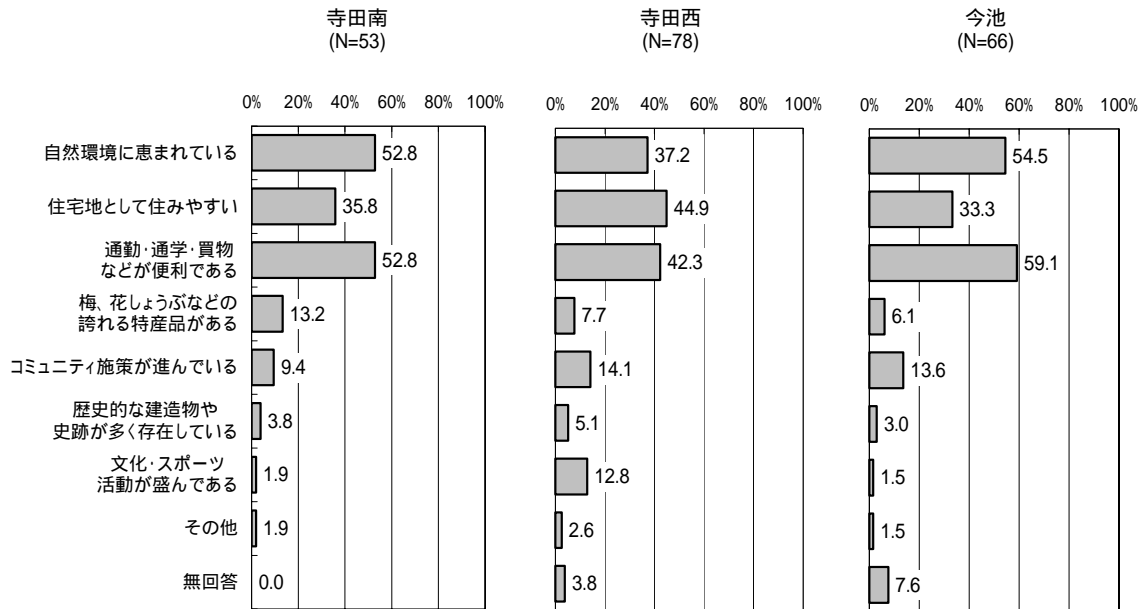
< 年齢別 >





< 地域別 >





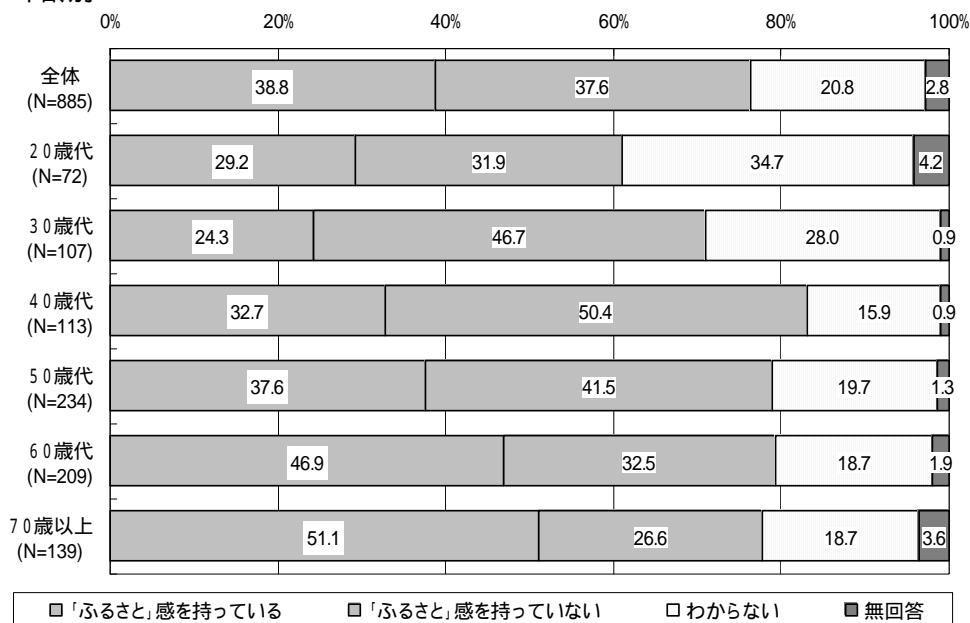
(3) あなたは城陽市に「ふるさと」であるといった感じをお持ちですか。

全体では、「ふるさと感を持っている」が38.8%、「ふるさと感を持っていない」が37.6%であり、ふるさと感を持っている人が若干多くなっている。

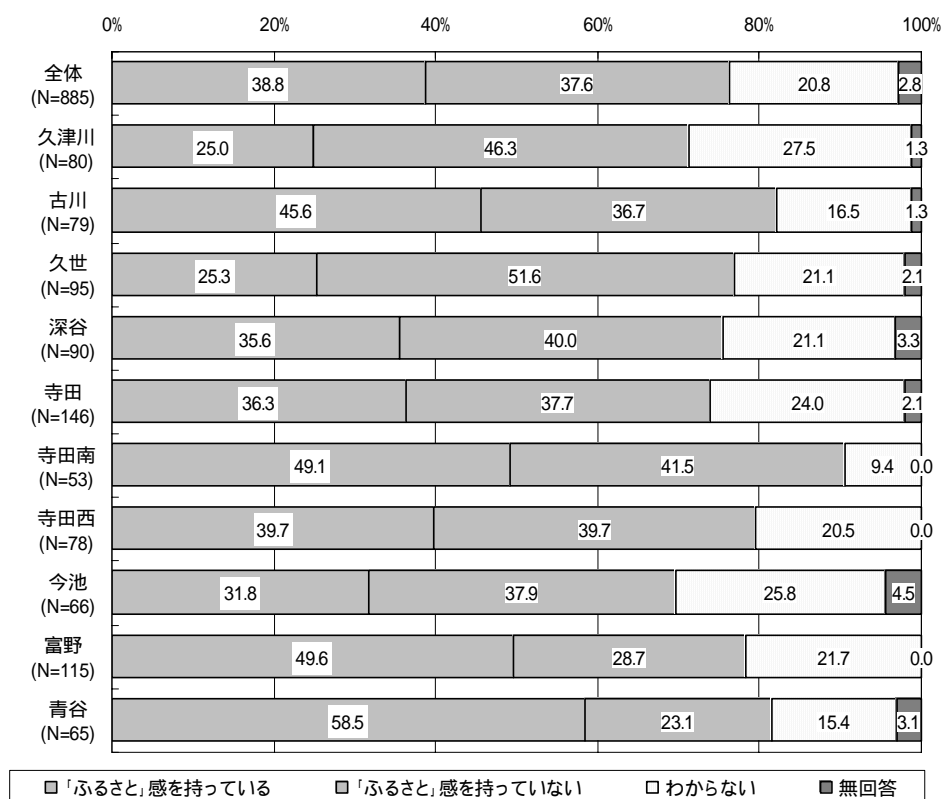
年齢別では、30歳代以上で年齢層が上がるにつれて、「ふるさと感を持っている」人の割合が高くなり、60歳以上では「ふるさと感を持っている」人が「ふるさと感を持っていない」人よりも多くなっている。なお、40歳代では、「ふるさと感を持っていない」人が5割以上を占めている。

地域別では、古川、寺田南、富野、青谷では「ふるさと感を持っている」人の方が多いが、久津川、久世、深谷、寺田、今池では「ふるさと感を持っていない」人の方が多くなっている。

<年齢別>



<地域別>



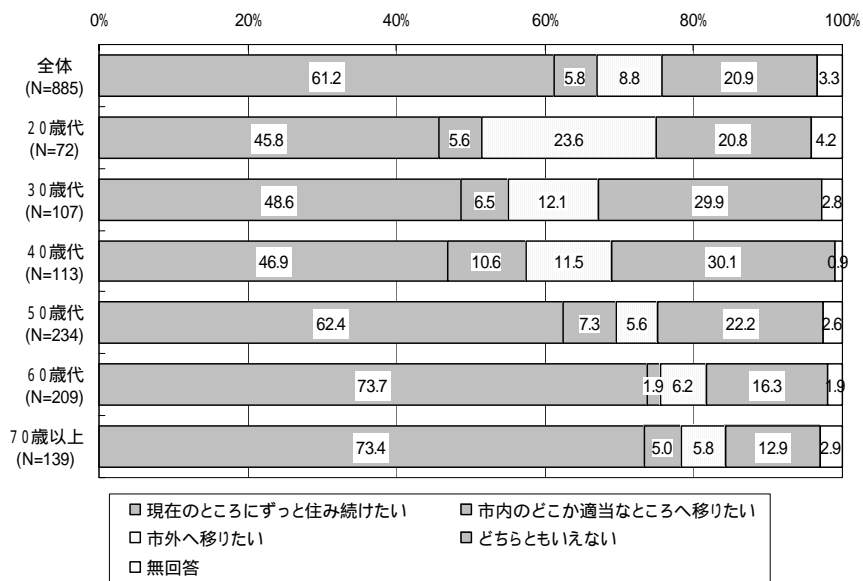
(4) あなたは今後も現在のところに住み続けたいと思えますか。

全体では、「現在のところにずっと住み続けたい」が61.2%、「市内のどこか適当なところに移りたい」が5.8%、「市外へ移りたい」が8.8%、「どちらともいえない」が20.9%となっており、永住意向を持っている人が6割以上いることが分かる。

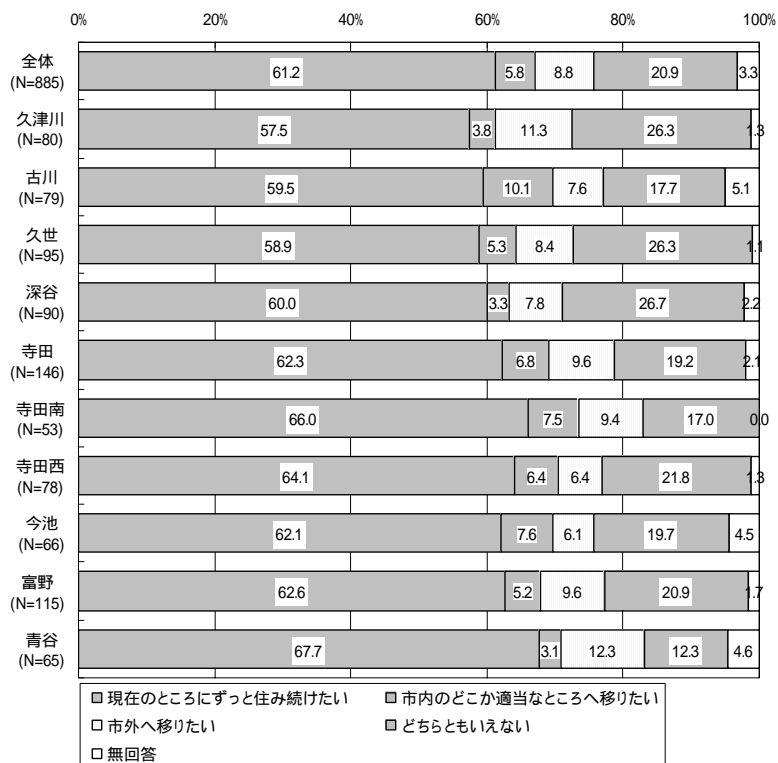
年齢別では、「現在のところにずっと住み続けたい」が60歳代で73.7%、70歳以上で73.4%と多くなっているが、40歳代以下では5割未満であり、高齢者の方の永住意向が強くなっていることがうかがえる。

地域別では、すべての地域で、「現在のところにずっと住み続けたい」が6～7割であり、地域ごとに大きな違いは見られない。

< 年齢別 >



< 地域別 >



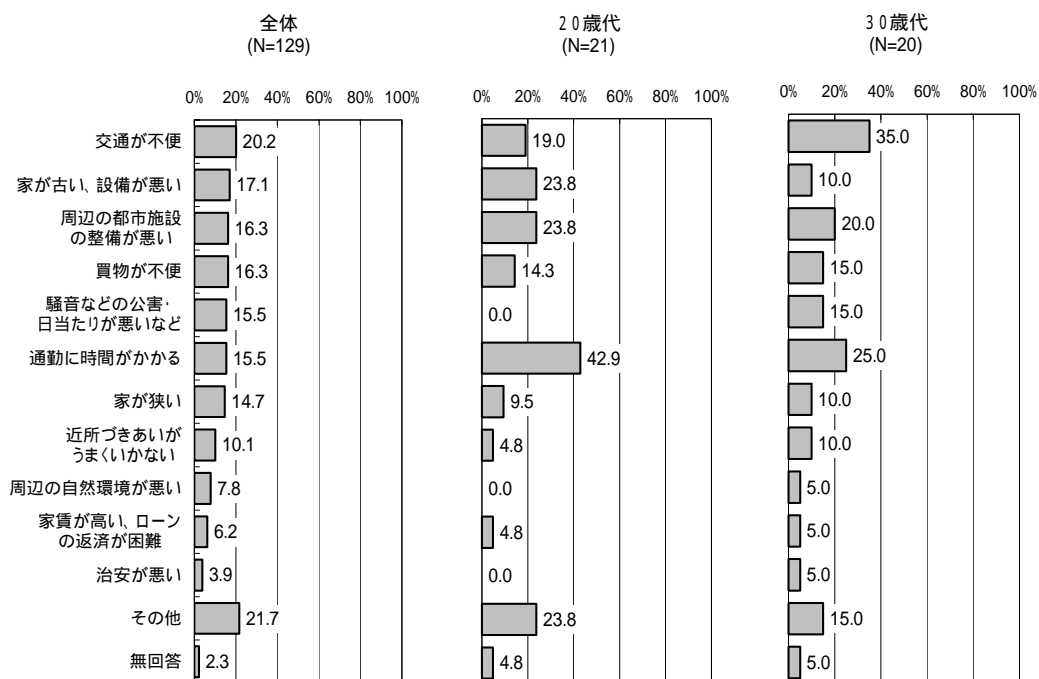
(4) - 1 「2または3(移りたい)」と回答された方におたずねします。移りたい理由は何ですか。あてはまるものに2つ以内で をつけてください。

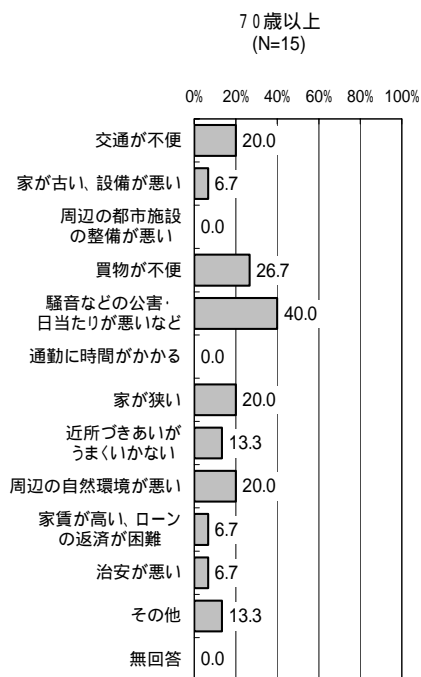
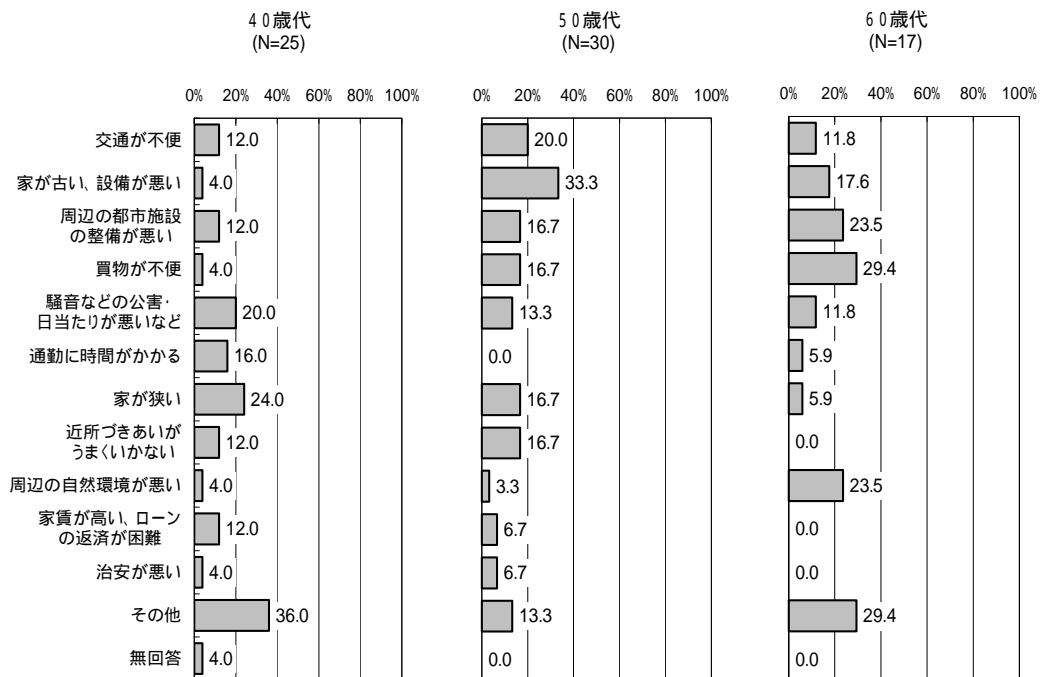
全体では「交通が不便」が20.2%、「家が古い」が17.1%、「周辺の都市施設の整備が悪い」「買い物が不便」がともに16.3%となっている。

年齢別では、20歳代で「通勤に時間がかかる」、30歳代で「交通が不便」、40歳代で「家が狭い」、50歳代で「家が古い、設備が悪い」、60歳代で「買い物が不便」、70歳以上で「騒音などの公害・日当たりが悪いなど」が最も多くなっており、年齢別で、移りたい理由に大きな違いが見られる。

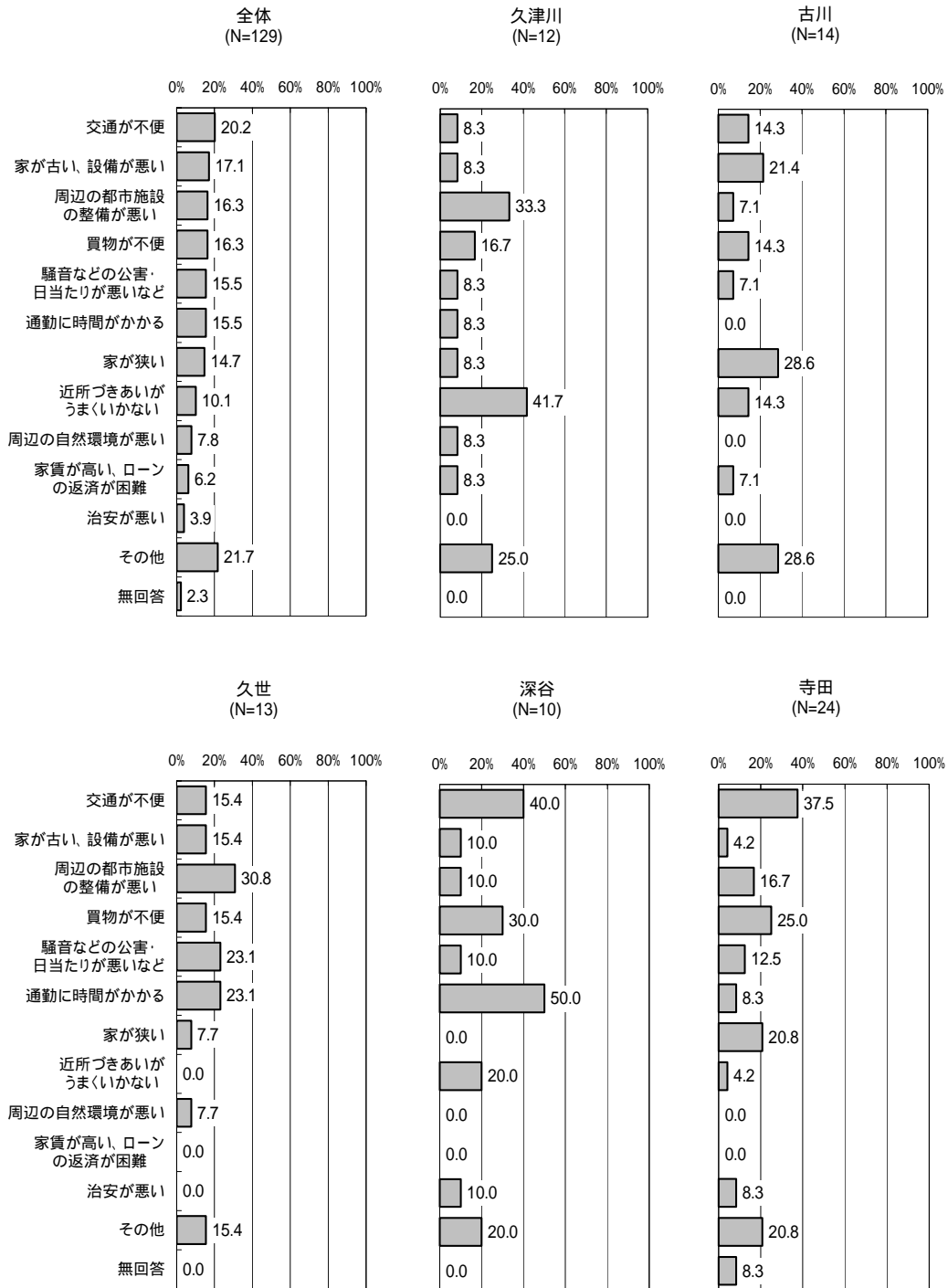
地域別では、母数が少ないため正確には比較できないが、久津川の「近所付き合いがうまくいかない」、深谷の「交通が不便」、今池の「通勤に時間がかかる」、今池の「家が狭い」が4割以上となっている。

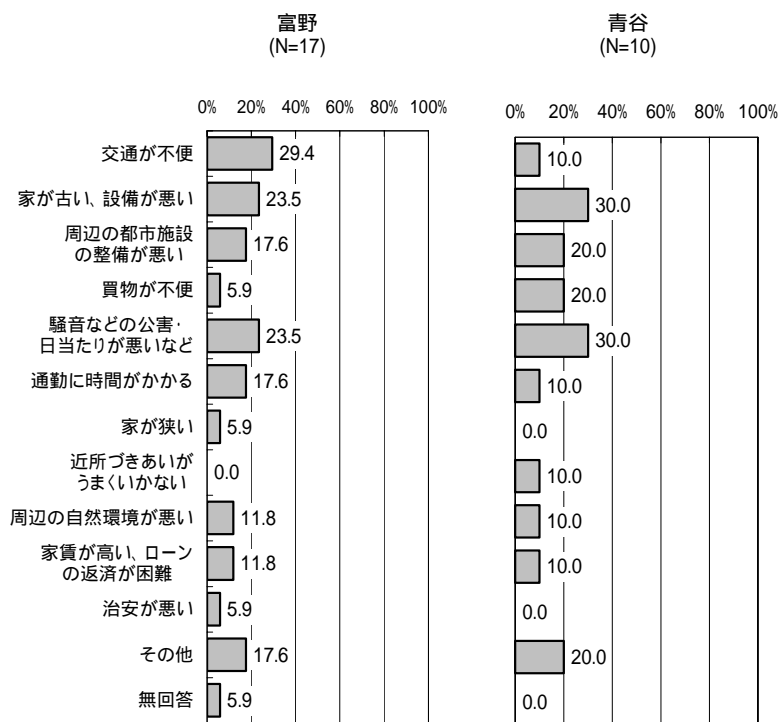
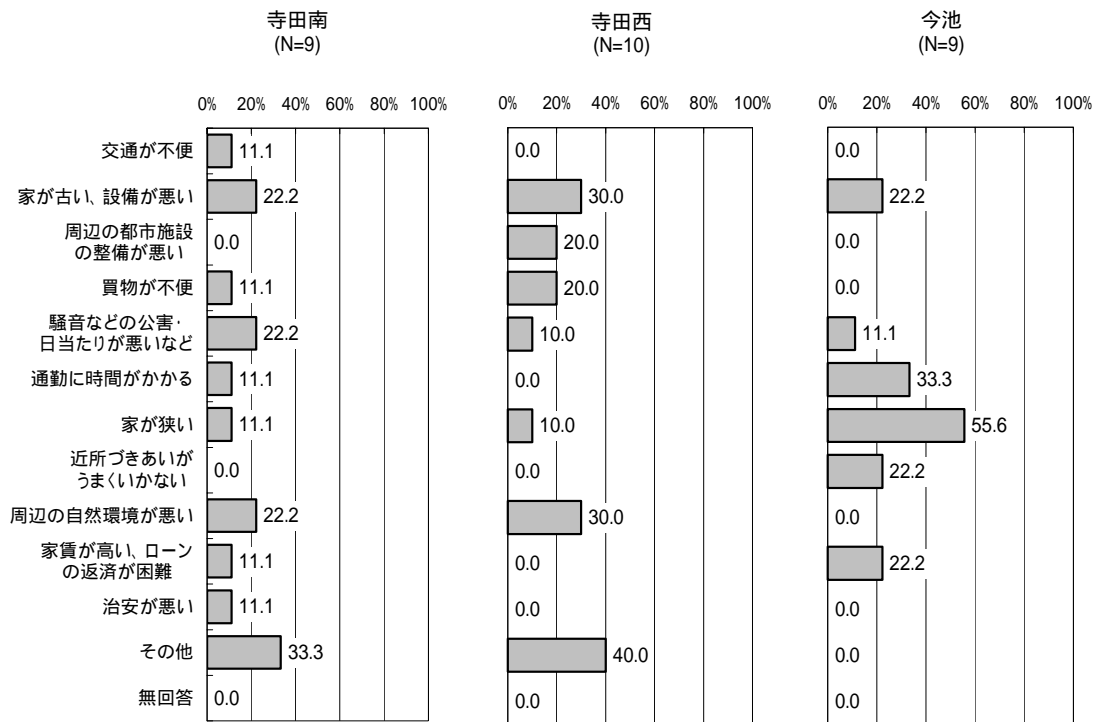
< 年齢別 >





< 地域別 >





・公共サービスについて

(1) 近年の地方自治体財政は長引く不況により、税収の減少など大幅な財源不足を生じ、危機的な状況を迎えていますが、市民ニーズは多様化、高度化、複雑化し、行政が行う業務がますます増加してきています。

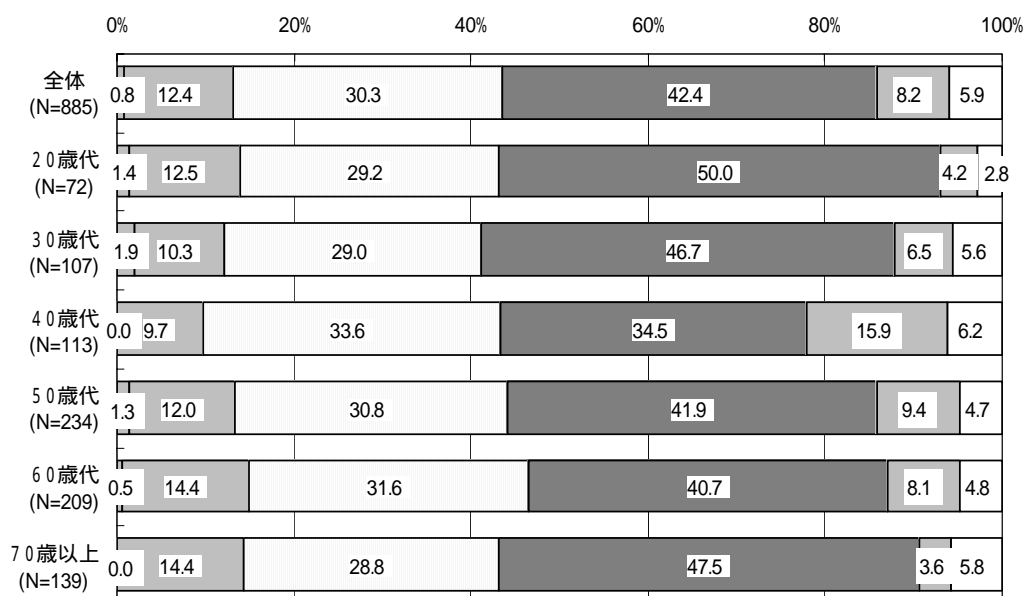
今後の公共的なサービス提供のあり方として、市民の「受けたサービスと費用負担」の関係から、次のうちの項目が望ましいとお考えですか。あてはまるものに1つだけをつけてください。

全体では、「市民負担を軽減し、市民の助け合いや民間によるサービスを利用」が42.4%で最も多く、「市民負担は維持し、市民の助け合いや民間によるサービスを利用」が30.3%となっている。一方、「市民負担を大きく増やし、行政によるサービスを拡大」は0.8%、「市民負担を少し増やし、行政によるサービスを維持」は12.4%であり、市民負担を増やしてまでも行政サービスを維持、拡大する意向は少ないことがうかがえる。

年齢別では、大きな違いは見られないが、40歳代で「市民負担を軽減し、市民の助け合いや民間によるサービスを利用」が34.5%となっており、他の年齢層と比較して割合が低くなっている。

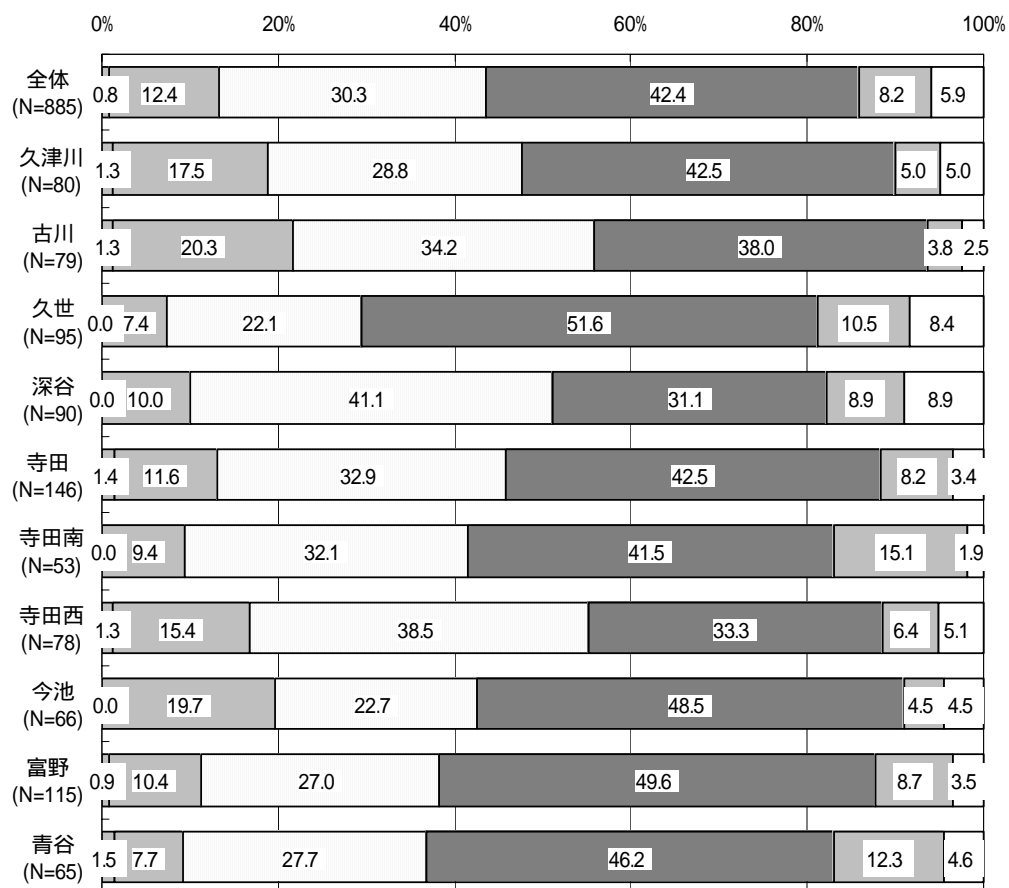
地域別では、古川、今池で「市民負担を少し増やし、行政によるサービスを維持」がそれぞれ20.3%、19.7%と約2割を占めており、他の地域と比較して割合が高くなっている。また、久世では「市民負担を軽減し、市民の助け合いや民間によるサービスを利用」が5割以上を占めており、市民負担軽減の意向が10地域の中で最も多くなっている。

<年齢別>



- 市民負担を大きく増やし、行政によるサービスを拡大
- 市民負担を少し増やし、行政によるサービスを維持
- 市民負担は維持し、市民の助け合いや民間によるサービスを利用
- 市民負担を軽減し、市民の助け合いや民間によるサービスを利用
- その他
- 無回答

< 地域別 >



- 市民負担を大きく増やし、行政によるサービスを拡大
- 市民負担を少し増やし、行政によるサービスを維持
- 市民負担は維持し、市民の助け合いや民間によるサービスを利用
- 市民負担を軽減し、市民の助け合いや民間によるサービスを利用
- その他
- 無回答

・城陽市における施策について

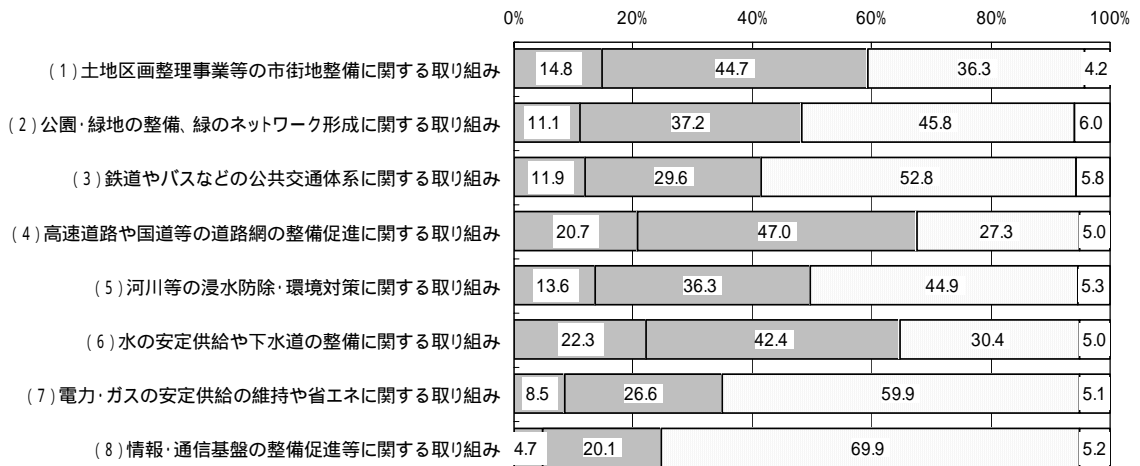
(1) 城陽市における現在の取り組みについてご存知ですか(現在の認知度。)また、その取り組みの現状はどうか(現在の満足度)。そして、そのことが今後どの程度重要であると思いますか(今後の重要度)。あなたの生活実感やイメージに基づいて、あなたのお考えに最も近い番号をそれぞれ1つ選んでをつけてください。

1) 認知度

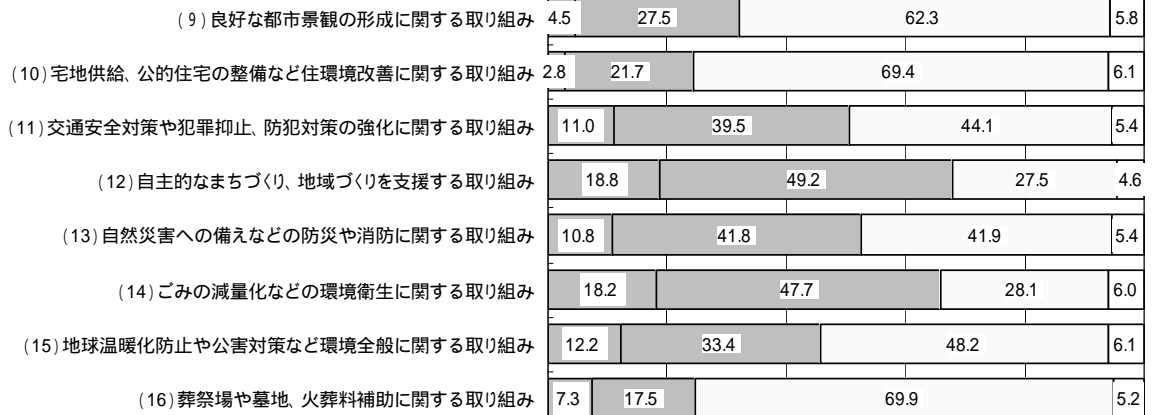
認知度では、「(4) 高速道路や国道等の道路網の整備促進に関する取り組み」、「(6) 水の安定供給や下水道の整備に関する取り組み」、「(12) 自主的なまちづくり、地域づくりを支援する取り組み」、「(14) ごみの減量化などの環境衛生に関する取り組み」、「(18) 高齢者の健康など、介護・福祉サービスに関する取り組み」、「(26) 健康診断など、身近な医療環境充実にに関する取り組み」の6施策で「知っている」「少し知っている」を合わせた割合が6割以上となっており、道路、上下水道、福祉、医療といった生活に密着した施策の割合が高くなっている。

一方、「(8) 情報・通信基盤の整備促進等に関する取り組み」、「(10) 宅地供給、公的住宅の整備など住環境改善に関する取り組み」、「(16) 葬祭場や墓地、火葬料補助に関する取り組み」、「(23) 労働環境の改善など勤労者施策の充実にに関する取り組み」、「(28) 幼稚園における幼児教育の充実にに関する取り組み」、「(36) 農林業の育成・支援に関する取り組み」、「(37) 工業の育成・支援に関する取り組み」、「(38) 商業・サービス業の育成・支援に関する取り組み」、「(39) 観光客の受け入れ体制の充実にに関する取り組み」、「(44) 健全な財政運営に関する取り組み」の10施策では、「知っている」「少し知っている」を合わせた割合が3割以下となっており、これらの施策については、積極的なPR活動を行う必要があると考えられる。特に、“くらしを高め、地域の産業を育てるまちづくり”では、4施策すべてが3割以下となっており、産業振興に関する取り組みが十分に認知されていないことがあらわれている。

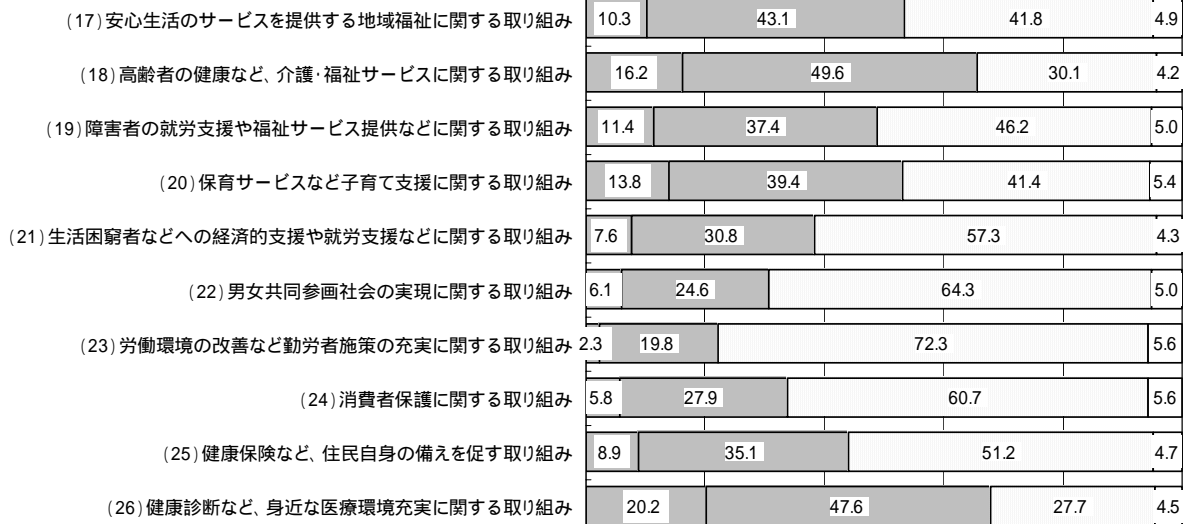
環境を生かした秩序あるまちづくり



快適・安全で住みよいまちづくり



みんなで築く福祉のまちづくり



知っている
 少し知っている
 知らない
 無回答

0% 20% 40% 60% 80% 100%

健やかな心身、豊かな文化をはぐくむまちづくり

(27) 学習を総合的に推進する生涯学習の充実に関する取り組み	7.5	34.2	51.4	6.9
(28) 幼稚園における幼児教育の充実に関する取り組み	6.4	23.4	62.9	7.2
(29) 市内の小中学校など、教育環境の充実に関する取り組み	7.8	28.9	55.9	7.3
(30) 特別支援教育(障害児教育)に関する取り組み	6.6	26.8	59.2	7.5
(31) 学習活動など社会教育の充実に関する取り組み	11.2	41.4	40.0	7.5
(32) スポーツ、レクリエーション活動の充実に関する取り組み	10.1	46.6	35.7	7.7
(33) 青少年の健全育成に関する取り組み	9.4	33.7	49.2	7.8
(34) 芸術や地域文化の継承・振興に関する取り組み	6.1	35.9	50.5	7.5
(35) 歴史的遺産や文化財の保存・活用に関する取り組み	7.6	42.3	42.8	7.3

くらしを高め、地域の産業を育てていくまちづくり

(36) 農林業の育成・支援に関する取り組み	2.3	13.9	76.9	6.9
(37) 工業の育成・支援に関する取り組み	1.4	14.5	77.3	6.9
(38) 商業・サービス業の育成・支援に関する取り組み	2.9	17.5	72.1	7.5
(39) 観光客の受け入れ体制の充実に関する取り組み	3.5	23.2	66.6	6.8

市民と一体となったまちづくりの推進

(40) 人権問題、世界平和の教育・啓発活動に関する取り組み	5.3	32.2	55.3	7.2
(41) 国際交流に関する取り組み	8.7	41.0	42.9	7.3
(42) まちづくりや行政への市民参加の促進に関する取り組み	6.1	37.1	49.6	7.2
(43) 市行政の効率化など、行政運営の改善に関する取り組み	5.3	30.2	57.5	7.0
(44) 健全な財政運営に関する取り組み	5.8	24.0	62.6	7.7
(45) 周辺市町村との連携強化など広域行政に関する取り組み	5.9	26.6	59.5	8.0

知っている 少し知っている 知らない 無回答

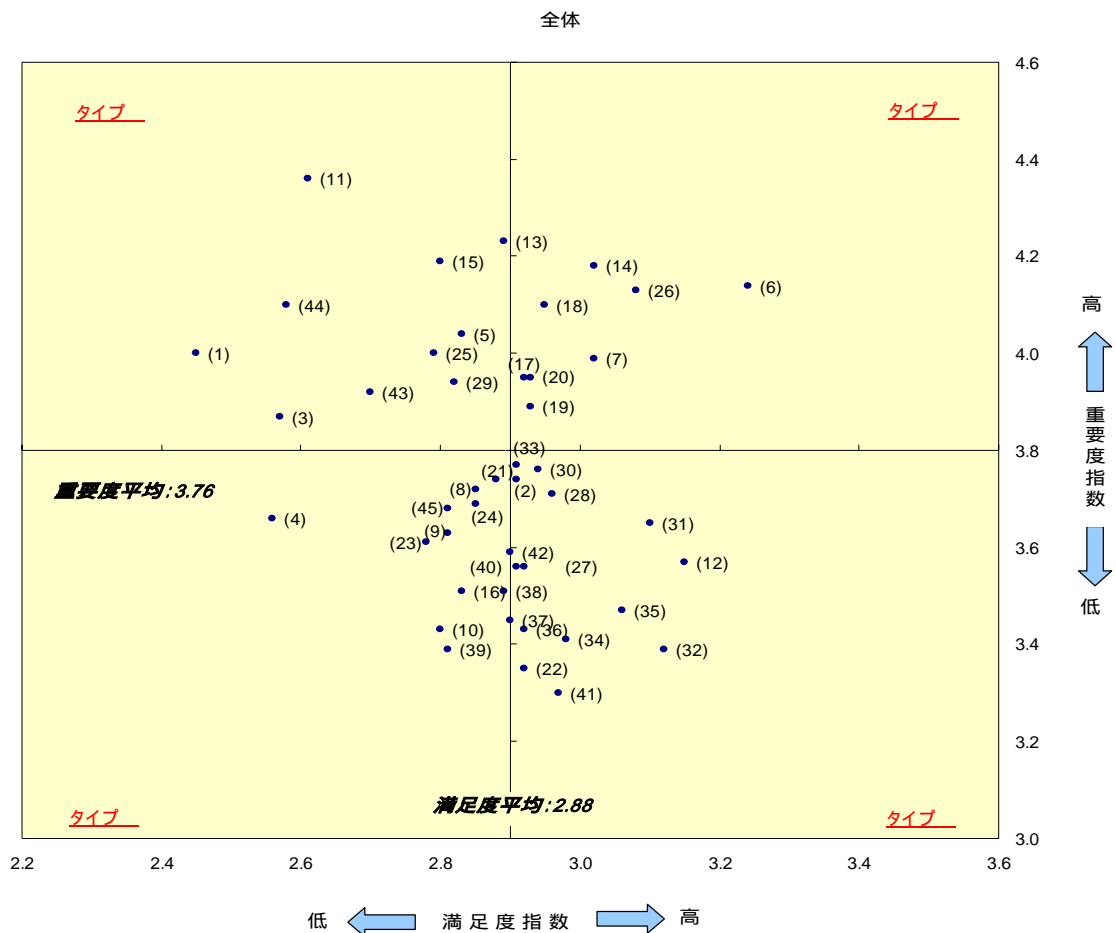
2) 満足度、重要度

満足度、重要度については、満足度を横軸、重要度を縦軸にして、各施策のポジショニングを行った散布図を作成し、施策相互の位置関係を示すことにより特性の把握を行った。

散布図ではタイプ（満足度が低く、重要度が高い施策）に該当する施策が取り組みの必要性が高いものであり、タイプ（満足度が高く、重要度も高い施策）に該当する施策は住民から一定の満足感を得られているが、今後さらに施策を充実していくことが求められているものを表している。

全体を示した散布図では、タイプに該当する施策として10施策があり、特に「(1) 土地区画整理事業や駅前整備、山砂利採取地域の跡地整備などの市街地整備に関する取り組み」「(11) 交通安全対策や犯罪抑止、防犯対策の強化に関する取り組み」「(44) 健全な財政運営に関する取り組み」の3施策が取り組みの必要性が高い施策と考えられる。

また、タイプに属する施策のうちで、特に満足度が低く、重要度が高い6施策(1,3,11,13,15,44)について、認知度をあわせて見ると、「(1) 土地区画整理事業や駅前整備、山砂利採取地域の跡地整備などの市街地整備に関する取り組み」「(11) 交通安全対策や犯罪抑止、防犯対策の強化に関する取り組み」「(13) 自然災害への備えなどの防災や消防に関する取り組み」では、「知っている」「少し知っている」の合計が5割以上となっており、住民に十分認知されているうえで、満足度が低くなっていることから、これらは取り組みの必要性が最も高い施策のグループであると考えられる。



< 散布図の作成方法 >

満足度、重要度の選択肢である「満足している」「重要である」を5点、「どちらかといえば満足している」「やや重要である」を4点、「ふつう」を3点、「やや不満である」「あまり重要でない」を2点、「不満である」「重要ではない」を1点とし、45の取り組みごとに各選択肢の回答数と上記の点数を乗じ、それを回答者数で除することで点数を算出した。散布図の原点は満足度の平均点(2.88点)と重要度の平均点(3.76点)が交わる部分となり、その交差部分が最も平均的な評価となっている施策とみなすことができる。

<全体>

	全体	
	満足度	重要度
(1) 土地区画整理事業等の市街地整備に関する取り組み	2.45	4.00
(2) 公園・緑地の整備、緑のネットワーク形成に関する取り組み	2.91	3.74
(3) 鉄道やバスなどの公共交通体系に関する取り組み	2.57	3.87
(4) 高速道路や国道等の道路網の整備促進に関する取り組み	2.56	3.66
(5) 河川等の浸水防除・環境対策に関する取り組み	2.83	4.04
(6) 水の安定供給や下水道の整備に関する取り組み	3.24	4.14
(7) 電力・ガスの安定供給の維持や省エネに関する取り組み	3.02	3.99
(8) 情報・通信基盤の整備促進等に関する取り組み	2.85	3.72
(9) 良好な都市景観の形成に関する取り組み	2.81	3.63
(10) 宅地供給、公的住宅の整備など住環境改善に関する取り組み	2.80	3.43
(11) 交通安全対策や犯罪抑止、防犯対策の強化に関する取り組み	2.61	4.36
(12) 自主的なまちづくり、地域づくりを支援する取り組み	3.15	3.57
(13) 自然災害への備えなどの防災や消防に関する取り組み	2.89	4.23
(14) ごみの減量化などの環境衛生に関する取り組み	3.02	4.18
(15) 地球温暖化防止や公害対策など環境全般に関する取り組み	2.80	4.19
(16) 葬祭場や墓地、火葬料補助に関する取り組み	2.83	3.51
(17) 安心生活のサービスを提供する地域福祉に関する取り組み	2.92	3.95
(18) 高齢者の健康など、介護・福祉サービスに関する取り組み	2.95	4.10
(19) 障害者の就労支援や福祉サービス提供などに関する取り組み	2.93	3.89
(20) 保育サービスなど子育て支援に関する取り組み	2.93	3.95
(21) 生活困窮者など経済的支援や就労支援などに関する取り組み	2.88	3.74
(22) 男女共同参画社会の実現に関する取り組み	2.92	3.35
(23) 労働環境の改善など勤労者施策の充実にに関する取り組み	2.78	3.61
(24) 消費者保護に関する取り組み	2.85	3.69
(25) 健康保険など、住民自身の備えを促す取り組み	2.79	4.00
(26) 健康診断など、身近な医療環境充実にに関する取り組み	3.08	4.13
(27) 学習を総合的に推進する生涯学習の充実にに関する取り組み	2.92	3.56
(28) 幼稚園における幼児教育の充実にに関する取り組み	2.96	3.71
(29) 市内の小中学校など、教育環境の充実にに関する取り組み	2.82	3.94
(30) 特別支援教育（障害児教育）に関する取り組み	2.94	3.76
(31) 学習活動など社会教育の充実にに関する取り組み	3.10	3.65
(32) スポーツ、レクリエーション活動の充実にに関する取り組み	3.12	3.39
(33) 青少年の健全育成に関する取り組み	2.91	3.77
(34) 芸術や地域文化の継承・振興に関する取り組み	2.98	3.41
(35) 歴史的遺産や文化財の保存・活用に関する取り組み	3.06	3.47
(36) 農林業の育成・支援に関する取り組み	2.92	3.43
(37) 工業の育成・支援に関する取り組み	2.90	3.45
(38) 商業・サービス業の育成・支援に関する取り組み	2.89	3.51
(39) 観光客の受け入れ体制の充実にに関する取り組み	2.81	3.39
(40) 人権問題、世界平和の教育・啓発活動に関する取り組み	2.91	3.56
(41) 国際交流に関する取り組み	2.97	3.30
(42) まちづくりや行政への市民参加の促進に関する取り組み	2.90	3.59
(43) 市行政の効率化など、行政運営の改善に関する取り組み	2.70	3.92
(44) 健全な財政運営に関する取り組み	2.58	4.10
(45) 周辺市町村との連携強化など広域行政に関する取り組み	2.81	3.68
平均	2.88	3.76

・今後の市政運営への市民参画のあり方、地域活動について

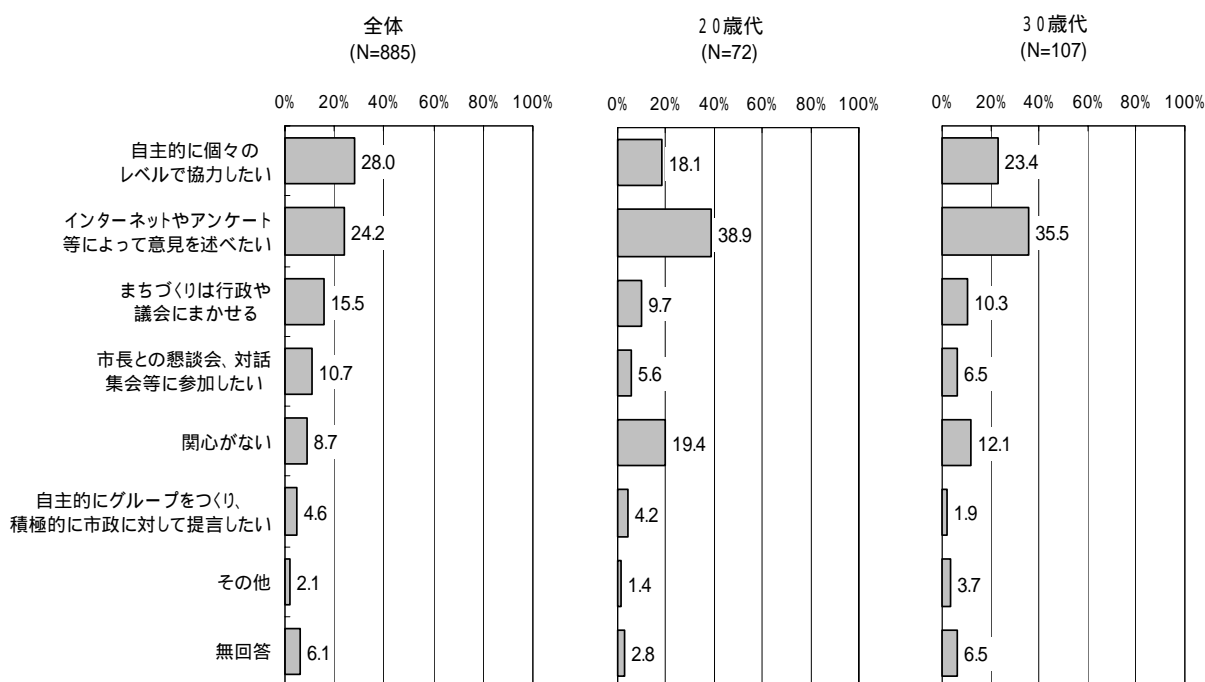
(1) これからの市政への参加に対するあなたのお考えはどうでしょうか。あてはまるものに1つだけをつけてください。

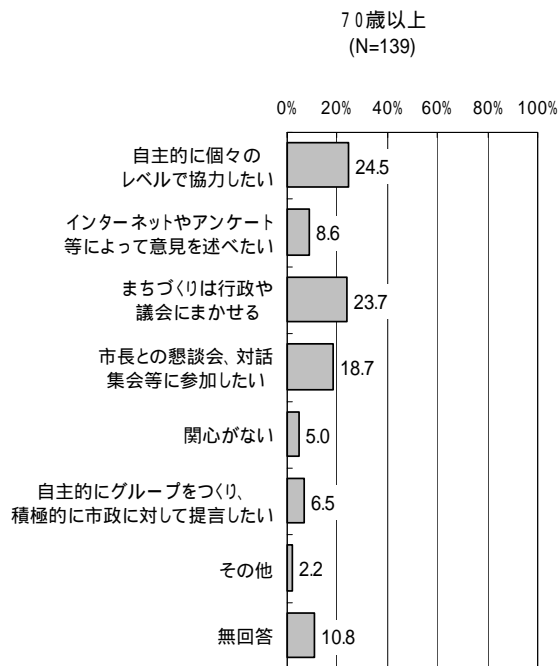
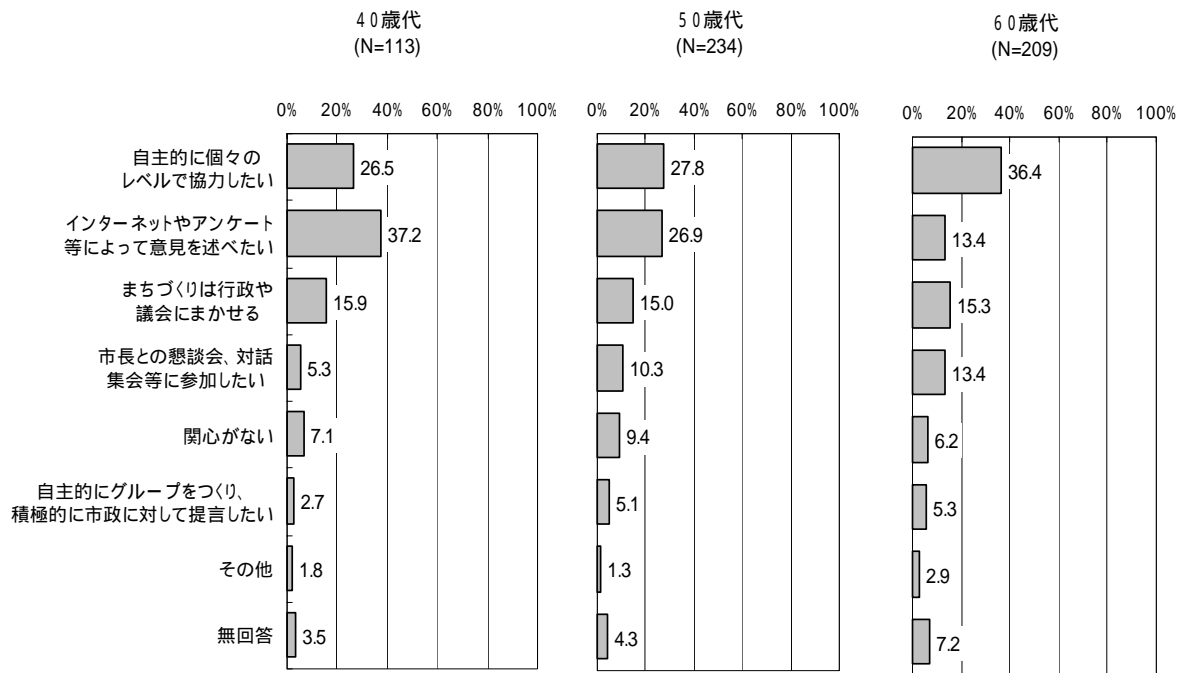
全体では、「自主的に個々のレベルで協力したい」が28.0%、「インターネットやアンケート等によって意見を述べたい」が24.2%、「まちづくりは行政や議会にまかせる」が15.5%となっている。

年齢別では、20歳代、30歳代、40歳代で「インターネットやアンケート等によって意見を述べたい」が最も多くなっているのに対し、50歳代、60歳代、70歳代以上では「自主的に個々のレベルで協力したい」が最も多くなっており、低年齢層では、パソコン等を利用した参画の意向が強いことがあらわれている。

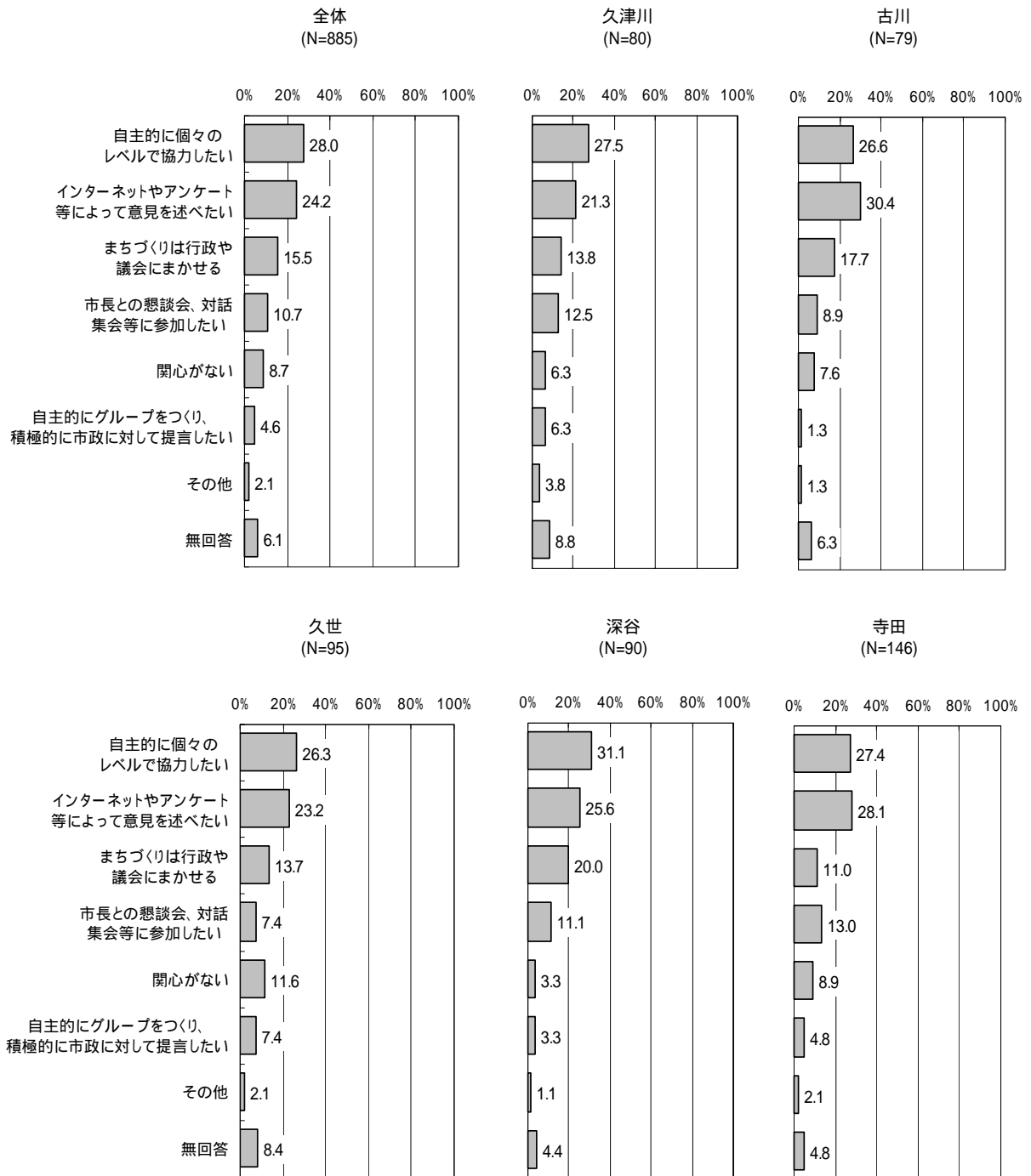
地域別では、久津川、久世、深谷、寺田南、寺田西、富野、青谷で「自主的に個々のレベルで協力したい」が最も多く、古川、寺田、今池で「インターネットやアンケート等によって意見を述べたい」が最も多くなっている。

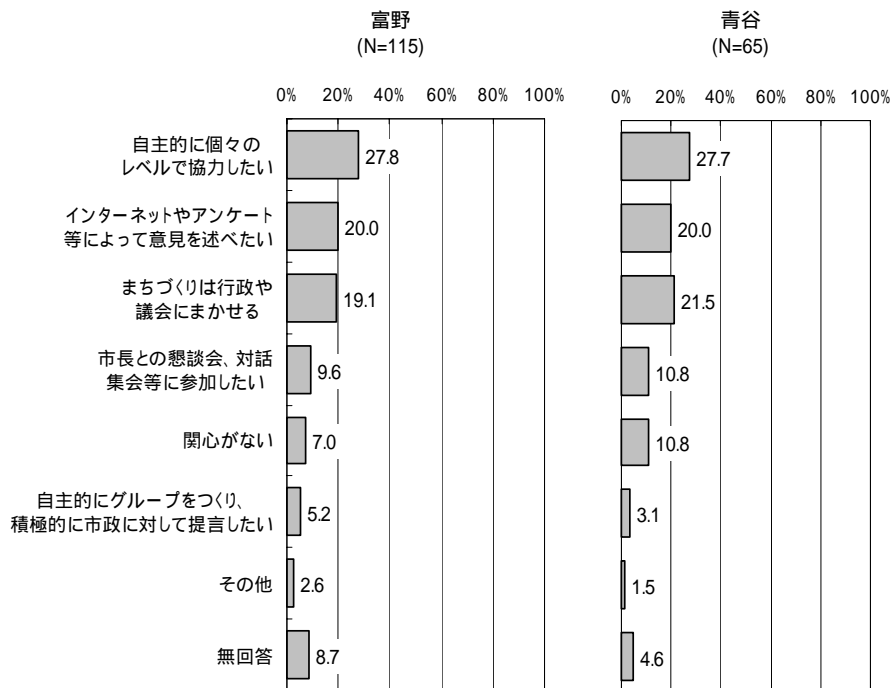
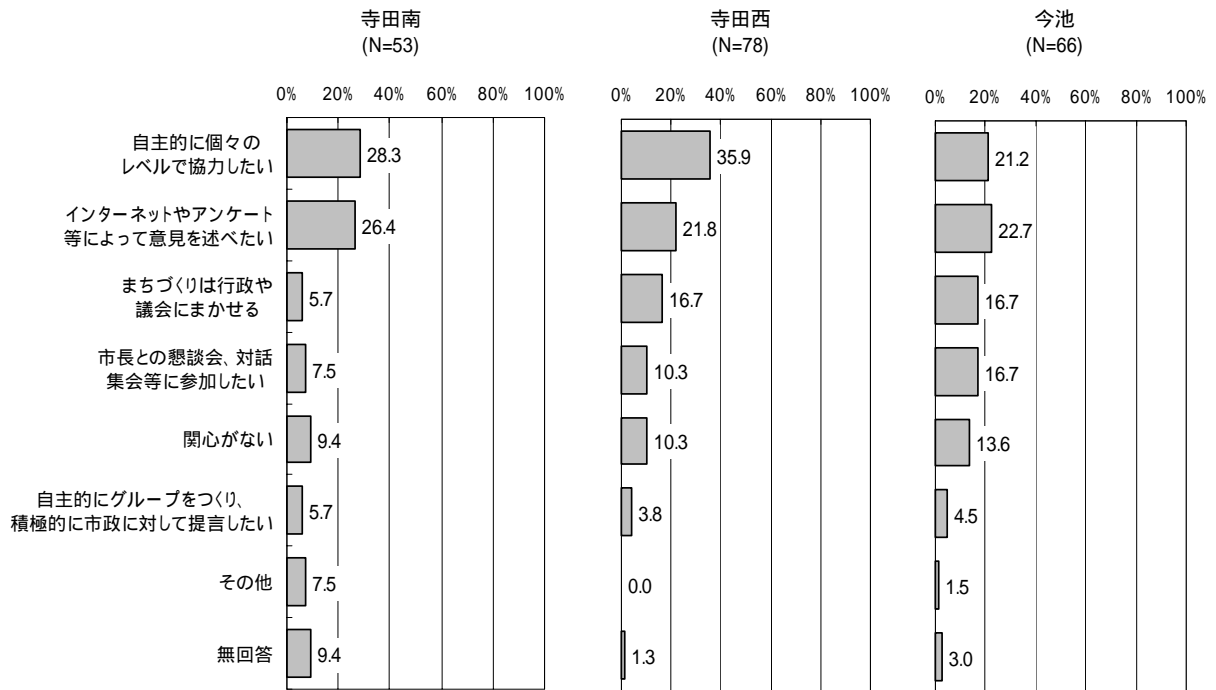
<年齢別>





< 地域別 >





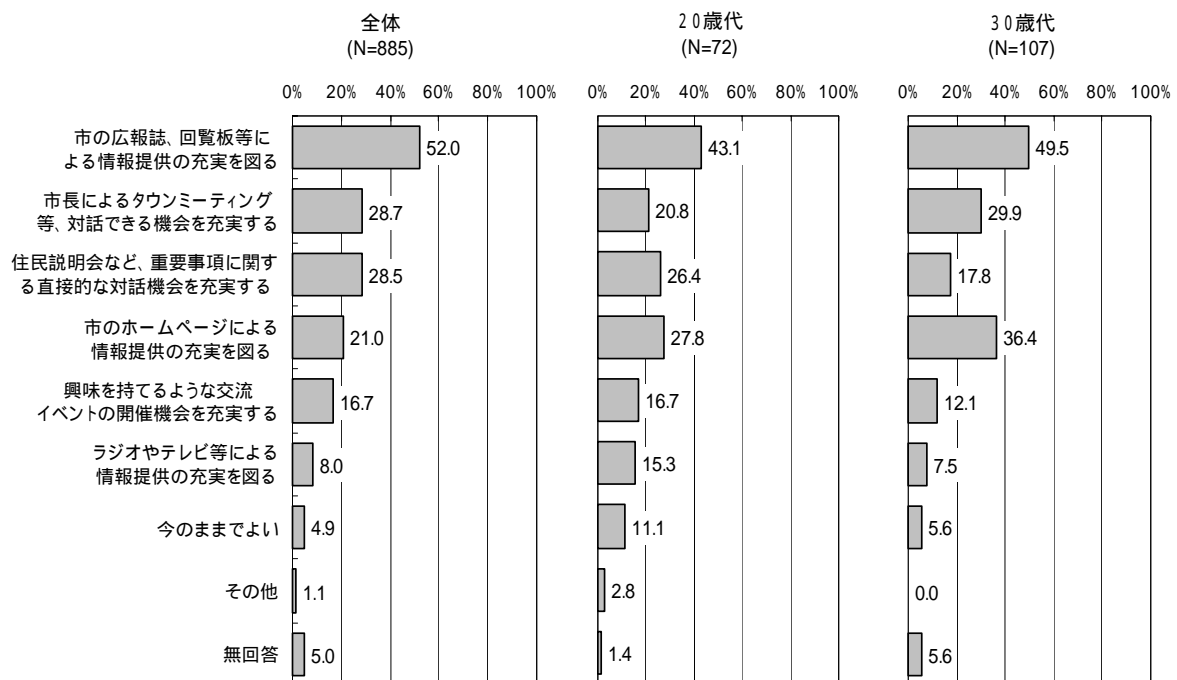
(2) 今後の市政運営にかかる情報提供について、どのような取り組みを強化すべきと考えますか。特に重要と考えるものに2つ以内で をつけてください。

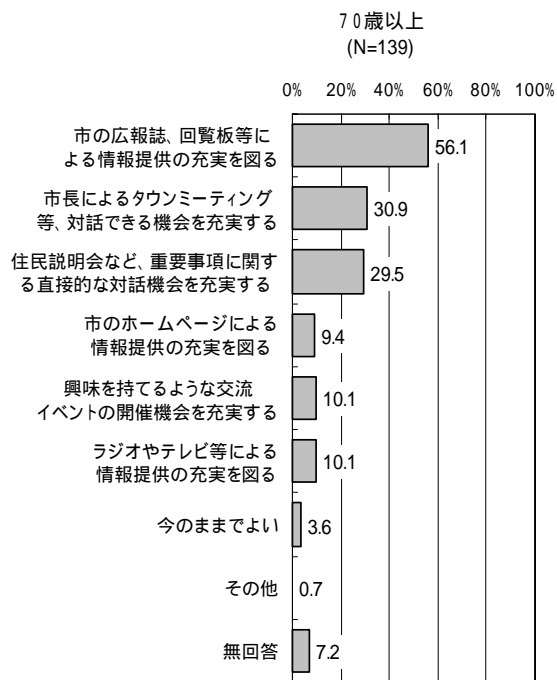
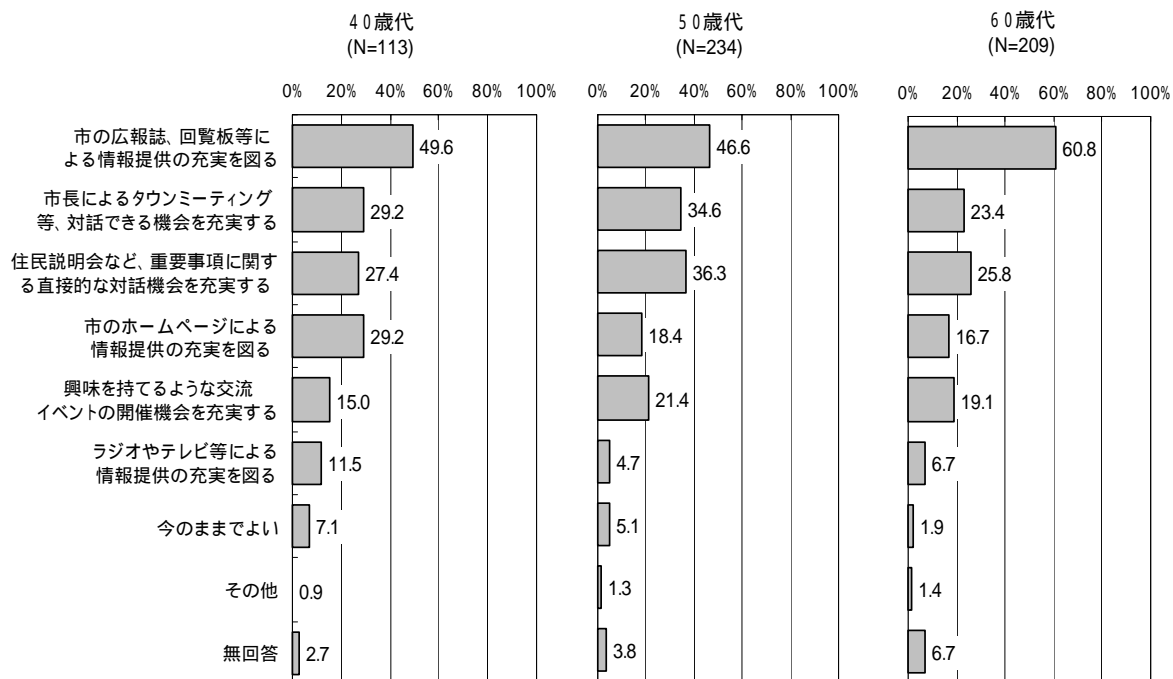
全体では、「市の広報誌、回覧板等による情報提供の充実を図る」が52.0%、「市長によるタウンミーティングや住民との懇談会など、気軽に対話ができる機会を充実する」が28.7%、「住民説明会など、重要事項に関する直接的な対話機会を充実する」が28.5%となっている。

年齢別では、すべての年齢層において「市の広報誌、回覧板等による情報提供の充実を図る」が最も多くなっている。なお、20歳代、30歳代では「市のホームページによる情報提供の充実を図る」の割合が50歳代以上と比較して高くなっている。また、50歳代、60歳代では「シンポジウムなど、興味を持てるような交流イベントの開催機会を充実する」の割合が他の年齢層と比較して高くなっている。

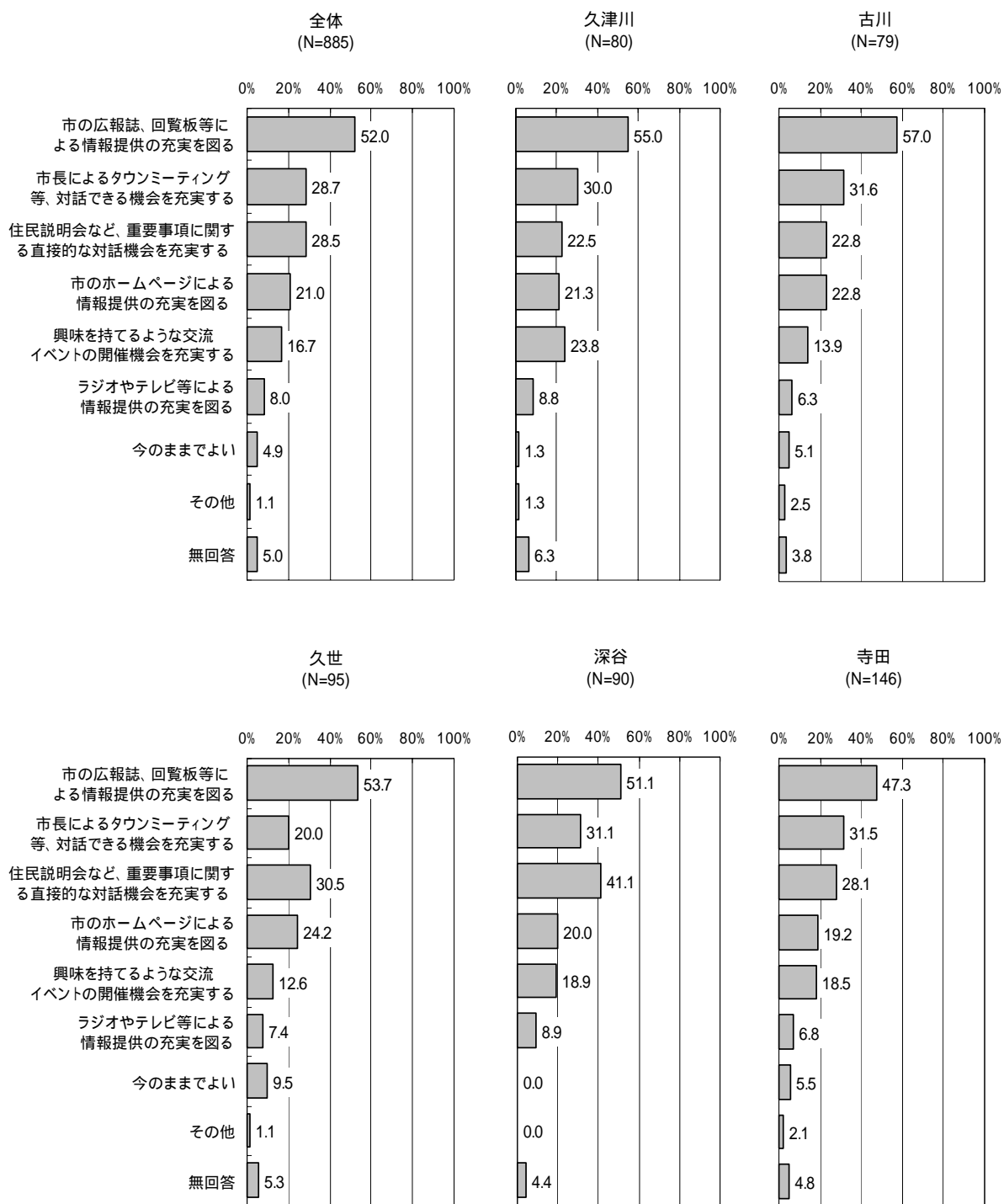
地域別では、大きな違いは見られないが、久世で「市長によるタウンミーティングや住民との懇談会など、気軽に対話ができる機会を充実する」が20.0%で他の地域と比較して割合が低くなっている。また、深谷では「住民説明会など、重要事項に関する直接的な対話機会を充実する」が41.1%で、他の地域と比較して割合が高くなっている。

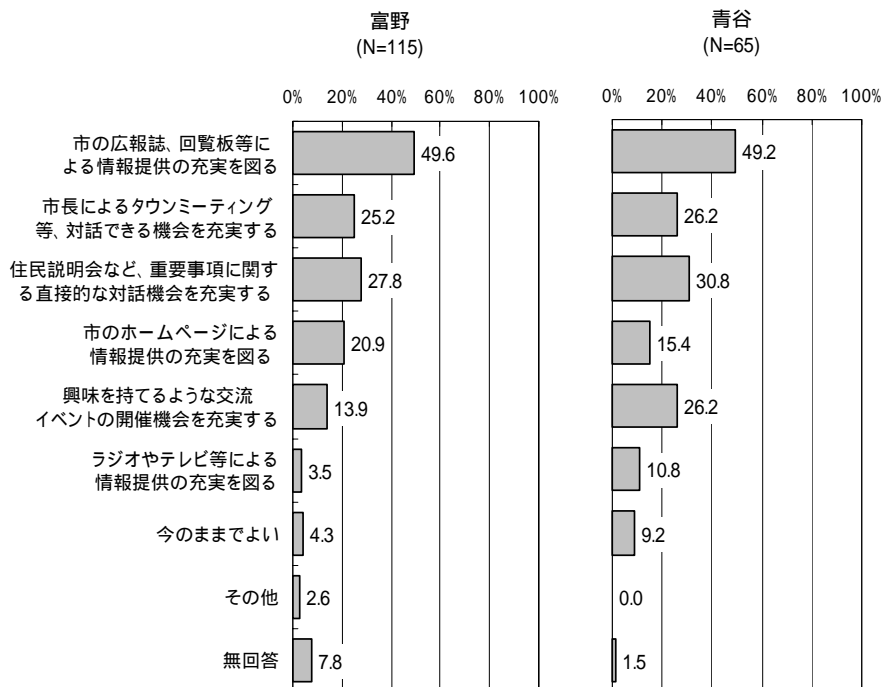
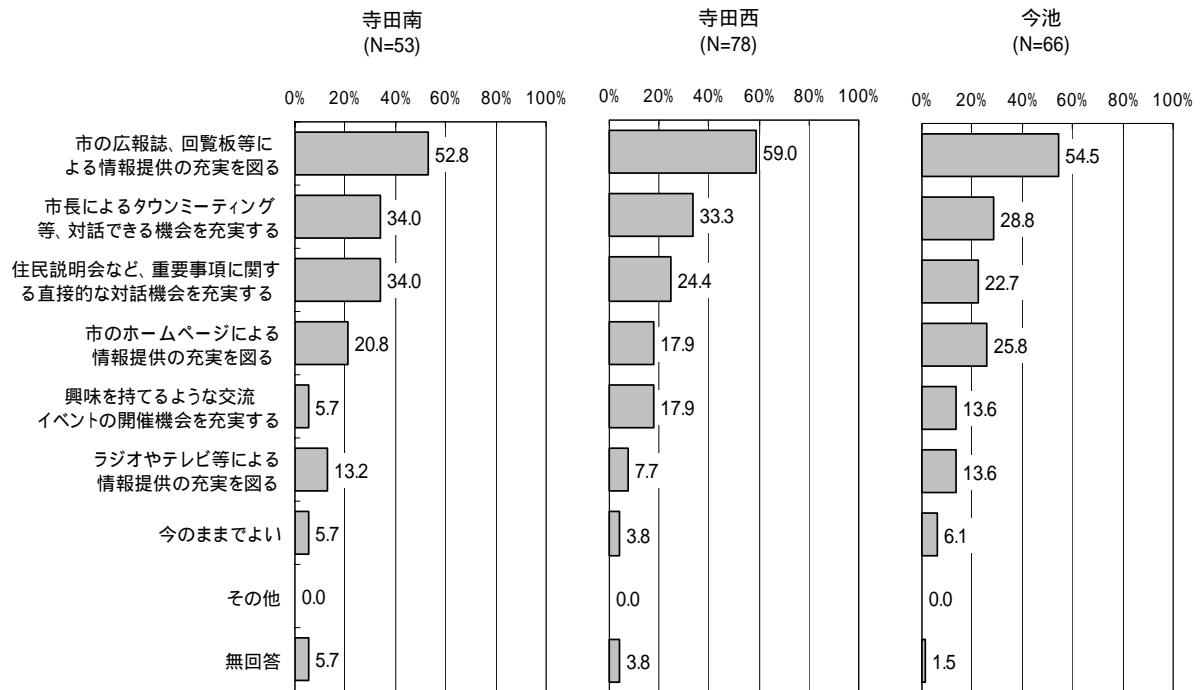
< 年齢別 >





< 地域別 >





(3) 市民と行政の協働によるまちづくりが求められる中、今後行政が果たすべき役割（特に人材や財源の使い方）に関し、(1)～(3)それぞれについて、あなたの考え方に近いものを1～4の中からそれぞれ1つ選んでをつけてください。

1) 投資・支援の公平性

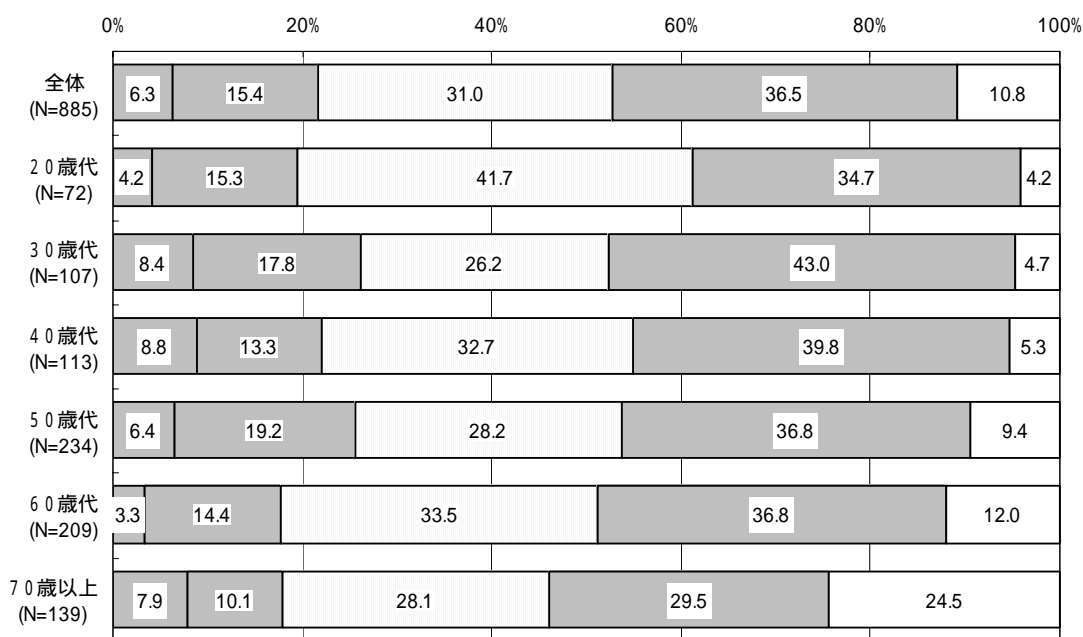
全体では、Bの“特定の団体や地域にかたよらずに、市民を広く支援するよう、公平性を重視して行うべき”の「考えに近い」が36.5%、「やや近い」が31.0%となっており、投資・支援については、公平性を重視することが望まれている。

年齢別では、すべての年齢層で、Bの公平性を重視することが望まれている。なお、70歳以上では、無回答が24.5%となっており、他の年齢層よりも割合が高くなっている。

地域別では、すべての地域で、Bの公平性を重視することが望まれている。なお、古川、寺田西、富野では、Bの考えに近い人が7割以上となっている。

<年齢別>

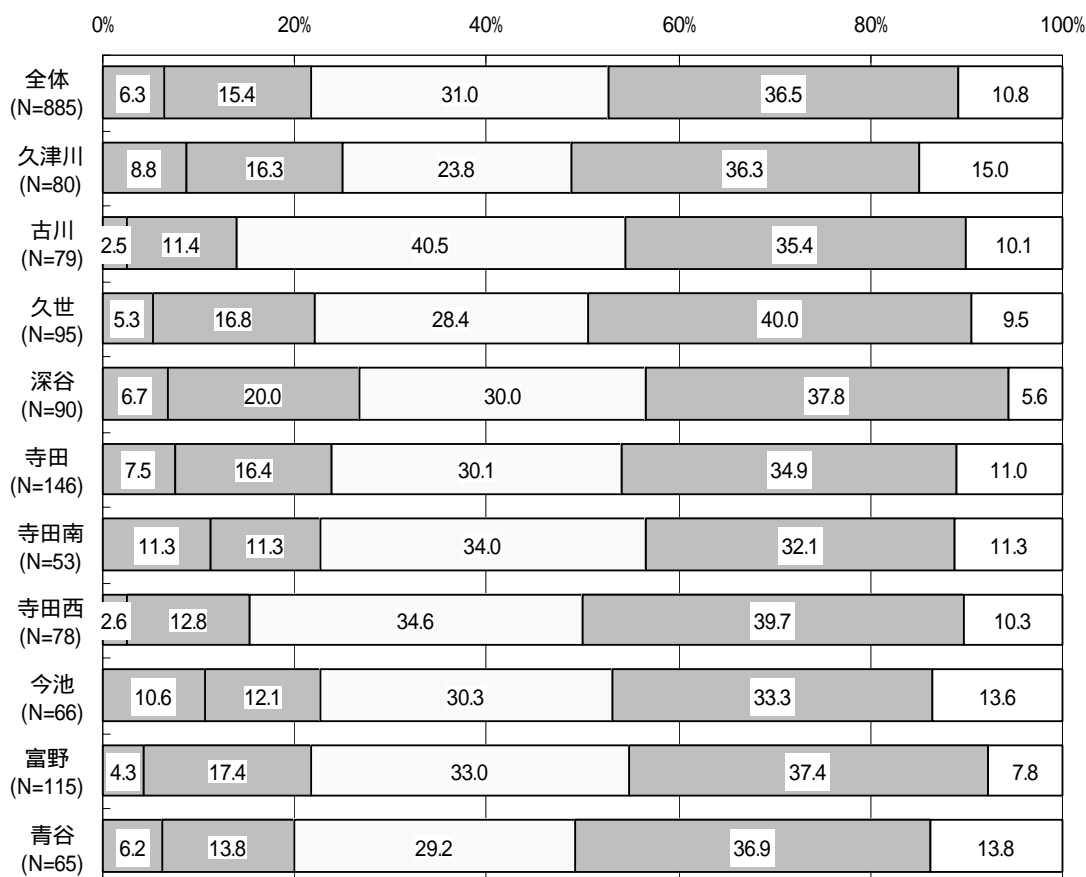
A：市民による地域活動等について、一律に支援するのではなく、積極的な団体や活動に対する支援を中心に力を注ぐべき
 B：特定の団体や地域にかたよらずに、市民を広く支援するよう、公平性を重視して行うべき



□ Aに近い □ ややAに近い □ ややBに近い □ Bに近い □ 無回答

< 地域別 >

A：市民による地域活動等について、一律に支援するのではなく、積極的な団体や活動に対する支援を中心に力を注ぐべき
 B：特定の団体や地域にかたよらずに、市民を広く支援するよう、公平性を重視して行うべき



Aに近い
 ややAに近い
 ややBに近い
 Bに近い
 無回答

2) 民間委託

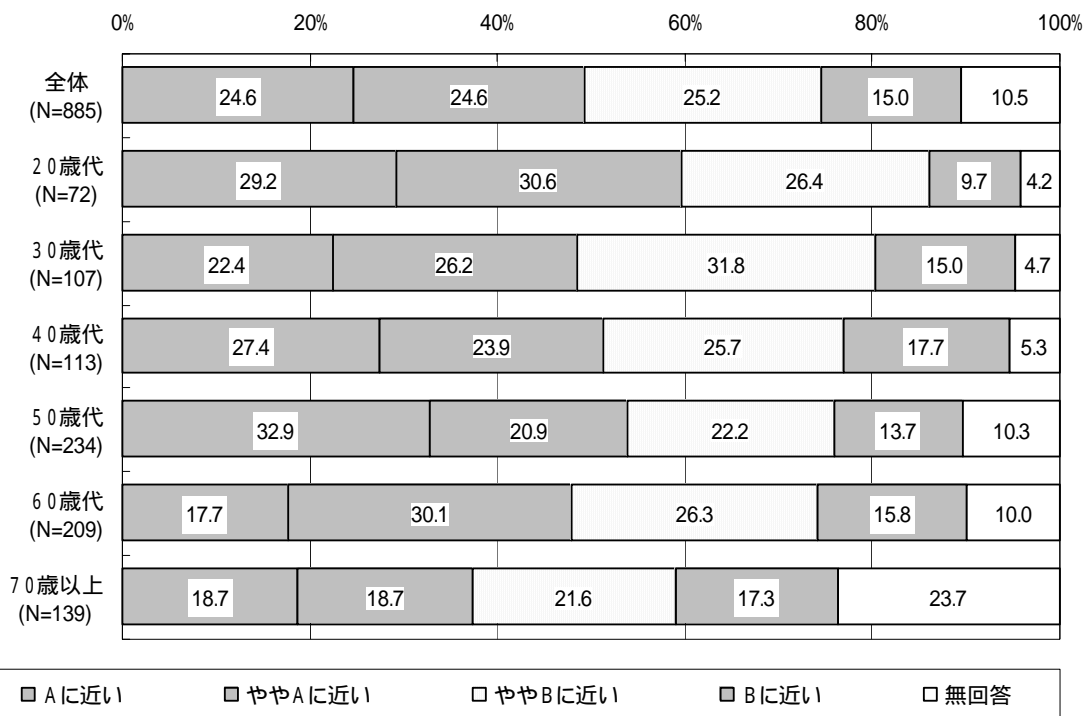
全体では、Bの“民間にできるサービスであっても、採算性の低いサービスが切り捨てられる恐れがあるため、できるだけ行政が行うべき”の「考えにやや近い」が25.2%で最も多いが、Aの“民間にできるサービスはできるだけ民間にまかせ、行政はできるだけスリム化を図るべき”の「考えに近い」「やや近い」がともに24.6%となっており、民間委託については、できるだけ民間にまかせて行政はスリム化を図ることが望まれている。

年齢別では、60歳代、70歳以上でAの「考えに近い」が2割以下であり、他の年齢層と比較して割合が低くなっている。なお、70歳以上ではAよりも、Bの「考えに近い」「やや近い」人の方が多くなっている。

地域別では、久津川、寺田南でAの「考えに近い」が2割以下であり、他の地域と比較して割合が低くなっている。

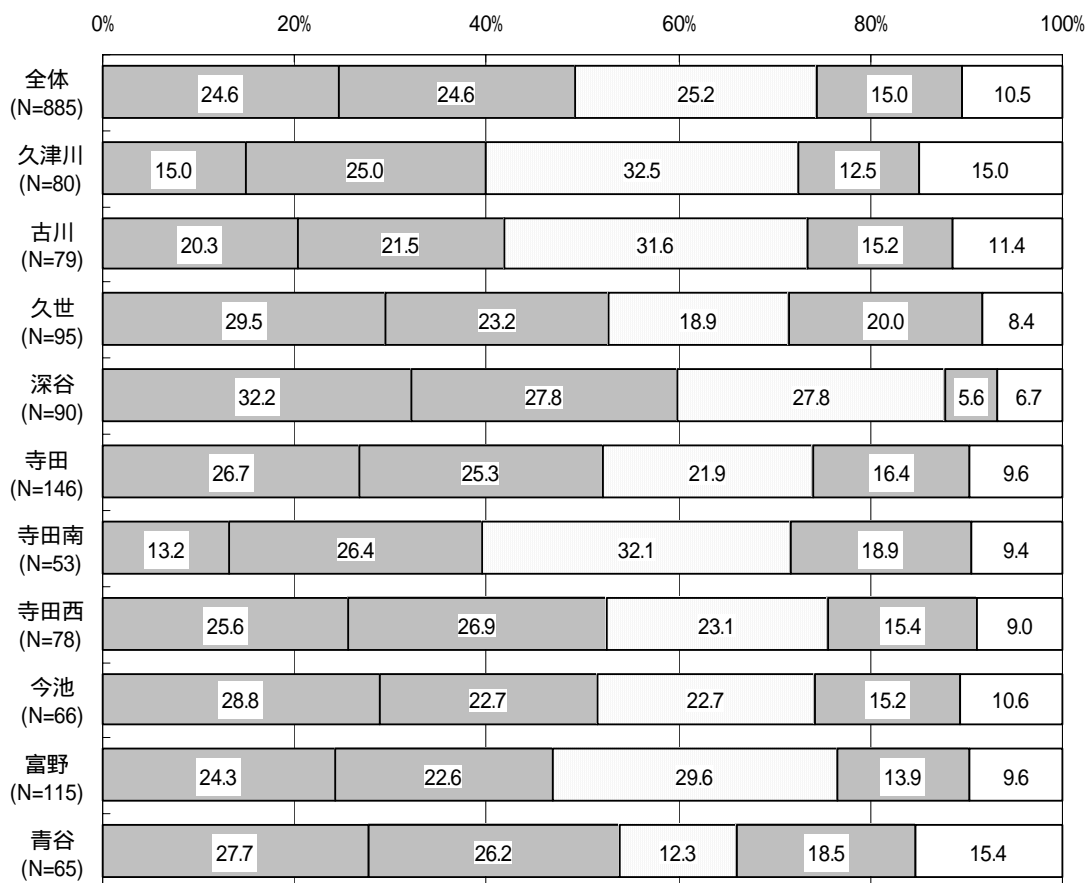
<年齢別>

A：民間にできるサービスはできるだけ民間にまかせ、行政はできるだけスリム化を図るべき
 B：民間にできるサービスであっても、採算性の低いサービスが切り捨てられる恐れがあるため、できるだけ行政が行うべき



< 地域別 >

A : 民間にできるサービスはできるだけ民間にまかせ、行政はできるだけスリム化を図るべき
 B : 民間にできるサービスであっても、採算性の低いサービスが切り捨てられる恐れがあるため、できるだけ行政が行うべき



Aに近い
 ややAに近い
 ややBに近い
 Bに近い
 無回答

3) 地域への関与

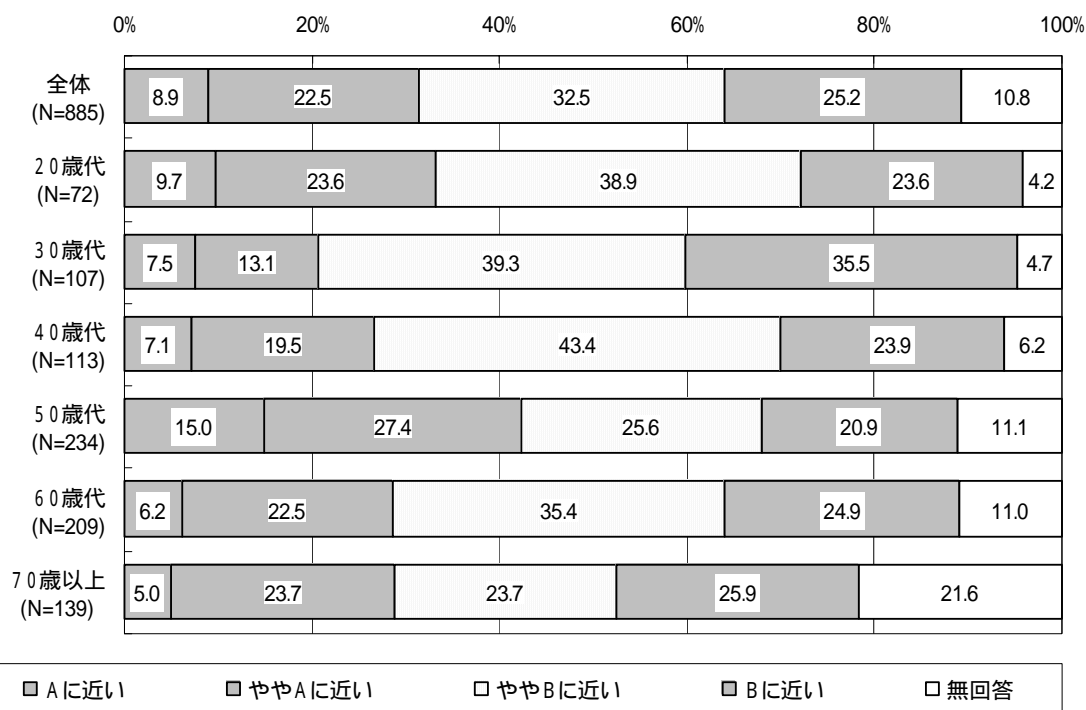
全体では、Bの“我々市民は税金を払っているわけだから、公共空間の美化等に関するサービスは行政が責任をもって実施すべき”の「考えにやや近い」が32.5%、「考えに近い」が25.2%となっており、公共空間の美化など地域への関与については、行政が責任を持って実施することが望まれている。

年齢別では、すべての年齢層でBの考えに近い人の方が多くなっている。なお、50歳代では、Aの「考えに近い」が15.0%であり、他の年齢層と比較して割合が高くなっている。

地域別では、すべての地域でBの考えに近い人の方が多くなっており、特に久世では、Bの「考えに近い」「やや近い」人が65.3%で10地域の中で最も割合が高くなっている。

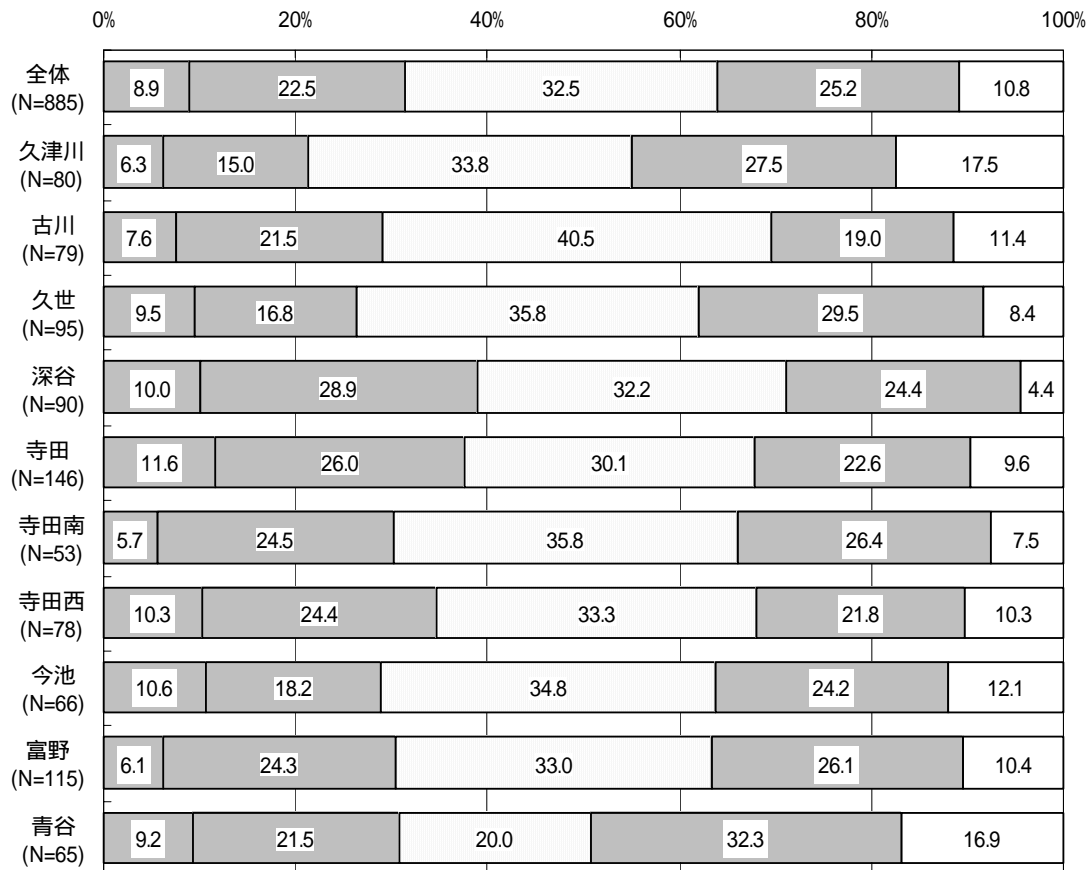
<年齢別>

A：身近な公共空間の美化など、個人や地域住民で行えることは、できるだけ行政が関与すべきでない
 B：我々市民は税金を払っているわけだから、公共空間の美化等に関するサービスは行政が責任をもって実施すべき



< 地域別 >

A : 身近な公共空間の美化など、個人や地域住民で行えることは、できるだけ行政が関与すべきでない
 B : 我々市民は税金を払っているわけだから、公共空間の美化等に関するサービスは行政が責任をもって実施すべき



□ Aに近い □ ややAに近い □ ややBに近い □ Bに近い □ 無回答

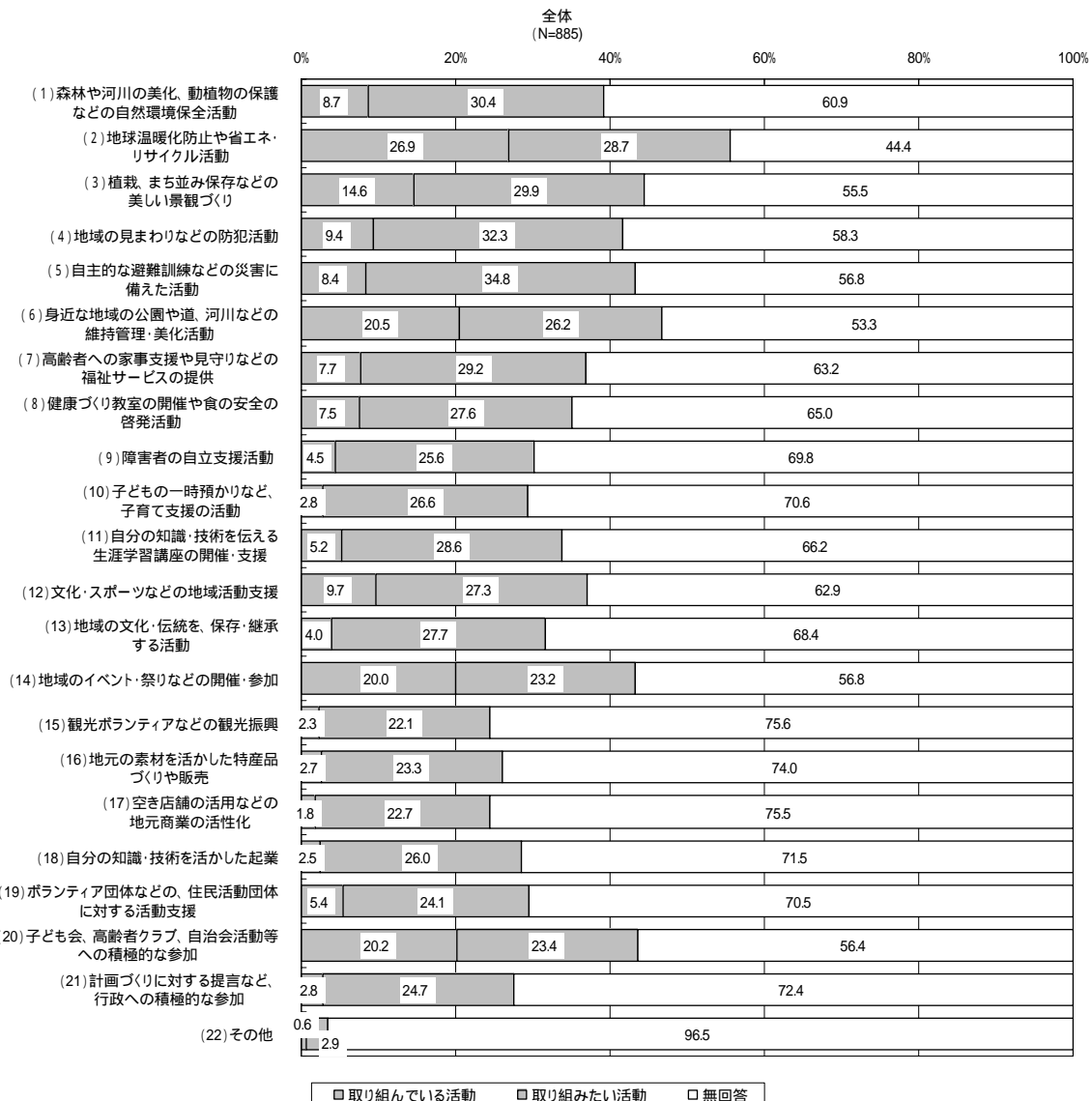
(4) お住まいの地域あるいは城陽市内における、あなたの地域活動についておたずねします。あてはまるものにすべてをつけてください。

全体では、取り組んでいる活動として、「(2) 地球温暖化防止や省エネ・リサイクル活動」「(6) 身近な地域の公園や道、河川などの維持管理・美化活動」「(14) 地域のイベント・祭りなどの開催・参加」「(20) 子ども会、高齢者クラブ、自治会活動等への積極的な参加」の4活動に取り組んでいる人の割合が高くなっている。

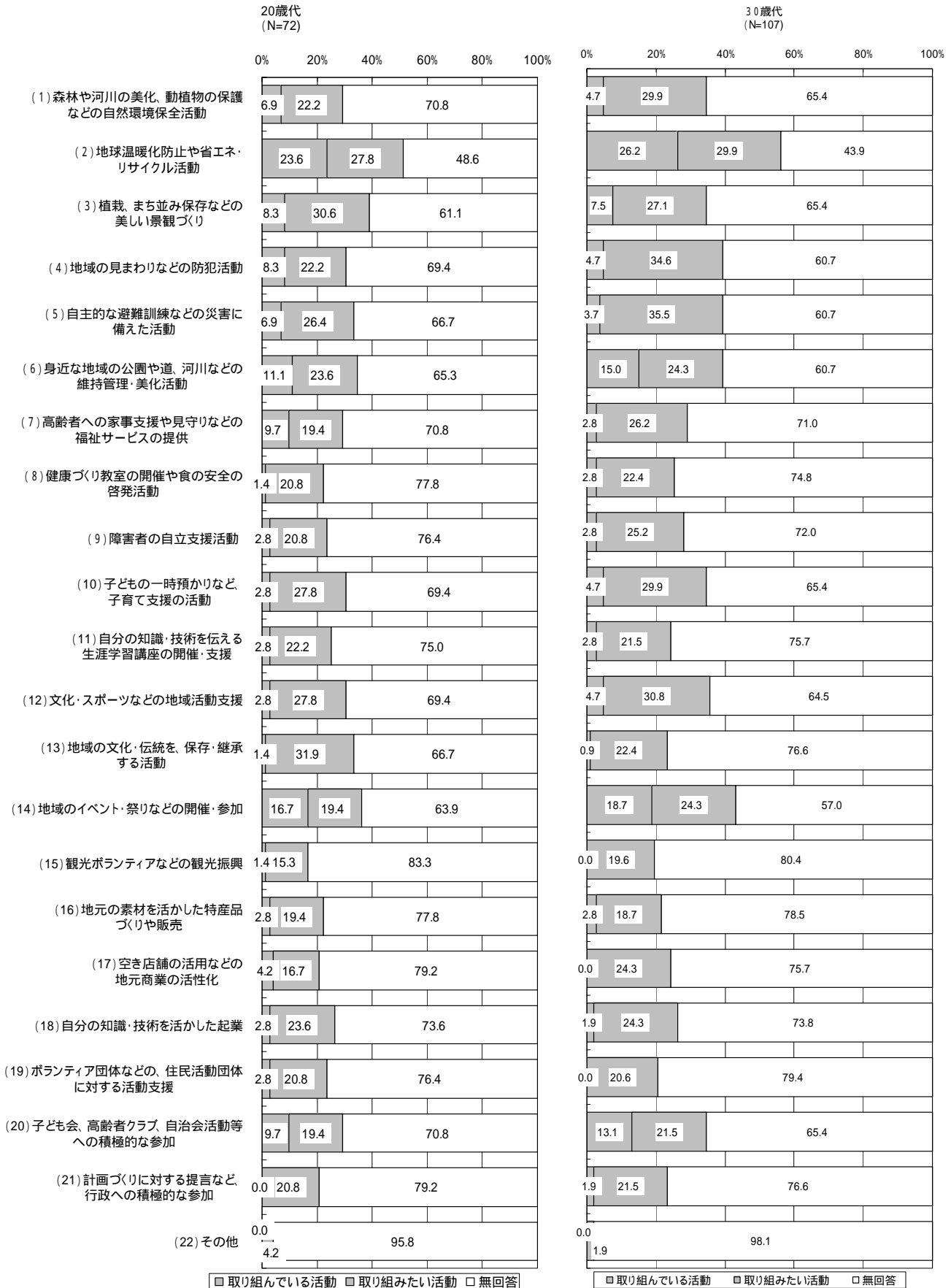
また、取り組みたい活動として、「(1) 森林や河川の美化、動植物の保護などの自然環境保全活動」「(4) 地域の見まわりなどの防犯活動」「(5) 自主的な避難訓練などの災害に備えた活動」の3活動の割合が高くなっている。

年齢別では、40歳代で「(2) 地球温暖化防止や省エネ・リサイクル活動」「(14) 地域のイベント・祭りなどの開催・参加」「(20) 子ども会、高齢者クラブ、自治会活動等への積極的な参加」に取り組んでいる人が約3割となっている。また、50歳代、60歳代では他の年齢層と比較して、取り組みたい活動が多くあげられている。

地域別では、深谷、寺田南、青谷で、「(2) 地球温暖化防止や省エネ・リサイクル活動」に取り組んでいる人が約3割となっており、他の地域と比較して割合が高くなっている。

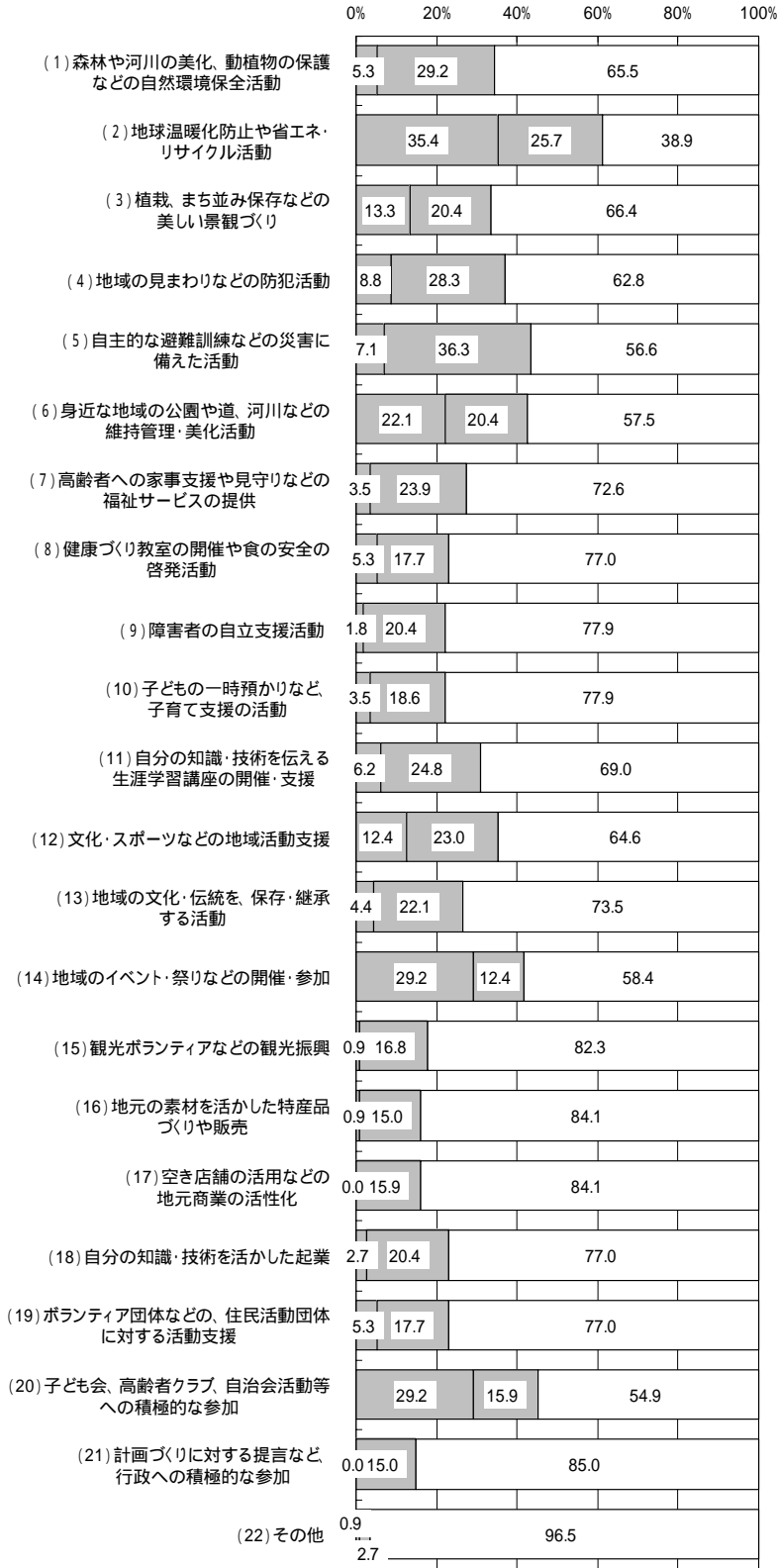


< 年齢別 >

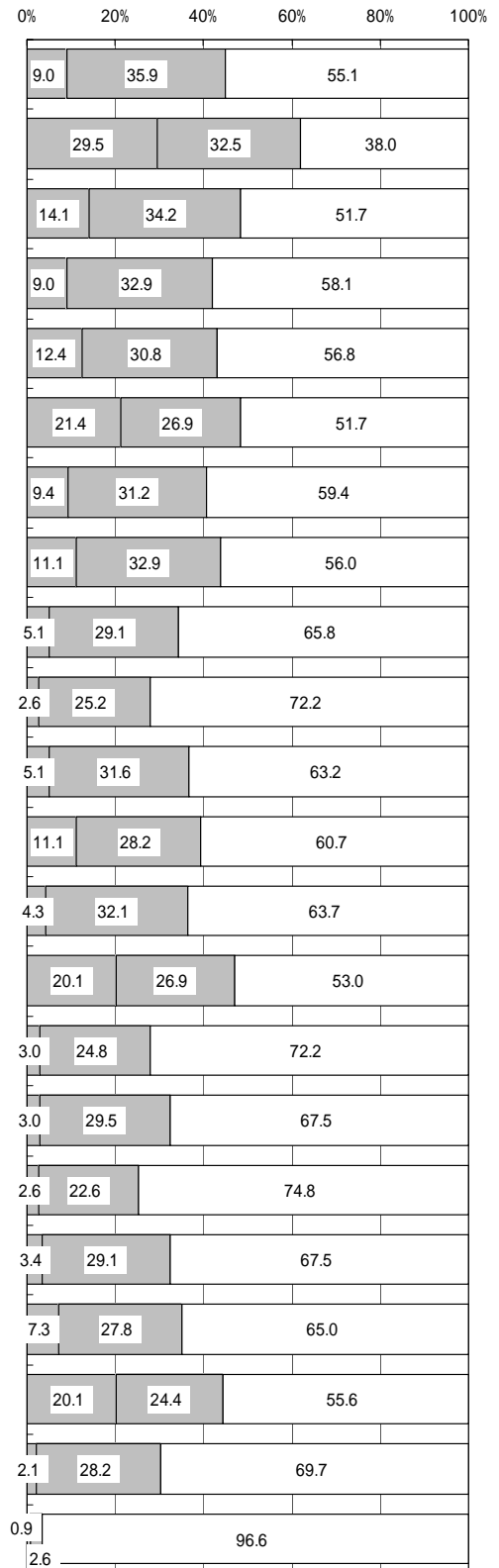


40歳代
(N=113)

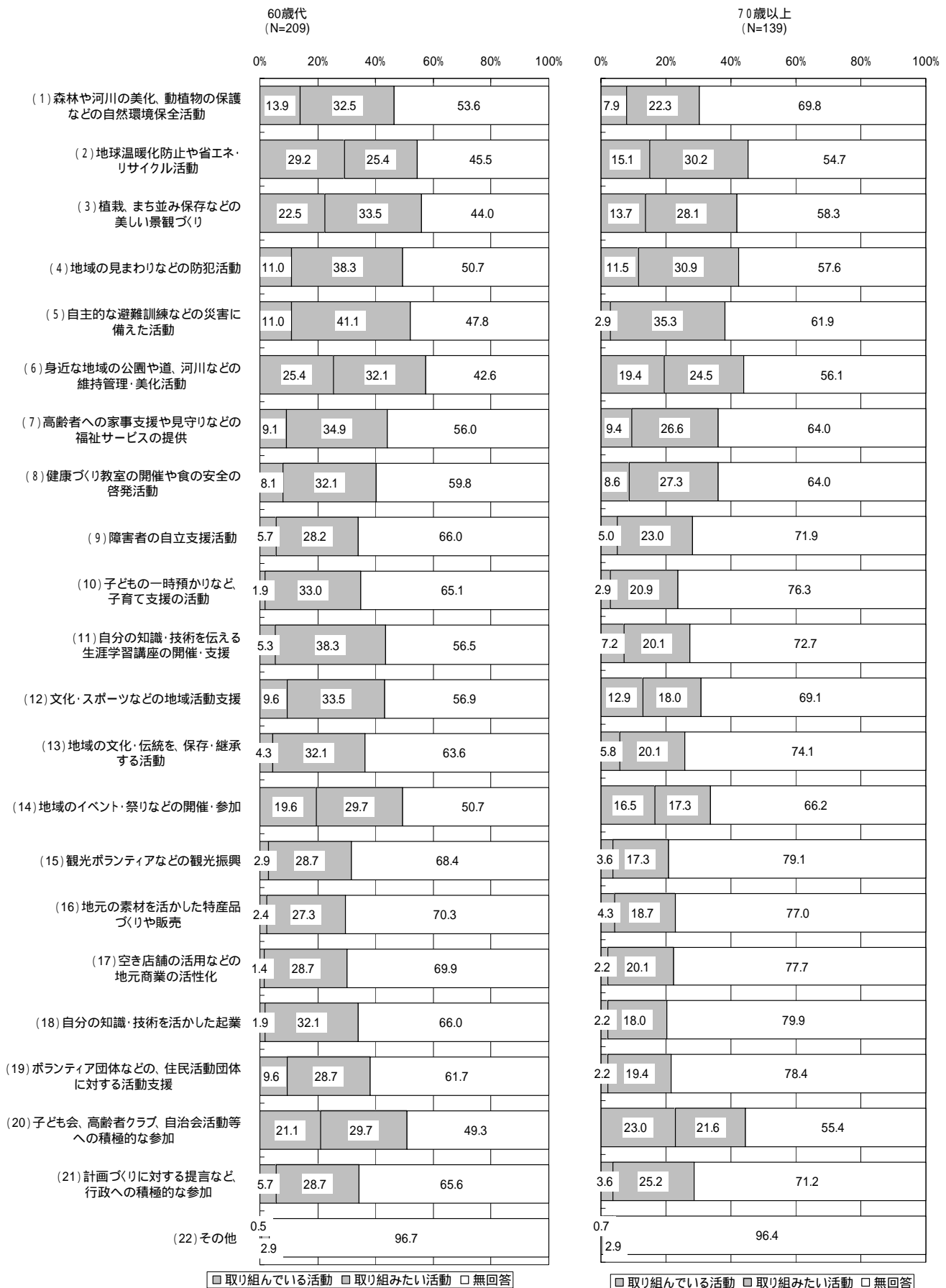
50歳代
(N=234)



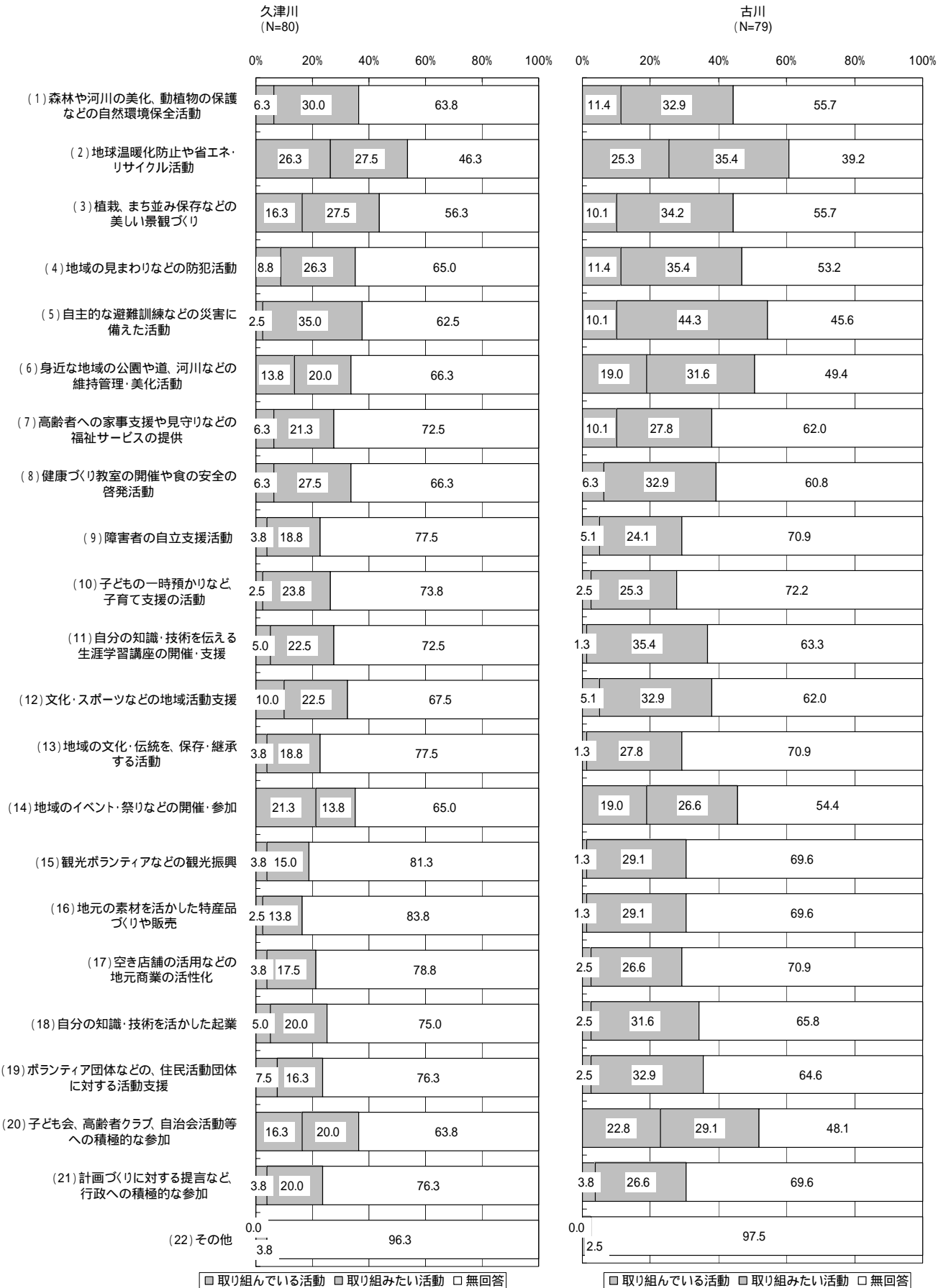
■ 取り組んでいる活動 □ 取り組みたい活動 □ 無回答

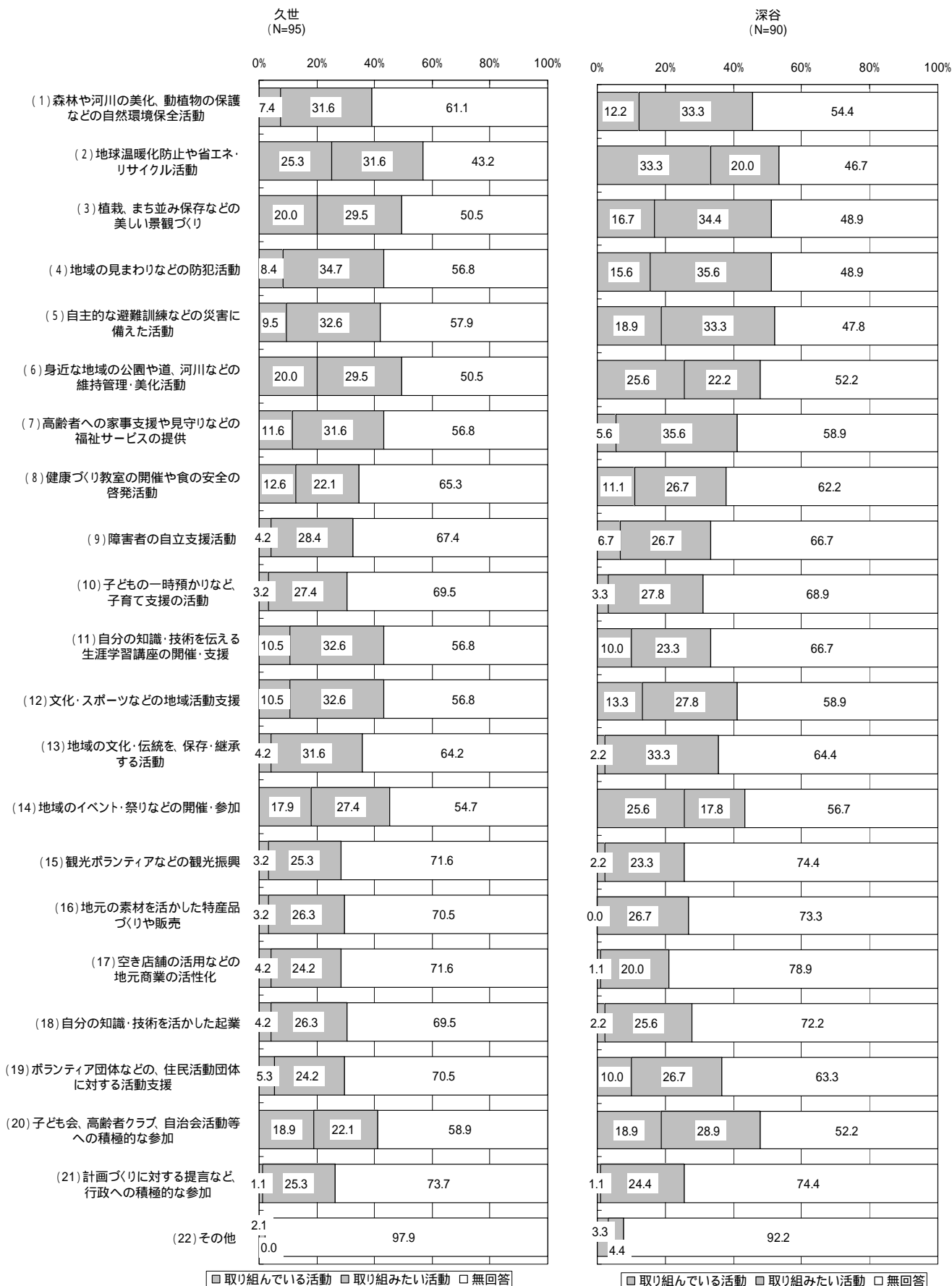


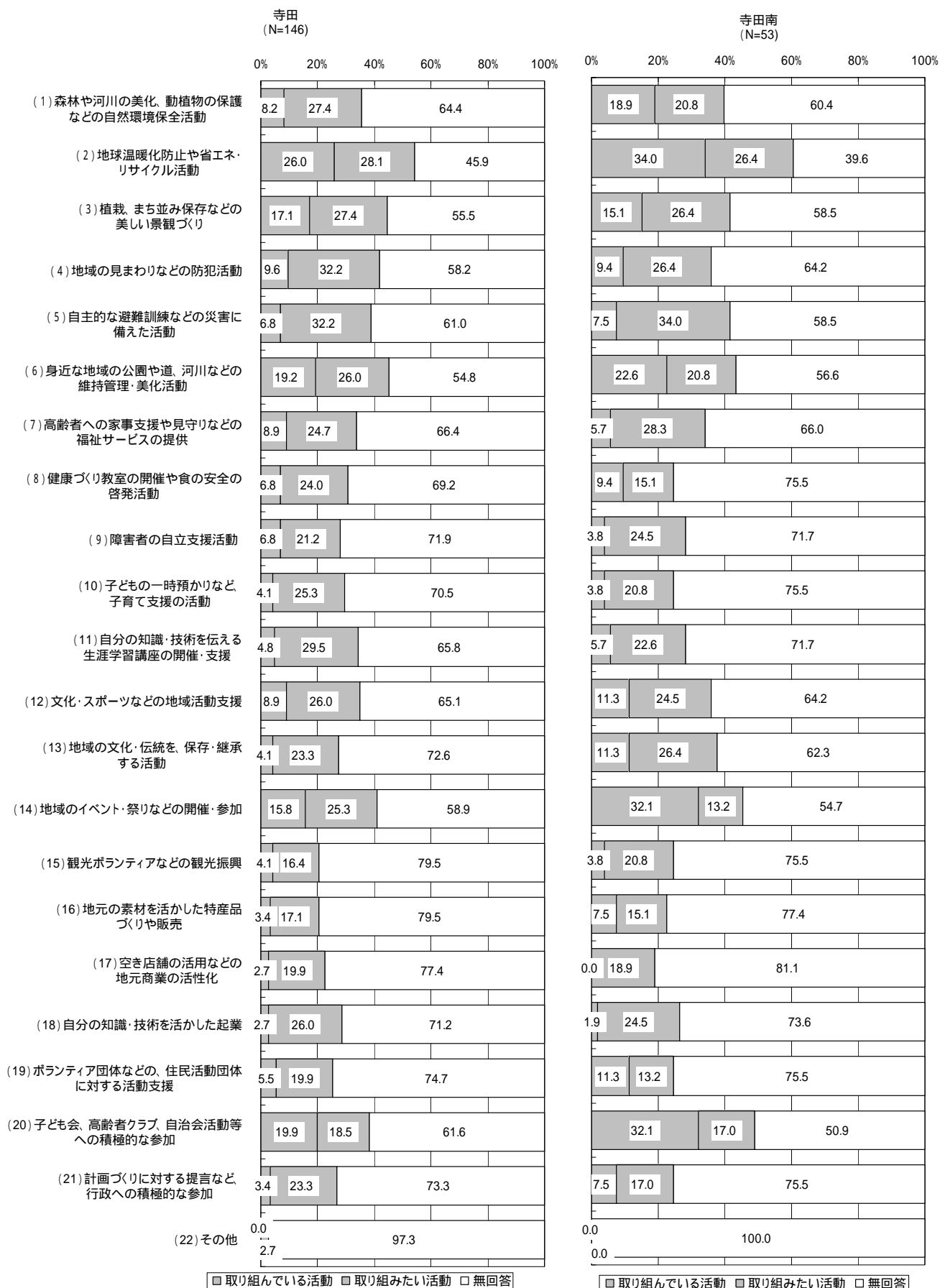
■ 取り組んでいる活動 □ 取り組みたい活動 □ 無回答

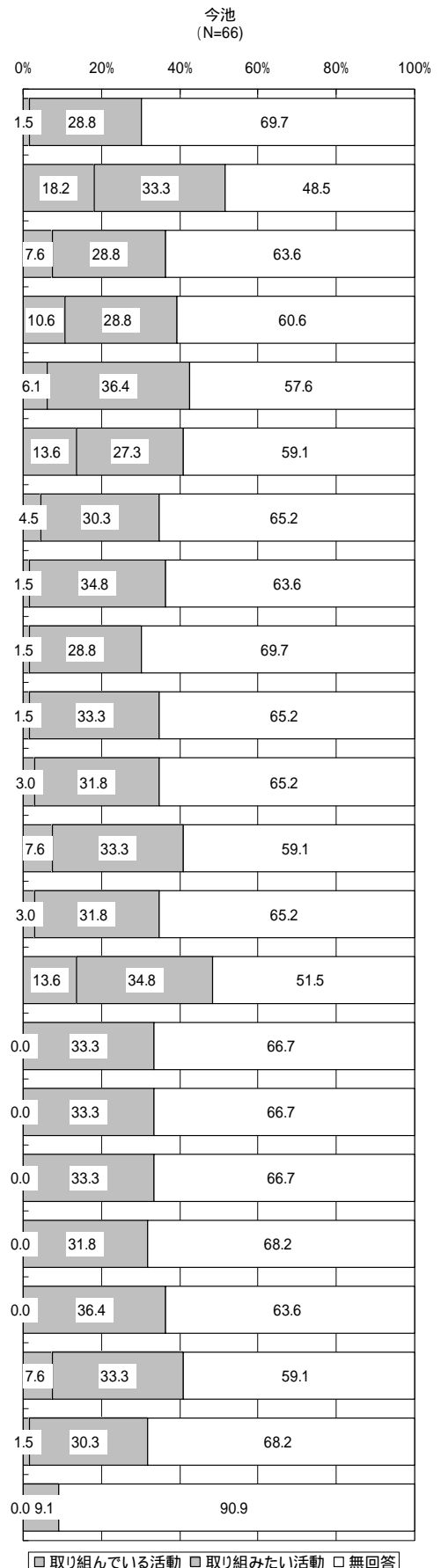
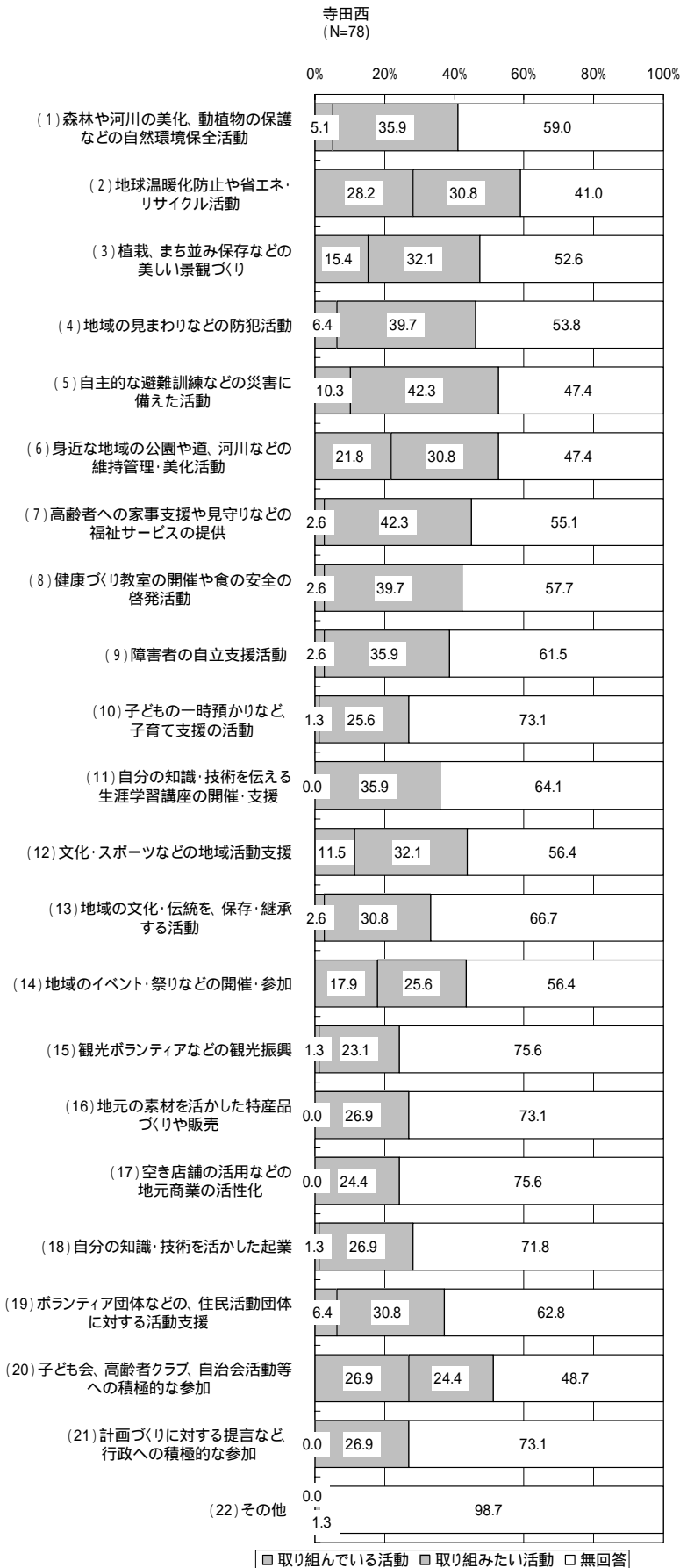


< 地域別 >











若年層の定住化対策について

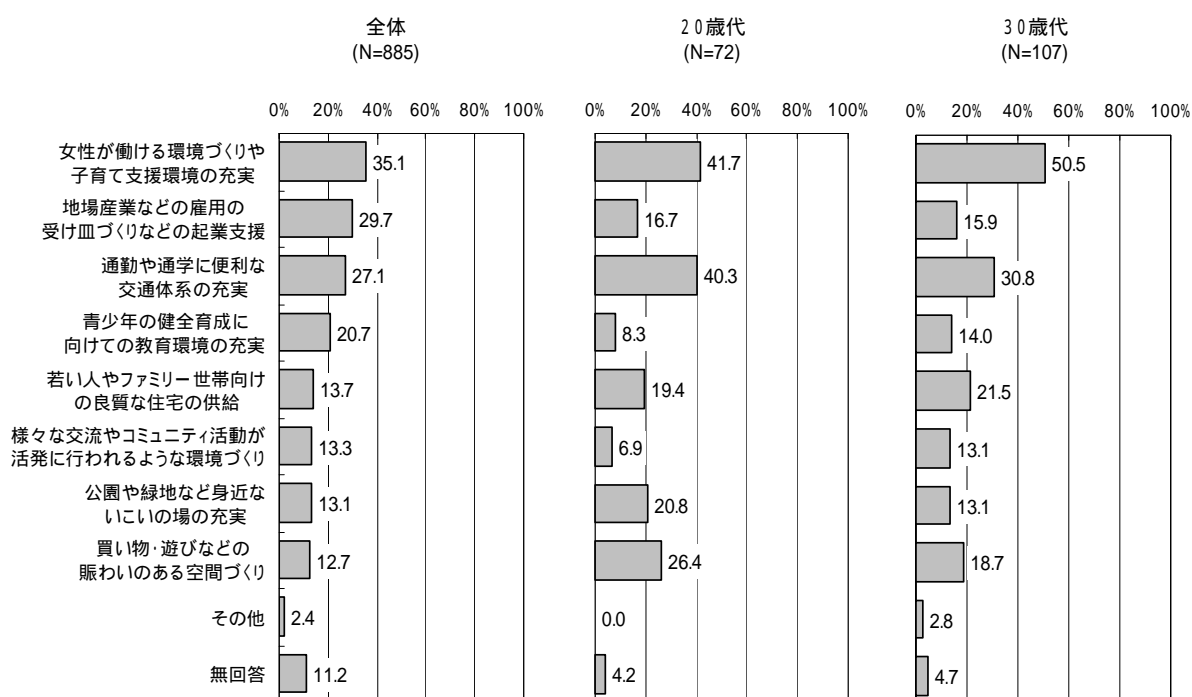
(1) 今後、活力ある城陽市を維持していくためには、次代を担う若年層の定住を促進していくことが必要不可欠と考えられます。城陽市における定住促進対策として、特にどのような施策を強化していく必要があると思われますか。あてはまるものに2つ以内でをつけてください。

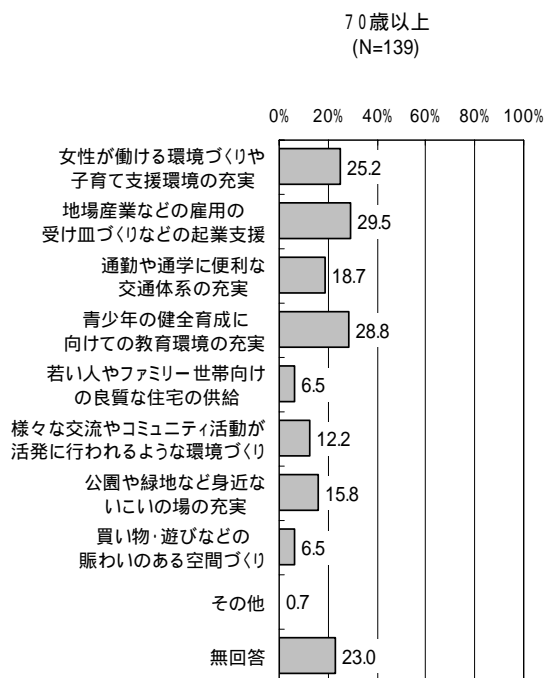
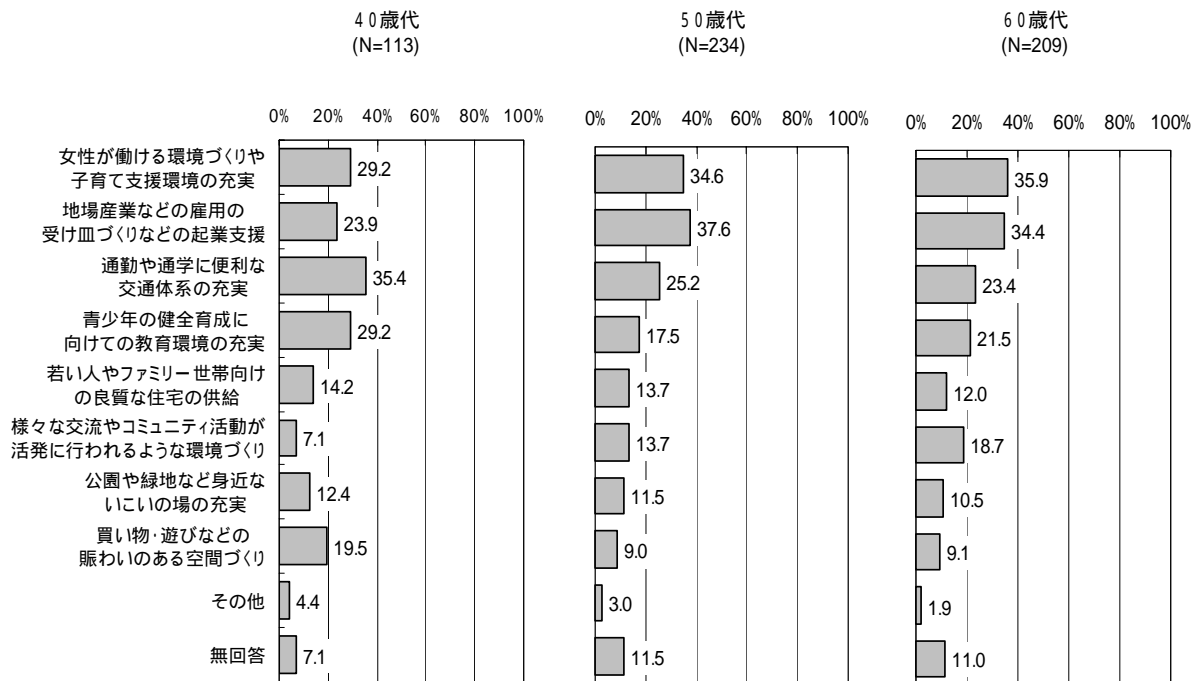
全体では、「女性が働ける環境づくりや子育て支援環境の充実」が35.1%、「地場産業や新たな産業振興による雇用の受け皿づくりや、ベンチャー企業などの起業支援」が29.7%、「通勤や通学に便利な交通体系の充実」が27.1%となっている。

年齢別では、20歳代、30歳代、40歳代で「女性が働ける環境づくりや子育て支援環境の充実」「通勤や通学に便利な交通体系の充実」を回答した人の割合が高くなっている。また、50歳代、60歳代では「女性が働ける環境づくりや子育て支援環境の充実」「地場産業や新たな産業振興による雇用の受け皿づくりや、ベンチャー企業などの起業支援」の割合が高く、70歳以上では「地場産業や新たな産業振興による雇用の受け皿づくりや、ベンチャー企業などの起業支援」「青少年の健全育成に向けての教育環境の充実」の割合が高くなっている。

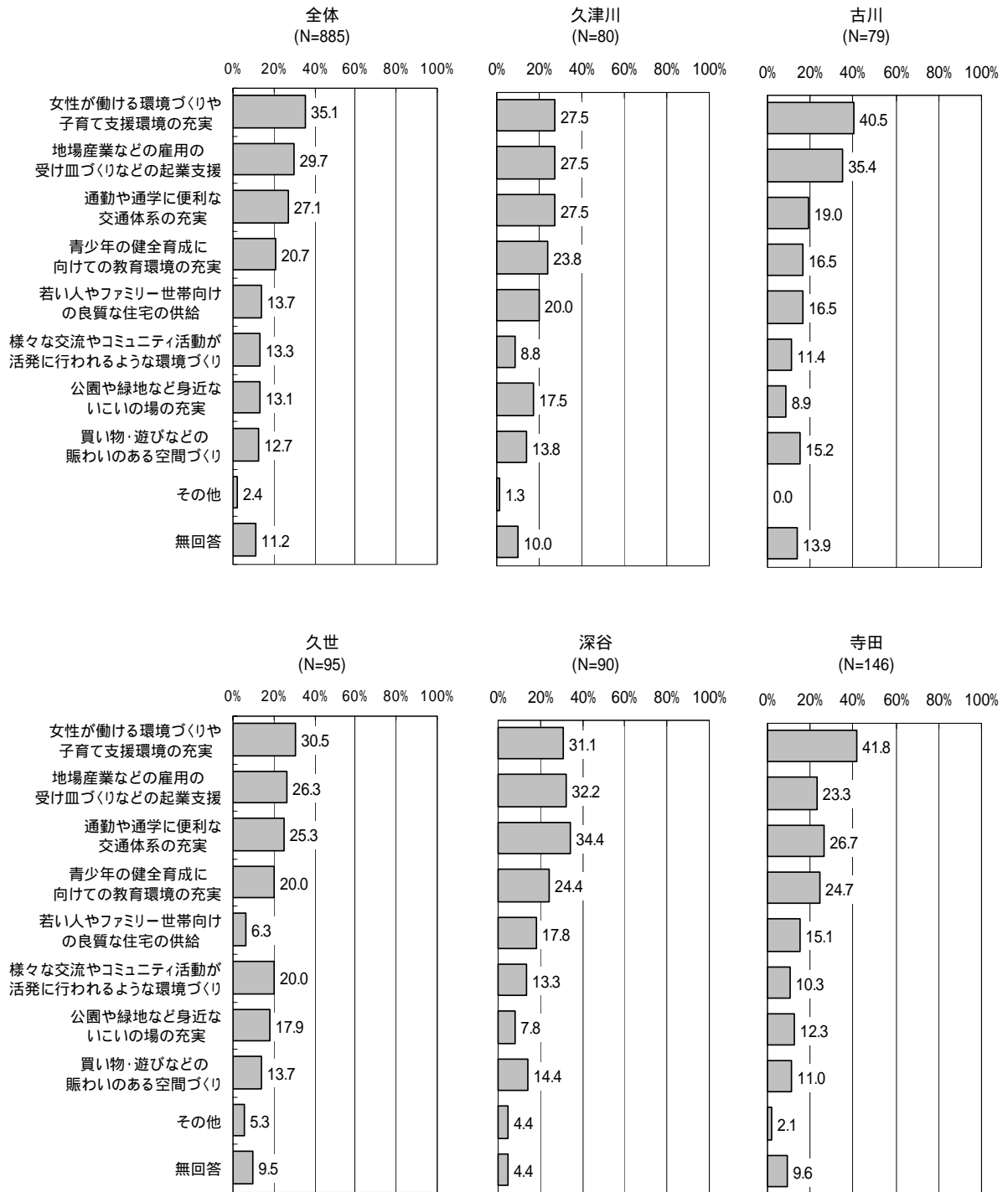
地域別では、古川、久世、寺田、寺田南、寺田西、今池、富野で「女性が働ける環境づくりや子育て支援環境の充実」が最も多くなっているのに対し、深谷では「通勤や通学に便利な交通体系の充実」が、青谷では「地場産業や新たな産業振興による雇用の受け皿づくりや、ベンチャー企業などの起業支援」が最も多くなっている。なお、久津川では、「女性が働ける環境づくりや子育て支援環境の充実」「地場産業や新たな産業振興による雇用の受け皿づくりや、ベンチャー企業などの起業支援」「通勤や通学に便利な交通体系の充実」がすべて27.5%で最も多くなっている。

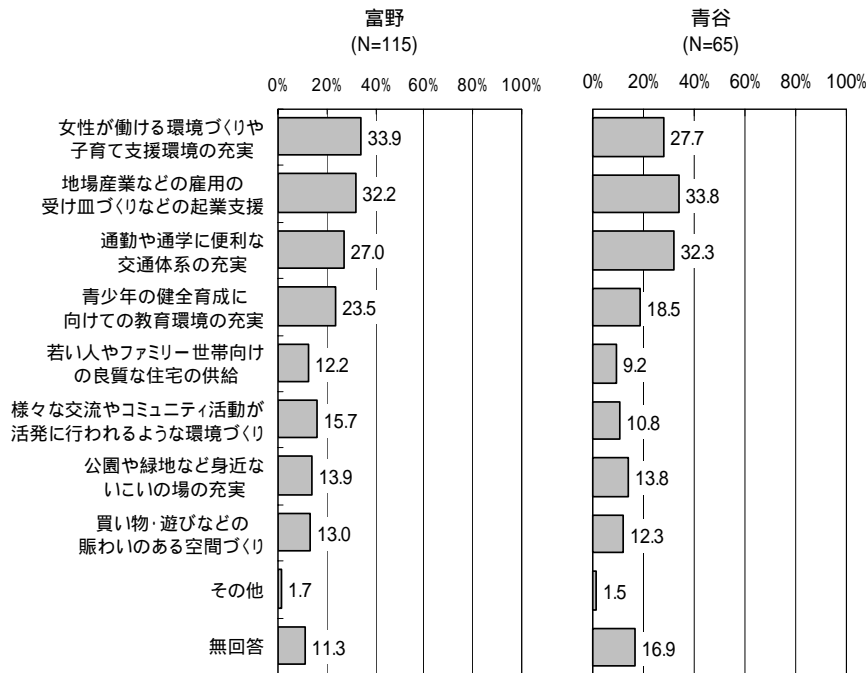
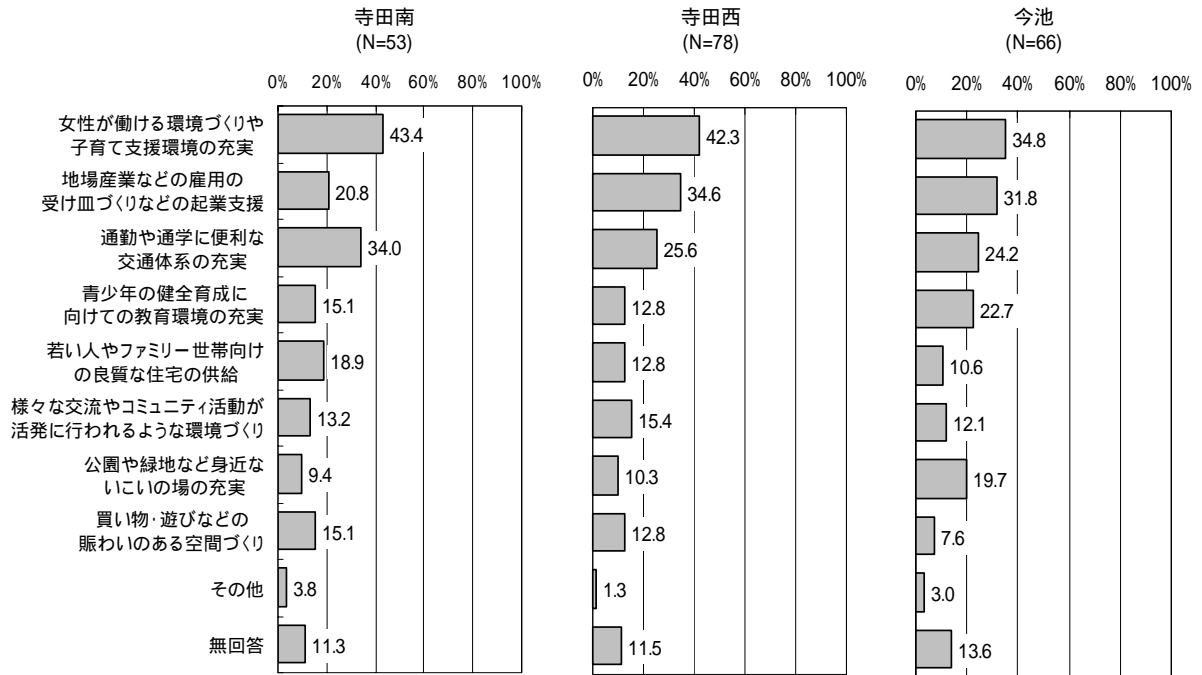
< 年齢別 >





< 地域別 >





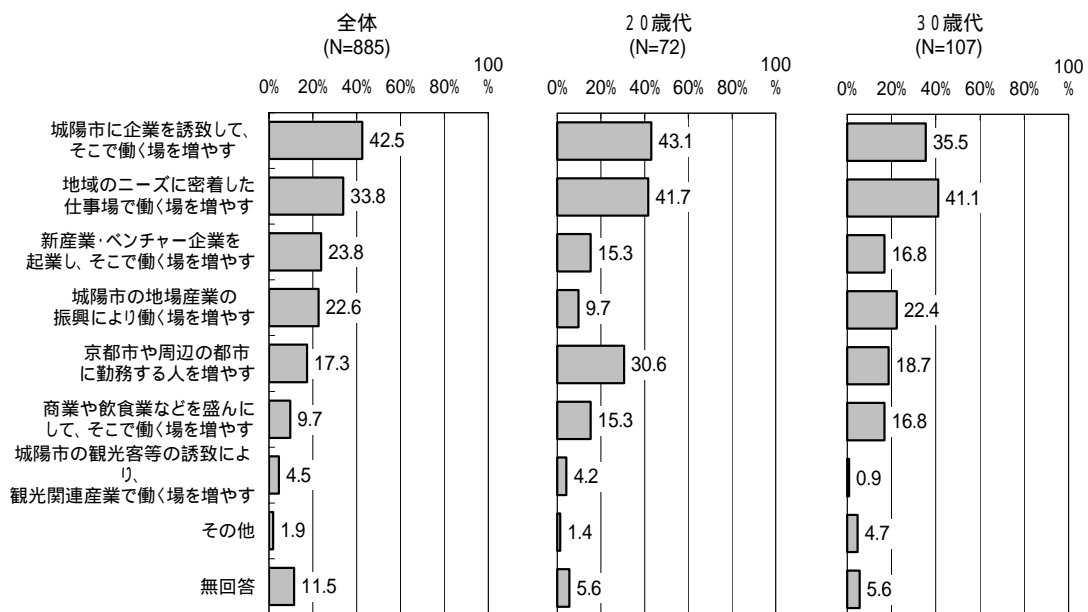
(2) 若者の定住を促進するためにも、働く場を確保する必要がありますが、その手段として、望ましいものは次のうちのどの項目ですか。あてはまるものに2つ以内でをつけてください。

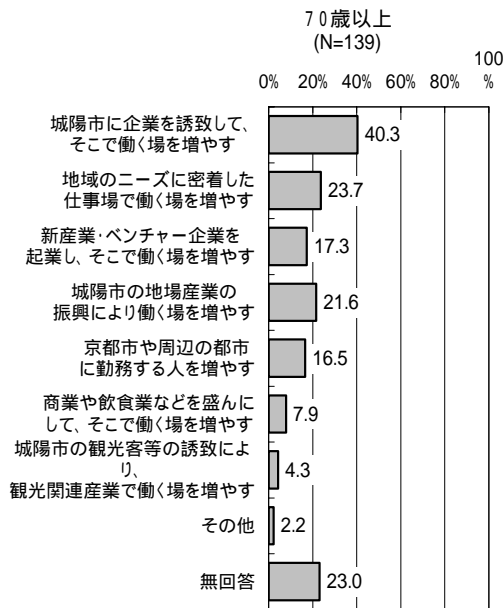
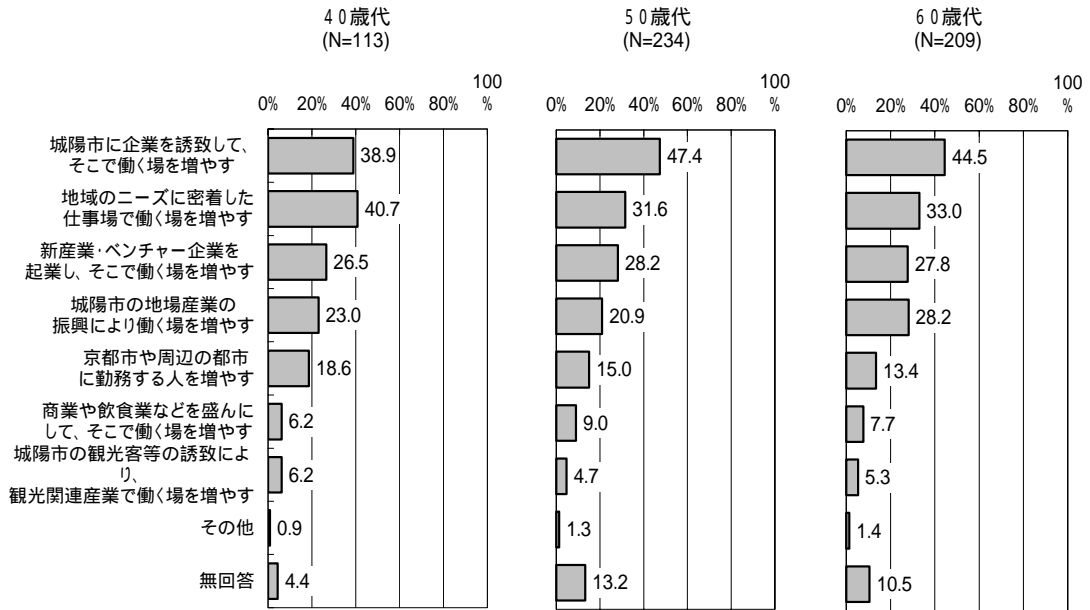
全体では、「城陽市に企業を誘致して、そこで働く場を増やす」が42.5%、「地域内のニーズに密着した仕事場で働く場を増やす」が33.8%、「新産業・ベンチャー企業等を起業し、そこで働く場を増やす」が23.8%となっている。

年齢別では、20歳代、50歳代、60歳代、70歳以上では「城陽市に企業を誘致して、そこで働く場を増やす」が最も多くなっているが、30歳代、40歳代では「地域内のニーズに密着した仕事場で働く場を増やす」が最も多くなっている。また、20歳代では「京都市や周辺の都市に勤務する人を増やす」の割合が、他の年齢層と比較して高くなっており、他の年齢層と異なる傾向を示している。

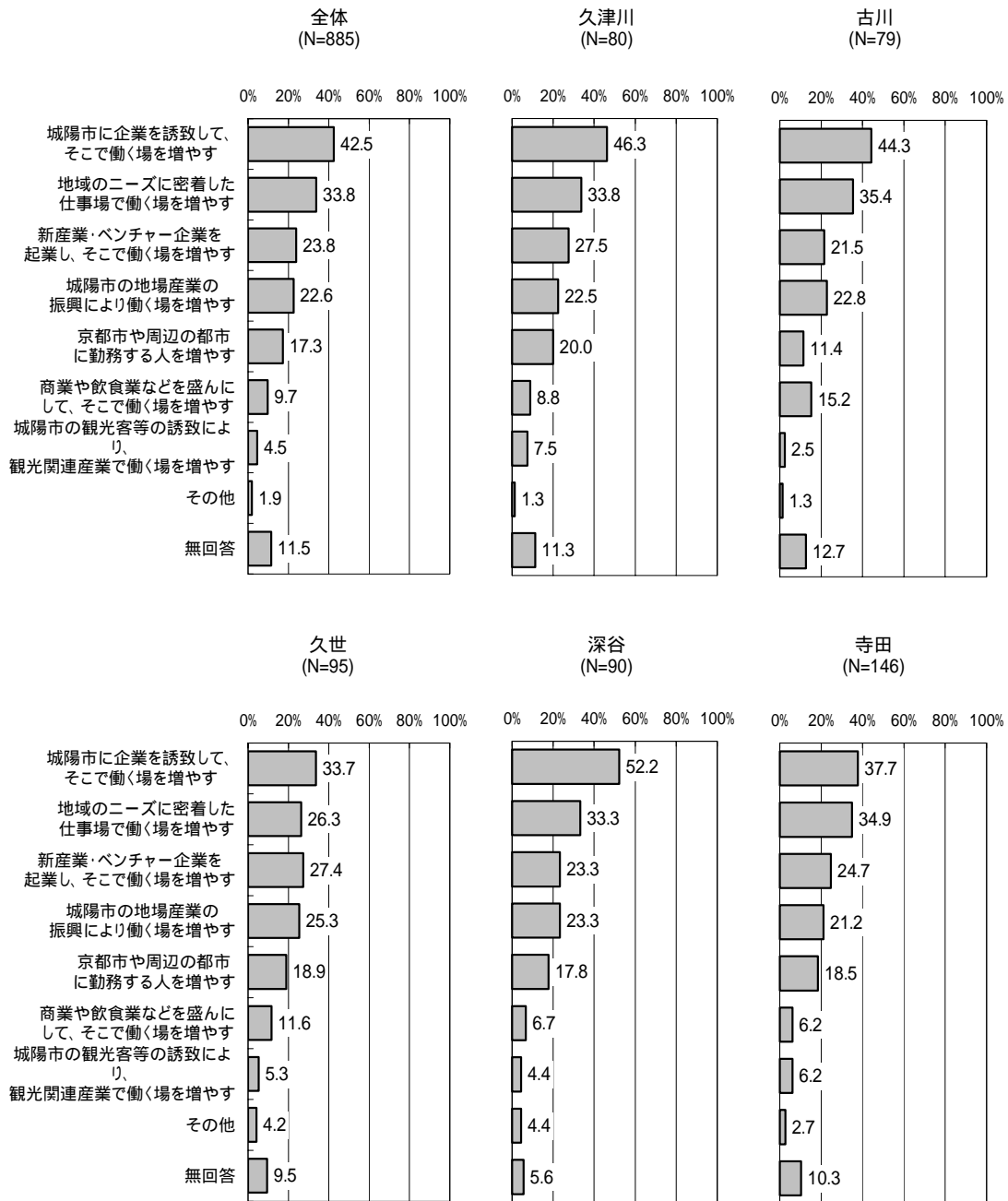
地域別では、大きな違いは見られないが、富野で「城陽市の地場産業の振興により働く場を増やす」が他の地域と比較して高くなっている。

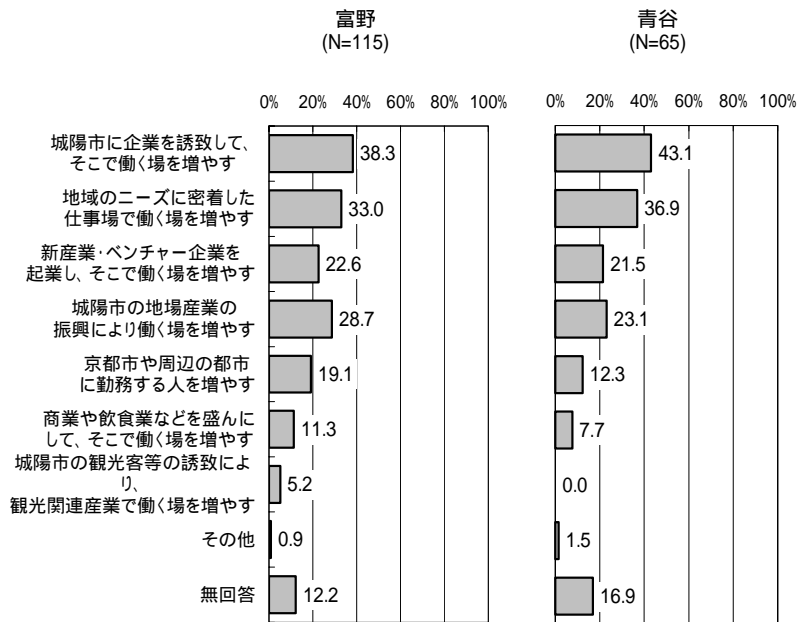
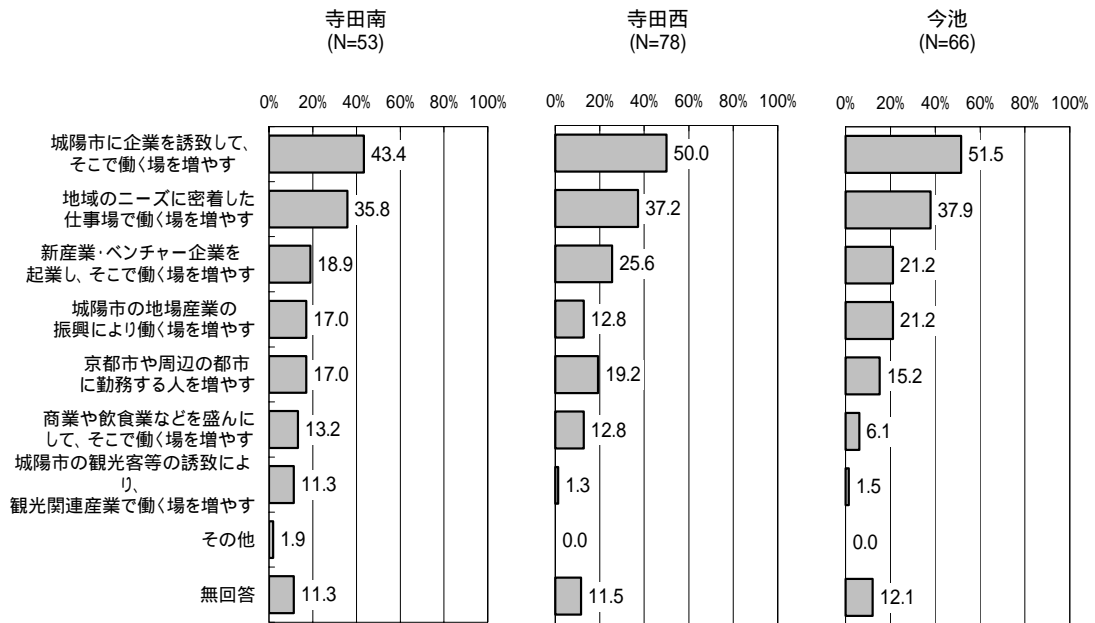
< 年齢別 >





< 地域別 >



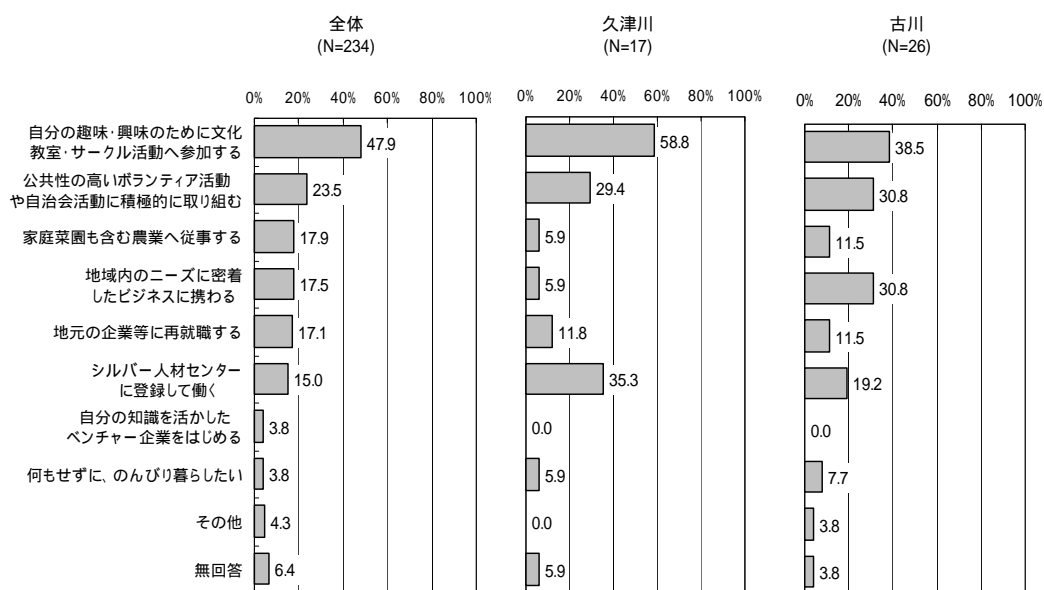


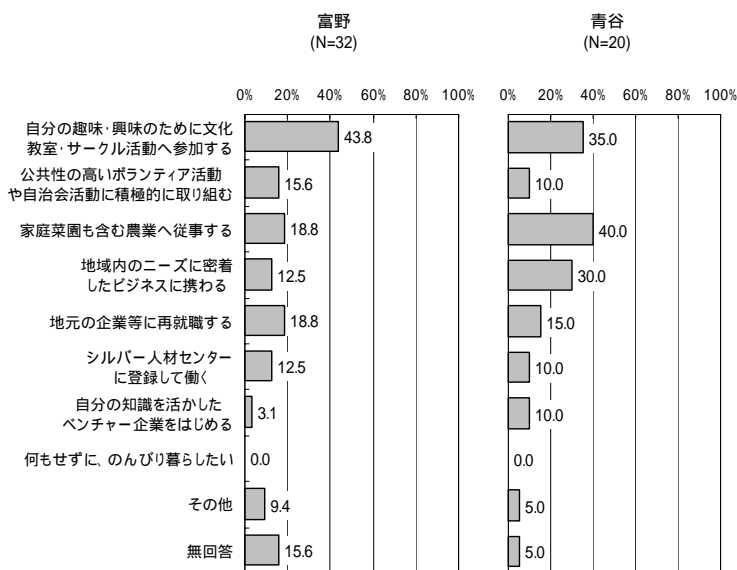
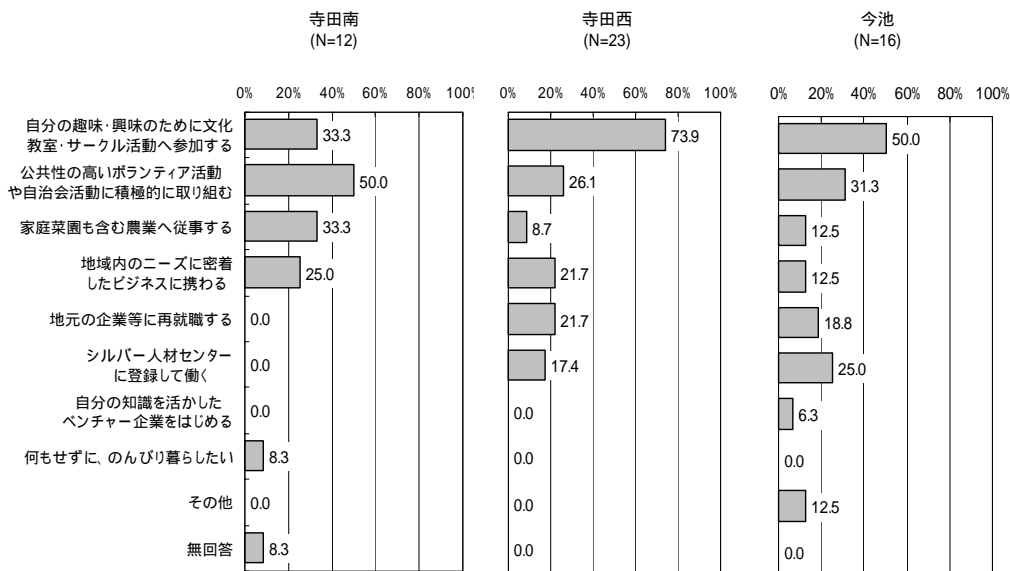
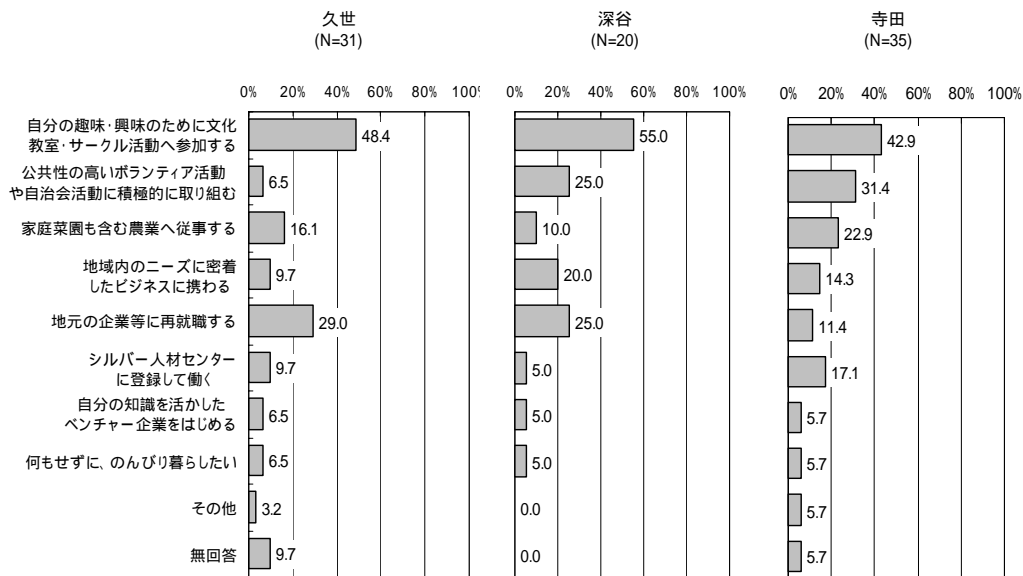
.50 歳代の活動について

(1) 今後、日本では「団塊」と呼ばれる世代が定年退職を迎えます。そこで、長年培った経験と知識を生かした社会貢献として、現役を退かれる多くの方々の活躍が期待されています。城陽市においても、大勢の「団塊世代」が数年の間に定年を迎えることが予想されています。その人材の力は、今後の城陽市の活力維持にとって非常に重要であると考えています。あなたは、定年を迎えた後に（既に定年している方も含め）、どのような活動に取り組んでみたいですか。あてはまるものに2つ以内で をつけてください。

全体では、「自分の趣味・興味のために文化教室・サークル活動へ参加する」が 47.9%で最も多く、次に「公共性の高いボランティア活動や自治会活動に積極的に取り組む」が 23.5%となっている。

地域別では、寺田南、青谷以外は「自分の趣味・興味のために文化教室・サークル活動へ参加する」が最も多くなっており、寺田南では「公共性の高いボランティア活動や自治会活動に積極的に取り組む」、青谷では「家庭菜園も含む農業へ従事する」が最も多い。

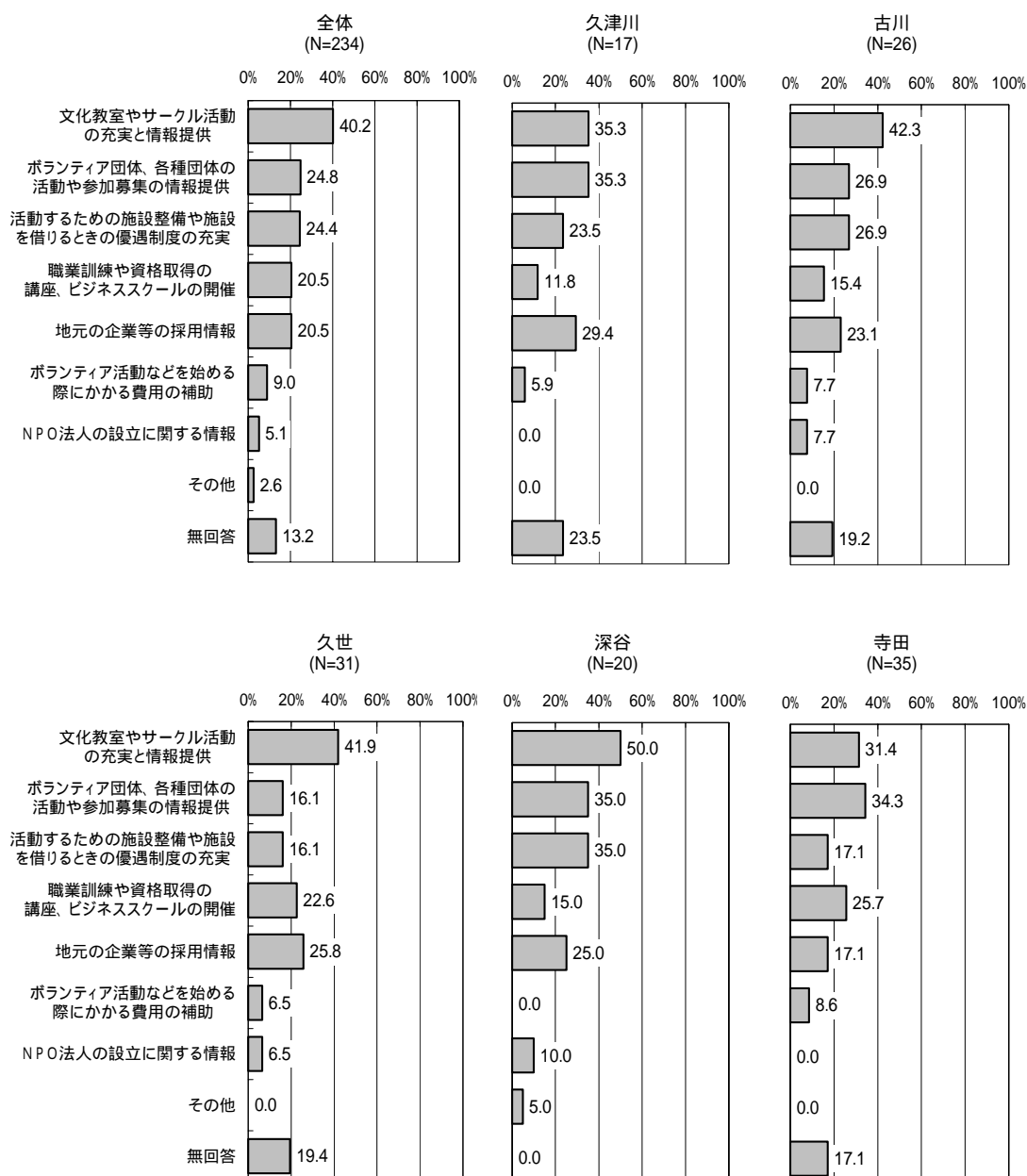


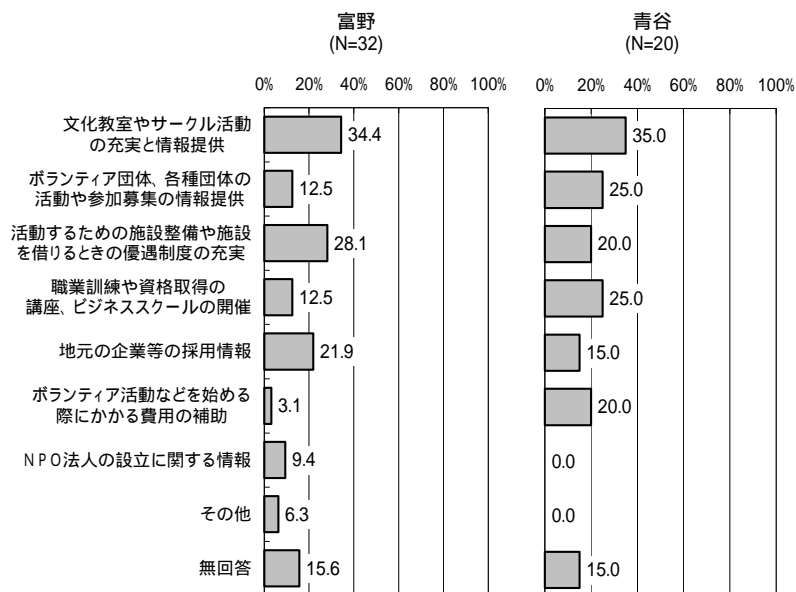
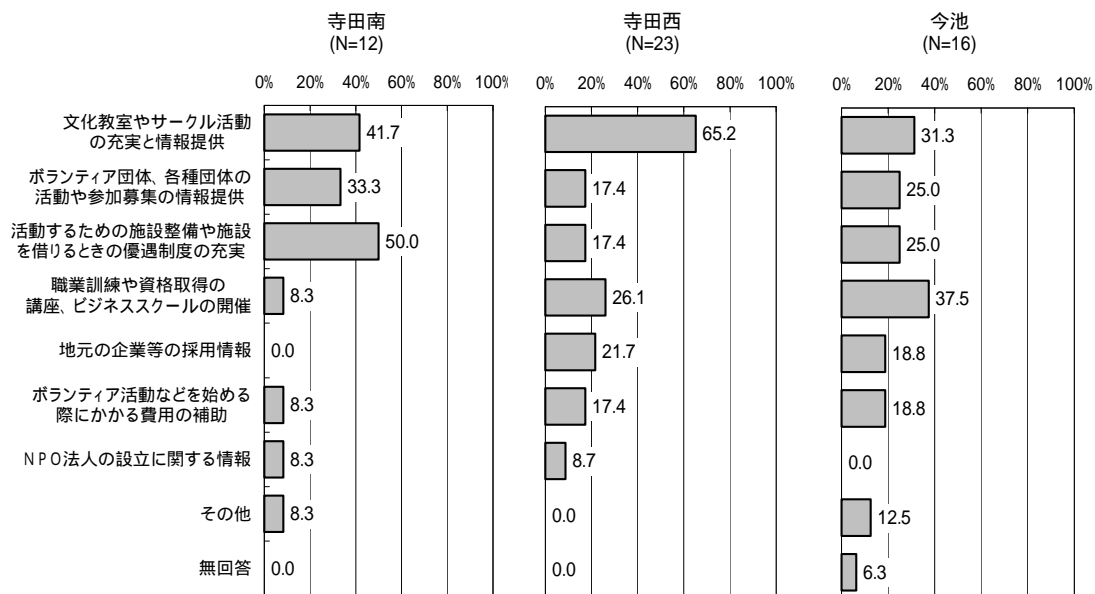


(2) その活動に取り組んでいくためには、行政からどのような支援があればよいと思いますか。あてはまるものに2つ以内でをつけてください。

全体では、「文化教室やサークル活動の充実と情報提供」が40.2%、「ボランティア団体、各種団体の活動や参加募集の情報提供」が24.8%、「活動するための施設整備や施設を借りるときの優遇制度の充実」が24.4%となっている。

地域別では、寺田、寺田南、今池以外は「文化教室やサークル活動の充実と情報提供」が最も多く、寺田では「ボランティア団体、各種団体の活動や参加募集の情報提供」、寺田南では「活動するための施設整備や施設を借りるときの優遇制度の充実」、今池では「職業訓練や資格取得の講座、ビジネススクールの開催」が最も多くなっている。





・自由意見

自由意見記入者数

自由意見は 240 人が記入しており、アンケートの有効回収数（885 票）に対し、27.1%の記入率となっている。

自由意見の項目と意見数

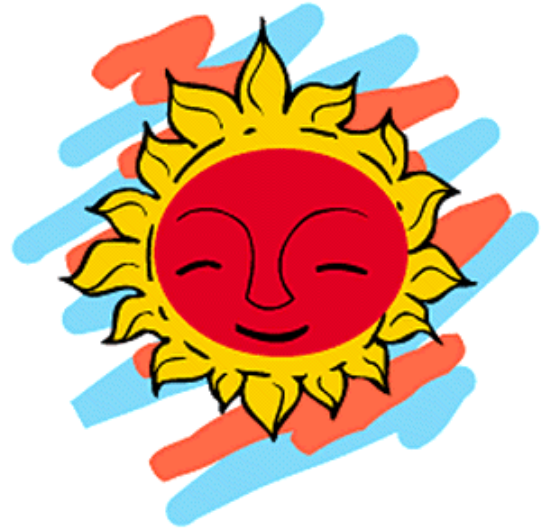
意見については、1人が複数の項目に関する意見を記入するケースがあるため、件数としては約 357 件となる。

最も多い意見の項目は、「行財政運営」に関するもので 54 件、次いで「道路」に関するものが 47 件、「まちづくり全般」「福祉・医療・保健」に関するものが、それぞれ 25 件となっている。

<自由意見の項目と件数>

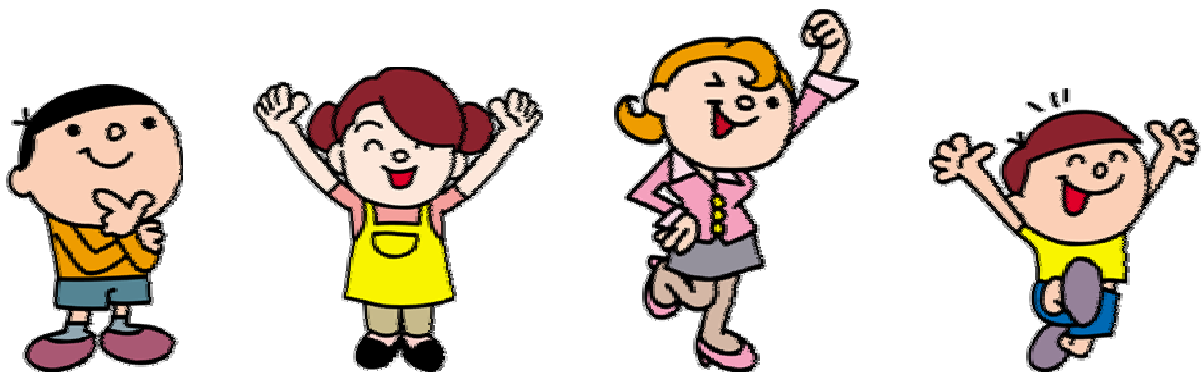
意見項目	件数
行財政運営	54
道路	47
まちづくり全般	35
公共交通	25
福祉・医療・保健	25
環境・美化、緑化	22
商工業	16
公共施設	12
教育	12
交通安全対策	11
コミュニティ	8
防犯・防災	7
公園	6
住宅	5
上下水道	5
景観	5
歴史・文化	5
スポーツ	4
生涯学習	3
河川環境	2
農業	0
その他	48
総計	357

資料
アンケート調査票



あなたの想いを未来の城陽へ

まちづくり市民アンケートに
ご協力をお願いします



アンケートへのご協力をお願い

本市では、平成 6 年に第 2 次城陽市総合計画を策定し、「緑と太陽、やすらぎのまち・城陽」をめざすべき都市像に、計画を推進してまいりました。

この間、本市を取り巻く環境は少子高齢化の進行や情報化社会の到来、地方分権の進展など、社会経済情勢が大きく変化し、さらに人口減少や長引く景気低迷の影響などにより都市構造や行財政構造などに変化が生じております。

このため、将来的な視点と展望に立った新たな総合計画（(仮称)第 3 次城陽市総合計画）の策定に着手いたしました。

このアンケートは、市民の皆さんの意識やまちづくりに対する意向などを調査させていただき、新たな総合計画策定の基礎資料として活用することを目的に実施するものです。

本調査の趣旨をご理解いただき、設問数が多く恐縮ですが、ご協力いただきま
すようよろしくお願いいたします。

平成 17 年（2005 年）10 月

城陽市長 橋 本 昭 男

ご記入にあたって

1. このアンケートのご回答は、原則として封筒の宛名ご本人にお願いします。
2. ご回答は、特に指定のない場合は設問ごとにあてはまるものの番号に 印をつけていただくようになっています。また、「その他」にあてはまる場合は、その内容を（ ）内に具体的にご記入ください。
3. ご記入いただいたアンケート票は、同封の返信用封筒に入れ、無記名のまま切手を貼らず、平成17年10月31日(月)までにご投函ください。

なお、このアンケートの対象となられる方は、平成17年(2005年)10月1日現在、市内にお住まいの20歳以上の方の中から2,000人を無作為に抽出し、選ばせていただきました。

ご記入いただいた内容は統計的に処理して利用させていただきます。また、市政運営以外の目的で使用することはありません。



このアンケート調査についてのお問い合わせは、下記までお願いいたします

城陽市役所 市長公室 政策推進課 電話0774(56)4014

・あなたご自身のことについておたずねします

(1) あなたの性別は。

1. 男性

2. 女性

(2) あなたのお年は。

1. 20 歳代

2. 30 歳代

3. 40 歳代

4. 50 歳代

5. 60 歳代

6. 70 歳以上

(3) あなたの職業は。

1. 会社員、会社役員、公務員

2. パートタイマー、内職

3. 自営業

4. 農林漁業

5. 専業主婦

6. 学生

7. 無職（専業主婦・学生を除く）

8. その他（具体的に：

）

(4) あなたは城陽市にお住みになって何年になりますか。

1. 3 年未満

2. 3 年以上 10 年未満

3. 10 年以上 15 年未満

4. 15 年以上 30 年未満

5. 30 年以上

6. 生まれてからずっと

(5) あなたのお住まいは。

1. 持ち家

2. 民営の賃貸住宅（一戸建または長屋建）

3. 民営の賃貸住宅（マンションなどの共同住宅）

4. 公営の賃貸住宅

5. 給与住宅（社宅・寮など）

6. その他（具体的に：

）

(6) あなたのお住まいの小学校区は。

1. 久津川

2. 古川

3. 久世

4. 深谷

5. 寺田

6. 寺田南

7. 寺田西

8. 今池

9. 富野

10. 青谷

・城陽市のことについておたずねします

(1) あなたは城陽市を住みよいと感じておられますか。

1. 住みよい

2. どちらかといえば住みよい

3. どちらかといえば住みにくい

4. 住みにくい

5. わからない

(2) 城陽市のどのような所に魅力を感じられますか。あてはまるものに 2つ以内 をつけてください。

- | | |
|------------------------|------------------------|
| 1. 自然環境に恵まれている | 2. 歴史的な建造物や史跡が多く存在している |
| 3. 梅、花しょうぶなどの誇れる特産品がある | 4. 住宅地として住みやすい |
| 5. 通勤・通学・買物などが便利である | 6. コミュニティ施策が進んでいる |
| 7. 文化・スポーツ活動が盛んである | 8. その他（具体的に： _____） |

(3) あなたは城陽市に「ふるさと」であるといった感じをお持ちですか。

- | | | |
|------------------|-------------------|----------|
| 1. 「ふるさと」感を持っている | 2. 「ふるさと」感を持っていない | 3. わからない |
|------------------|-------------------|----------|

(4) あなたは今後も現在のところに住みつづけたいと思われませんか。

- | |
|-------------------------------------|
| 1. 現在のところにずっと住みつづけたい |
| 2. 市内のどこか適当なところへ移りたい…………… (4) - 1 へ |
| 3. 市外へ移りたい…………… (4) - 1 へ |
| 4. どちらともいえない |

(4) - 1 「2 または 3 (移りたい)」と回答された方におたずねします。移りたい理由は何ですか。あてはまるものに 2つ以内 をつけてください。

- | | |
|--------------------|----------------------|
| 1. 家が古い、設備が悪い | 2. 家が狭い |
| 3. 家賃が高い、ローンの返済が困難 | 4. 騒音などの公害・日当たりが悪いなど |
| 5. 周辺の自然環境が悪い | 6. 周辺の都市施設の整備が悪い |
| 7. 交通が不便 | 8. 通勤に時間がかかる |
| 9. 買物が不便 | 10. 近所づきあいがうまくいかない |
| 11. 治安が悪い | 12. その他（具体的に： _____） |

・今後の公共的なサービス提供のあり方についておたずねします

(1) 近年の地方自治体財政は長引く不況により、税収の減少など大幅な財源不足を生じ、危機的な状況を迎えています。市民ニーズは多様化、高度化、複雑化し、行政が担う業務がますます増加してきています。

今後の公共的なサービス提供のあり方として、市民の「受けたサービスと費用負担」の関係から、次のうちの項目が望ましいとお考えですか。あてはまるものに 1つだけ をつけてください。

- | |
|---|
| 1. 税や社会保険料等の市民負担を大きく増やして、行政が提供するサービスを拡大する。 |
| 2. 税や社会保険料等の市民負担を少し増やして、行政が提供するサービスを維持する。 |
| 3. 税や社会保険料等の市民負担は現状水準を維持するが、行政から受けられるサービスの減少分は、市民の助け合いや、別にお金を払って NPO (注 1)・企業などの提供するサービスを利用できるようにする。 |
| 4. 税や社会保険料等の市民負担はできるだけ軽減し、行政が提供するサービスは必要最低限とし、それを超える部分については、市民の助け合いや、別にお金を払って NPO・企業などの提供するサービスを利用できるようにする。 |
| 5. その他（具体的に： _____） |

注 1：福祉や環境、まちづくりなどのあらゆる分野で活動する市民活動団体などで、行政のような公的な組織ではなく株式会社のような営利を目的とする組織でもないもの

・城陽市における施策についておたずねします

(1) 城陽市における現在の取り組みについてご存知ですか(現在の認知度)。また、その取り組みの現状はどうですか(現在の満足度)。そして、そのことが今後どの程度重要であると思いますか(今後の重要度)。あなたの生活実感やイメージに基づいて、あなたのお考えに最も近い番号をそれぞれ1つ選んでをつけてください。

環境を生かした秩序あるまちづくり

設問項目 認知度・満足度・重要度 それぞれ1つを選択		現在の認知度			現在の満足度					今後の重要度				
		知っている	少し知っている	知らない	満足している	どちらかといえば満足している	ふつう	やや不満である	不満である	重要である	やや重要である	ふつう	あまり重要ではない	重要ではない
(記入例)	(記入例) 取り組み	1	2	3	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
	(記入例) 取り組み	1	2	3	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
(1)	土地区画整理事業や駅前整備、山砂利採取地域の跡地整備などの市街地整備に関する取り組み	1	2	3	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
(2)	公園・緑地の整備、緑のネットワーク形成に関する取り組み	1	2	3	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
(3)	鉄道やバスなどの公共交通体系に関する取り組み	1	2	3	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
(4)	第二名神高速道路や国道・府道・市道などの道路網の整備促進に関する取り組み	1	2	3	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
(5)	河川や都市下水路などの浸水防除・環境対策に関する取り組み	1	2	3	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
(6)	水の安定供給や下水道の整備に関する取り組み	1	2	3	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
(7)	電力・ガスの安定供給の維持や省エネに関する取り組み	1	2	3	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
(8)	情報・通信基盤の整備促進等に関する取り組み	1	2	3	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5

快適、安全で住みよいまちづくり

設問項目 認知度・満足度・重要度 それぞれ1つを選択		現在の認知度			現在の満足度					今後の重要度				
		知っている	少し知っている	知らない	満足している	どちらかといえば満足している	ふつう	やや不満である	不満である	重要である	やや重要である	ふつう	あまり重要ではない	重要ではない
(9)	良好な都市景観の形成に関する取り組み	1	2	3	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
(10)	宅地供給、公的住宅の整備など住環境改善に関する取り組み	1	2	3	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
(11)	交通安全対策や犯罪抑止、防犯対策の強化に関する取り組み	1	2	3	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5

認知度・満足度・重要度 それぞれ1つを選択 設問項目		現在の認知度			現在の満足度					今後の重要度				
		知っている	少し知っている	知らない	満足している	どちらかといえば満足している	ふつう	やや不満である	不満である	重要である	やや重要である	ふつう	あまり重要ではない	重要ではない
(12)	コミュニティセンターの整備など自主的なまちづくり、地域づくりを支援する取り組み	1	2	3	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
(13)	自然災害への備えなどの防災や消防に関する取り組み	1	2	3	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
(14)	ごみの減量化や環境美化運動などの環境衛生に関する取り組み	1	2	3	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
(15)	地球温暖化防止や公害対策など環境全般に関する取り組み	1	2	3	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
(16)	葬祭場や墓地、火葬料補助に関する取り組み	1	2	3	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5

みんなで築く福祉のまちづくり

認知度・満足度・重要度 それぞれ1つを選択 設問項目		現在の認知度			現在の満足度					今後の重要度				
		知っている	少し知っている	知らない	満足している	どちらかといえば満足している	ふつう	やや不満である	不満である	重要である	やや重要である	ふつう	あまり重要ではない	重要ではない
(17)	身近な地域で安心した生活ができるサービスを提供する地域福祉に関する取り組み	1	2	3	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
(18)	高齢者の健康づくりや生きがいづくり、介護・福祉サービスに関する取り組み	1	2	3	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
(19)	障害者（児）の就労支援や福祉サービス提供などに関する取り組み	1	2	3	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
(20)	保育サービスや子育て相談の充実など子育て支援に関する取り組み	1	2	3	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
(21)	生活困窮者やひとり親家庭への経済的支援や就労支援などに関する取り組み	1	2	3	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
(22)	男女共同参画社会の実現に関する取り組み	1	2	3	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
(23)	労働環境の改善など勤労者施策の充実に関する取り組み	1	2	3	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
(24)	消費者保護に関する取り組み	1	2	3	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
(25)	健康保険や年金制度の普及、生活設計に関する啓発など住民自身の備えを促す取り組み	1	2	3	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
(26)	健康診断や病気予防など健康づくり対策や身近な医療環境充実にに関する取り組み	1	2	3	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5

健やかな心身、豊かな文化をはぐくむまちづくり

設問項目 認知度・満足度・重要度 それぞれ1つを選択		現在の認知度			現在の満足度					今後の重要度				
		知っている	少し知っている	知らない	満足している	どちらかといえば満足している	ふつう	やや不満である	不満である	重要である	やや重要である	ふつう	あまり重要ではない	重要ではない
(27)	すべての学習を総合的に推進する生涯学習の充実に関する取り組み	1	2	3	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
(28)	幼稚園における幼児教育の充実に関する取り組み	1	2	3	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
(29)	市内の小中学校、高等学校の教育環境の充実に関する取り組み	1	2	3	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
(30)	特別支援教育（障害児教育）に関する取り組み	1	2	3	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
(31)	学習活動や図書館の整備など社会教育の充実に関する取り組み	1	2	3	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
(32)	スポーツ、レクリエーション活動の充実に関する取り組み	1	2	3	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
(33)	青少年の健全育成に関する取り組み	1	2	3	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
(34)	芸術や地域文化の継承・振興に関する取り組み	1	2	3	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
(35)	歴史的遺産や文化財の保存・活用に関する取り組み	1	2	3	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5

くらしを高め、地域の産業を育てるまちづくり

設問項目 認知度・満足度・重要度 それぞれ1つを選択		現在の認知度			現在の満足度					今後の重要度				
		知っている	少し知っている	知らない	満足している	どちらかといえば満足している	ふつう	やや不満である	不満である	重要である	やや重要である	ふつう	あまり重要ではない	重要ではない
(36)	農林業の育成・支援に関する取り組み	1	2	3	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
(37)	工業の育成・支援に関する取り組み	1	2	3	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
(38)	商業・サービス業の育成・支援に関する取り組み	1	2	3	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
(39)	観光資源の活用・整備、観光客の受け入れ体制の充実に関する取り組み	1	2	3	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5

市民と一体となったまちづくりの推進に向けて

設問項目 認知度・満足度・重要度 それぞれ1つを選択		現在の認知度			現在の満足度					今後の重要度				
		知っている	少し知っている	知らない	満足している	どちらかといえば満足している	ふつう	やや不満である	不満である	重要である	やや重要である	ふつう	あまり重要ではない	重要ではない
(40)	人権問題、世界平和の教育・啓発活動に関する取り組み	1	2	3	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
(41)	国際交流に関する取り組み	1	2	3	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
(42)	まちづくりや行政への市民参加の促進に関する取り組み	1	2	3	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
(43)	市行政の効率化、サービス向上などの行政運営の改善に関する取り組み	1	2	3	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
(44)	健全な財政運営に関する取り組み	1	2	3	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
(45)	周辺市町村との連携強化など広域行政に関する取り組み	1	2	3	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5

・今後の市政運営への市民参画のあり方、地域活動についておたずねします

(1) これからの市政への参加に対するあなたのお考えはどうでしょうか。あてはまるものに1つだけをつけてください。

1. 自主的にグループをつくり、積極的に市政に対して提言したい。
2. 自主的に個々のレベルで協力したい。
3. インターネットやアンケート等によって意見を述べたい。
4. 市長との懇談会、対話集会等に参加したい。
5. まちづくりは行政や議会にまかせる。
6. 関心がない。
7. その他（具体的に： _____）

(2) 今後の市政運営にかかる情報提供について、どのような取り組みを強化すべきと考えますか。特に重要と考えるものに2つ以内をつけてください。

1. 住民説明会など、重要事項に関する直接的な対話機会を充実する。
2. シンポジウムなど、興味を持てるような交流イベントの開催機会を充実する。
3. 市長によるタウンミーティングや住民との懇談会など、気軽に対話ができる機会を充実する。
4. 市の広報誌、回覧板等による情報提供の充実を図る。
5. 市のホームページによる情報提供の充実を図る。
6. ラジオやテレビ等による情報提供の充実を図る。
7. 今のままでよい。
8. その他（具体的に： _____）

(3) 市民と行政の協働によるまちづくりが求められる中、今後行政が果たすべき役割（特に人材や財源の使い方）に関し、(1)～(3)それぞれについて、あなたの考え方に近いものを1～4の中からそれぞれ1つ選んでをつけてください。

	A	Aに近い	ややAに近い	ややBに近い	Bに近い	B
(1)	市民による地域活動等について、一律に支援するのではなく、積極的な団体や活動に対する支援を中心に力を注ぐべき	1	2	3	4	特定の団体や地域にかたよらずに、市民を広く支援するよう、公平性を重視して行うべき
(2)	民間にできるサービスはできるだけ民間にまかせ、行政はできるだけスリム化を図るべき	1	2	3	4	民間にできるサービスであっても、採算性の低いサービスが切り捨てられる恐れがあるため、できるだけ行政が行うべき
(3)	身近な公共空間の美化など、個人や地域住民で行えることは、できるだけ行政が関与すべきでない	1	2	3	4	我々市民は税金を払っているわけだから、公共空間の美化等に関するサービスは行政が責任をもって実施すべき

(4) お住まいの地域あるいは城陽市内における、あなたの地域活動についておたずねします。あてはまるものにすべてをつけてください。

活動分野	活動内容	取り組んでいる活動	取り組みたい活動
(記入例)	を する活動		
	や への参加		
自然・環境	(1) 森林や河川の美化、動植物の保護などの自然環境保全活動		
	(2) 地球温暖化防止や省エネ・リサイクル活動		
	(3) 植栽、まち並み保存などの美しい景観づくり		
防災・安全	(4) 地域の見まわりなどの防犯活動		
	(5) 自主的な避難訓練などの災害に備えた活動		
都市・まち	(6) 身近な地域の公園や道、河川などの維持管理・美化活動		
福祉・健康	(7) 高齢者への家事支援や見守りなどの福祉サービスの提供		
	(8) 健康づくり教室の開催や食の安全の啓発活動		
	(9) 障害者の自立支援活動		
	(10) 「ファミリー・サポート・センター」登録による子どもの一時預かりなど、子育て支援の活動		
教育・文化・人権	(11) 自分の知識・技術を伝える生涯学習講座の開催・支援		
	(12) 文化・スポーツなどの地域活動支援		
	(13) 地域の文化・伝統を、保存・継承する活動		
	(14) 地域のイベント・祭りなどの開催・参加		
産業	(15) 観光ボランティアなどの観光振興		
	(16) 地元の素材を活かした特産品づくりや販売		
	(17) 空き店舗の活用などの地元商業の活性化		
	(18) 自分の知識・技術を活かした起業		
地域経営	(19) 市内のボランティア団体や NPO 法人などの住民活動団体に対する活動支援		
	(20) 子ども会、高齢者クラブ、自治会活動等への積極的な参加		
	(21) 計画づくりに対する提言など、行政への積極的な参加		
その他	(22) その他（具体的に)		

・若年層の定住化対策についておたずねします

- (1) 今後、活力ある城陽市を維持していくためには、次代を担う若年層の定住を促進していくことが必要不可欠と考えられます。城陽市における定住促進対策として、特にどのような施策を強化していく必要があると思われますか。あてはまるものに **2つ以内で** をつけてください。

- | |
|---|
| 1. 青少年の健全育成に向けての教育環境の充実 |
| 2. 女性が働ける環境づくりや子育て支援環境の充実 |
| 3. 若い人やファミリー世帯向けの良質な住宅の供給 |
| 4. 地場産業や新たな産業振興による雇用の受け皿づくりや、ベンチャー企業(注2)などの起業支援 |
| 5. 公園や緑地など身近な憩いの場の充実 |
| 6. 買い物・遊びなどの賑わいある空間づくり |
| 7. 様々な交流やコミュニティ活動が活発に行われるような環境づくり |
| 8. 通勤や通学に便利な交通体系の充実 |
| 9. その他(具体的に: _____) |

注2: 新技術や高度な知識を軸に、大企業では実施しにくい創造的・革新的な経営を展開する小企業

- (2) 若者の定住を促進するためにも、働く場を確保する必要がありますが、その手段として、望ましいものは次のうちどの項目ですか。あてはまるものに **2つ以内で** をつけてください。

- | |
|---|
| 1. 城陽市の地場産業の振興により働く場を増やす。 |
| 2. 地域内のニーズに密着した仕事場(配食、介護、育児、教育、リサイクルなどの身近なサービス提供をするビジネス)で働く場を増やす。 |
| 3. 城陽市に企業を誘致して、そこで働く場を増やす。 |
| 4. 商業や飲食業などを盛んにして、そこで働く場を増やす。 |
| 5. 城陽市への観光客等の誘致により、観光関連産業で働く場を増やす。 |
| 6. 新産業・ベンチャー企業等を起業し、そこで働く場を増やす。 |
| 7. 京都市や周辺の都市に勤務する人を増やす。 |
| 8. その他(具体的に: _____) |

・自由意見

城陽市のまちづくりについて、ご意見・ご提案がありましたら、下の空欄にご自由にお書きください。

以上、ご協力ありがとうございました。

50歳代の方は、次のページの設問についてもご記入いただきますようお願いいたします。

附 . 50 歳代の方におたずねします

- (1) 今後、日本では「団塊」と呼ばれる世代が定年退職を迎えます。そこで、長年培った経験と知識を生かした社会貢献として、現役を退かれる多くの方々の活躍が期待されています。

城陽市においても、大勢の「団塊世代」が数年の間に定年を迎えることが予想されています。その人材の力は、今後の城陽市の活力維持にとって非常に重要であると考えています。あなたは、定年を迎えた後に（既に定年している方も含め）どのような活動に取り組んでみたいですか。あてはまるものに2つ以内をつけてください。

1. 公共性の高いボランティア活動や自治会活動に積極的に取り組む。
2. 地域内のニーズに密着したビジネス（配食、介護、育児、教育、リサイクルなどの身近なサービスの提供）に携わる。
3. 地元の企業等に再就職する。
4. 自分の知識を生かしたベンチャー企業をはじめめる。
5. シルバー人材センターに登録して働く。
6. 家庭菜園も含む農業へ従事する。
7. 自分の趣味・興味のために文化教室・サークル活動へ参加する。
8. 何もせずに、のんびりと暮らしたい。
9. その他（具体的に： _____)

- (2) その活動に取り組んでいくためには、行政からどのような支援があればよいと思いますか。あてはまるものに2つ以内をつけてください。

1. ボランティア団体、各種団体の活動や参加募集の情報提供
2. NPO 法人の設立に関する情報
3. 職業訓練や資格取得の講座、ビジネススクールの開催
4. ボランティア活動や地域内のニーズに密着したビジネスを始める際にかかる費用の補助
5. 活動するための施設整備や施設を借りるときの優遇制度の充実
6. 地元の企業等の採用情報
7. 文化教室やサークル活動の充実と情報提供
8. その他（具体的に： _____)

